

醫學博士吳秀三著

第二集

精神病鑑定例

明治

39 9 1

丙午

太皞庵藏梓

精神病鑑定例第二集目次

- 第十一例 早發癡狂 禁治產
- 第十二例 慢性酒精中毒狂 酒酗發作 一時性譫妄狀態
妻ニ負傷 下女ノ毆打 概括的追想 病症ノ
誇張即佯狂 不論罪
- 第十三例 早發癡狂 平素異常舉動 母親ヲ扼喉刃殺
兇行後自殺企圖 無期徒刑(?)
- 第十四例 臟躁症(即歇私希里症)ニ基ク精神障礙(憂鬱昏迷
朦朧症) 盜賊ト結婚 分娩 嬰兒殺害 追想
不十分 不論罪
- 第十五例 白癡 龜背 外傷性足畸形 酒客 慾心喧嘩
小怨等小故ニ基ク頻回ノ放火 不論罪
- 第十六例 精神異常 他人殺害及加傷 睡眠後酩酊狀態
ノ伴稱 重罪公判ニ附セラル

- 第十七例 麻痺狂？ 酒客 發病後某銀行ノ手形振出
某銀行ノ該當金額請求 控訴 手形無效
- 第十八例 發揚狂 輕舉遊蕩 禁治產
- 第十九例 白癡 他人ノ騷擾ヲ愉快トシ又煖氣ヲ取ル爲
ニセル數回ノ放火 不論罪
- 第二十例 早發癡狂 被害妄想 之ニ基ク妻子及妻ノ母
及妹ノ殺害企圖 兇行後症狀ノ輕快 虛偽相
半ノ陳述 佯狂ノ疑問 不論罪
- 第二十一例 隣家脅迫 妻ノ縊殺 被害妄想及ビ幻聽ニ類
シタル事實 巡查醫師ノ精神病認定 本人ノ
性癖 親子不和 妻ノ素行 既往及ビ現時精
神病徵候ノ缺無 重罪公判ニ附ス
- 第二十二例 精神無異常 神經病質ニヨル是非辨別力ノ減
殺 夫ニ叱責セラレテ自宅放火 重罪公判

精神病鑑定例

第二集

醫學博士 吳 秀 三 著

第十一例

○邊○之助ノ精神狀態鑑定書

明治三十六年三月十四日○區裁判所判事○市○ハ○○○○○病院ニ臨ミ其在院ノ患者ノ○邊○之助
ガ禁治產被申立人タルニ付キ之ニ關シ左ノ事項ノ鑑定ヲ余ニ命ジタリ
被申立人○邊○之助ハ心神喪失ノ常況ニ在リヤ否ヤ
由テ之ヲ檢診シテ鑑定書ヲ作ルコト左ノ如シ

○○市○○區○○町○○番地

被申立人 ○ ○ ○ ○ 之 助

文久三年十二月生

(甲) 遺傳歴

本人ノ父ハ大酒家ニシテ六十六歳ノ片胃病ニテ死シ
母モ亦大酒家ニシテ同ク胃病ニテ死シ

内祖父ハ風邪ニテ死シ内祖母ハ六十歳以上ニテ病名不詳死
外祖父ハ大酒家ニシテ中風ニテ死シ外祖母ハ四十二歳ノキ肺病(?)ニテ死セリ
本人ノ兄弟(本人ヲ加ヘ)十一人アリ兄一人ハ健在シ一人ハ癡患ニシテ業ヲナス能ハズ弟一人ハ健在シ
一人ハ死セリ姉三人アリ其一人ハ二十年來僕麻質斯ニテ打臥シ居リ一人ハ胃病ヲ患ヒ居リ又一人ハ四
十七歳ニテ胃病ニテ死ス其他ノモノハ詳ナラズ

(乙) 既往歴

破産期ニ於テ少シク放蕩ナリシヲアリ
十八九歳ノキ奉公先(反物商)ノ金子四百圓許ヲ遊盪ノ爲ニ消費セシヲアリ
二十二歳ヨリ内務省ノ雇小使トナリ堅氣ニ奉仕セリ平素酒ヲ飲ムコトナキモ時々大酒スルコトアリテ其
時ハ一升又ハ一升五合ニ及ブ
二十七歳ノキ(明治二十四年)三月結婚セシガ其四月發狂セシタメ離婚セリ
性質ハ横着ナルモ人ト争フコトナドアリテモ直ニ之ト論争セズ黙シナカラニ憤ル方ナリ
智力ノ發達ハ尋常ナリ
既往ニ於ケル疾病ヲ調ブルニ二歳ノキ熱湯ヲアビ頭及ビ背ニ火傷シ一時氣絶セリ七八歳ノキ誤テ二階
ヨリ落ちテ頭ヲ打チシコトアルモ此片ハ氣ヲ失ハザリキ
小兒時ヨリ頭痛ニ悩ムコト多カリシ

成年ニ及ビ痲疾ノ他著キ疾病ニ罹リシコトナシ
精神病ノ初メテ發センハ明治二十四年四月ナルガ其前ノ年ヨリ役所ニ於テ朋輩ト爭論スルコトアリ或ハ
養母ニ對シ忿怒スルコト多ク養母モ之ガ爲ニ成ルベク口ヲキカズ逆ハヌ様ニセシト云ヒ明治二十三年十
月右養母ノ死去セン時ナド憂鬱甚シクシテ常ヲ失ヘリト云フ二十四年四月ヨリ飲酒多クナリ頭痛ヲ訴
ヘシヲ初トシ往來ニ出ツレハ人ガ己ノ面ヲ見テ謗ルガ如キ様ヲナスト云ヒ家ニアリテハ耳ノ旁ニ來リ
テ我事ヲ惡様ニ言ヒ居ルモノアリト稱シ憂閉シテ獨リ居リ多ク或時ハ出刃ヲ以テ女房ヲ殺サント
云ヒ或時ハ夜中ニ自殺セント主張シ或ハ外出シテ大川ヘ飛込マントシ人ニ助けラレテ歸宅セシコトモ
アリ

明治二十四年六月四日〇〇〇〇病院ニ入り(第一回)八月三日不治退院シ

明治二十六年三月十一日第二回入院シ三月十五日不治退院シ

其八月頃内務省ニ雇ハレテ小使トナリシカ二十七年六月頃ヨリ感情鈍麻シ知覺遲鈍トナリテ職務ニ從
事スルコト能ハズ二十八年八月頃遂ニ辭職シ其後人力車夫トナリ又煙管職トナリシガ二十八年十月ヨリ
病症増悪シ動モズレハ業ヲナサヌ猥リニ他家ニ至リテ金錢上ノ談判ヲナセシコトアリ十二月ニ至リ兩隣
ヨリ自分ヲ惡口スト云ヒテ其家ニ石ヲ投ゲ入レ又ハ暴レ込ミシコトアリ

明治二十九年一月十八日第三回入院シ三十年七月二日不治退院ス

明治三十一年四月十一日第四回施療ニテ入院シ爾來今日ニ至ルマテ〇〇〇〇〇〇病院ニ在リ

〇〇府〇〇病院ニ於ケル本人ノ病歴ヲ見ルニ明治二十四年當初入院ノ時ニハ舌ニ褐苔アリ胃部ニ厭痛アリシモ胃ハ擴張セズ心音ハ心尖ニ於テ第一音稍不清ニシテ皮膚ノ營養悪キ他感覺運動分泌等ニ異常ヲ認メズ精神症狀トシテハ時トシテハ憂鬱閉シ時トシテハ興奮激昂シ或ハ呆然トシテ自失シ其間幻聽アリ獨語アリ又有聲考慮ト云ヘル症狀アリ何カ思フト遠クノ人ニ聞ユル様ニ覺ユト告グ

明治二十六年中ハ呆然自失セルガ如ク感情鈍麻シ知覺ノ遲鈍トナリ思考力ノ滯滞セルヲ主ナル症狀トシ

明治二十九年以後ニ於テハ疎懶怠慢ニシテ晝間モ就寐シ頭ヲ整ヘズ衣ヲ改メズ或ハ一ヶ所ニ枯坐シテ早朝ヨリ晩景マデ殆ント身ヲ動サス時トシテハ全ク無言トナルモ大抵ノ日ハ獨言ナキコトハナク窓ニ向ヒ又ハ窓ニ上リテ獨語シ獨笑シ又ハ影ナキ人ト應對シ或ハ數日間通シテ蒲團ニ坐シ反古ヲ集メテ帳面ヲ作り之ニ書寫シテ時ヲ送ルコトアリ或ハ卒然空笑シ或ハ黙考ノ後ニ頻リニ點頭ヲナシ或ハ首ヲ屈ゲ頭ヲ左右ニ振廻シ口中ニテ私語シ居ルコトアリ稀ニハ興奮状態トナリ突然物ヲ投ゲ又ハ烈シク怒ルコトアリ

明治三十四年八月ヨリ十二月ニ至ルノ間ニ於テハ獨語尤モ甚シク毎常ノ如ク低聲ニテ聽キ取り難カラズシテ大聲トナリ或ハ家人ヲ訓ユルガ如ク子供ヲ戒メ女房ニ云ヒ聞スガ如ク又ハ家人ノ不正不義ヲ詰責スルガ如ク或ハ建築ニ關シテ大工ニ命スルガ如ク或ハ官衙ニ物品ヲ上納スルニ付キテ雇人ニ命ヲ下タスガ如ク或ハ我物ヲ竊マントスルヲ怒リ罵リ或ハ己ガ土藏ニ盗人入りタルヲ追掛クルガ如ク或ハ罵

詈シ或ハ叱責シ直ニ其人ヲ視ルガ如ク旁人ノ其間ニ何事ヲ言ヒ何事ヲ爲スモ之ニ關涉ヲナスコトナク獨リ自カラ聲色ヲ厲マシ居ルノミ

明治三十五年四月初旬ニ於テハ相手ナキニ『植木屋さん其松の木の枝は宜敷ないから切つて仕舞つて下さい』ト云ヒ或ハ眞面目ニナリ『明日は虎の皮が來ます大きさが七尺位ですから随分立派です本日洒して居ります明日は必ず拙宅へ持來る故其節は御覽に入れる』ナド語レリ五月ヨリ七月ノ間多ク獨語シ八月九月ハ之ニ罵詈激昂ノ聲ヲ交ヘ時トシテ食物ニ不潔物ヲ覆ヘリト云ヒ之ヲ投棄セシコトアリ十月ヨリハ低聲トナリタレ共獨語益々多ク十二月中ナドハ朝起キシヨリ晚臥マテ絶間ナク低聲ニ獨リ語リ居レリ

(丙) 現在證

一、身體症狀

身長百七十八、五仙迷體重四十五基瓦膚色蒼白ニシテ全身羸瘦シ

頭部ヲ檢スルニ右額ニ於テ髮中ニ入ルニ仙迷許ニ長サ三仙迷ノ輪片狀癩痕アリ

頭顱ヲ測定スルニ

周圍	五五・五仙迷	耳前頭圍	三三・〇仙迷
耳後頭圍	二五・〇仙迷	鼻根後頭圍	三三・五仙迷
耳顱頂圍	三五・〇仙迷	耳下顎圍	三一・五仙迷

前後徑	二〇・〇仙迷	左右徑	一五・〇仙迷
耳孔徑	一四・〇仙迷	耳孔鼻棘徑	一三・〇仙迷
耳高	一一・〇仙迷	橫徑示數	七五・〇仙迷

顔面修長ニシテ其色蒼黃ナリ左右額角ノ靜脈蜿蜒怒張ニ瞳孔ハ稍々開大シ光線ニ對スル反應ハ分明ナルモ限少ナク齒列ハ上顎ニ於テ大ニ脱落シ舌ハ少シク苦ヲ帶ビ不安ナリ屢次目瞬シ目視茫々トシテ定マラズ口圍ノ筋肉時々諸方ニ向ヒ收縮ス顔面神經ノ作用左右不同ニシテ右口角ハ左ヨリ稍々低ク下ガレリ

脈博七十二至整然トシテ節序ヲ亂サズ其性質ハ強大ニシテ緩ナリ

胸膈筋肉消削シ肋骨ノ列次明カニ露ハレ肺臟心臟等ニハ打診上ニモ觸診上ニモ異常ナク腹部ノ諸器官亦尋常ナリ

運動感覺分泌等諸機能皆其常ヲ失ハズ

全身ノ筋肉ハ機械的興奮性亢進シ膝蓋腱反射モ亢進ス

兩側ノ前膊手掌及ビ諸筋ヲ檢スルニ較著ナル皮膚病アリ其部ハ皮膚褐色ニ染ミ其染色或ハ瀰蔓性ニ或ハ大理石斑紋ノ如クニシテ汚敗灰白黃色鱗屑アリテ其上ニ被ムリ其狀甚ダ魚鱗疹ニ似タリ之ヲ詳細ニ記載スレバ右前膊ニ於テハ其尺骨側ニ在リテ手方ノ三分二ニ褐色ノ大理石斑紋ノ如キアリ其ハ手方ニ向ヒ次第ニ屈面ニ移リ其手方端ニ於テ不等邊三角形ノ地ヲ劃シ角質増殖シテ宛然魚鱗疹狀トナレリ即

チ其三角ノ勾ハ手關節ニ股バ尺骨緣ニ弦ハ橈骨方中近方ニ向ヒ勾股ノ周邊ニ於テ皮膚肥厚シ皮野ハ悉ク輕ク隆起シ三角ノ中心及ヒ手關節ノ方ニ向ヒ角質増殖益々甚シク皮膚ノ肥厚及ビ鱗屑彌著クシテ殆ド胼胝狀ヲナシ其鱗屑ハ一部ハ容易ニ剝離シ得ベク其下地ハ滑平暗紅色ニシテ出血ヲ見ズ手關節部ヨリ手掌大小指球ニ移リテ皮膚ノ變化線甚シク手掌ニ於テハ拇指球小指球並ニ其間ニ介在スル部位ニモ著甚ノ魚鱗疹狀ノ積疹アリ其鱗屑ノ屋根板狀ニ疊ミ被フヲ見且著シキ輝裂ヲ伴フ手關節近方兩指球間ニハ二三ノ大凡圓形タル黑褐色ナル斑紋アリ角化肥厚セル表皮ニテ被ハレ明カニ其出血痕ナルヲ知ルベシ兩指球ノ掌心ニ傾ク所及ビ掌心ノ一部ニハ數多ノ不整圓形ナル表皮剝脫アリ其中心ハ少シク平窪トナリテ暗褐色ヲ呈シ周邊ハ乾燥角化セル表皮ノ一半剝離セルモノ、爲ニ圍繞セラル掌心ニ於テハ此被疹一般ニ凸隆部ニ著シク手條及ビ掌骨間部ニ輕シ各指ハ其掌面ニ於テ一般ニ褐色ヲ呈シ殊ニ其尺骨側半ニ著色著ク小指ハ猶ホ尺骨側ニ於テ角質増殖著甚ニシテ其末節ノ尖端ニハ出血ノ痕跡アリ其部ニ黑褐色ヲ授ク食指ノ中節ト末節トノ關節ノ背面ノ尺骨隅ニハ膚色紫紅トナリ其部ノ表皮皺縮シ一部輕ク角質増殖シ一部ハ剝離セリ是亦分明ニ血泡ノ殘痕ナリ中指ノ同所ニモ亦之ニ似テ之ヨリモ甚タ輕小ナルモノアリ爪ハ示指中指食指小指ニ於テ遊離部肥厚シ黃白色ヲ呈シ斜ニ尺骨方ニ向テ橈骨側ヨリモ多ク爪床ヨリ遊離シ爪床ニハ小指ニ於テ其尺骨半ニ黑褐色ノ出血斑アリ爪上ヨリ透視スベク食指ニ於テモ之ヨリ輕キ稍紅ミ色ノ斑ヲ爪下ニ見中指ニ於テ猶更ニ輕小ノ斑アリ是等爪下ノ出血痕ハ並ニ尺骨方指稍方ニアリ「爪アトリ」キス「ハ肥厚角化」シ少シク爪根ヨリ剝カレタリ

左前膊ニ於テハ其尺骨側ノ遠外方三分ノ二ニ淡褐色ノ大理石斑紋狀アリ其遠外方ノ半分ニハ皮膚肥厚シテ粉屑鱗痂ヲ伴ヒ其間ニ皮皺深ク切レ込ミ所々表皮剝脫シテ薄キ帶紅褐色ノ斑紋ヲナシ其一部ハ稍濕潤セルモ其他ニ於テハ全部乾燥セリ手關節部ニ於テ一二箇ノ出血痂ヲ認ム手ニアリテハ其尺骨緣ニ小指ノ尺骨側マテ一般ニ角化硬變シテ魚鱗ノ逆立チセシ如ク或ハ半ハ折レ或ハ半ハ斜ケ落チ其間ニ輝裂深ク且數多シ且上記ノ如キ鱗狀疹形ノモノ島嶼ノ如ク二三箇散在スルヲ見ル手背ノ尺骨方部ハ一般ニ褐色ヲ帶ビ小指ノ第一節ノ尺骨側ニハ一箇ノ血性漿液ヲ入ル、扁平ニシテ隆起セル大豆大ノ泡疹ヲ認ム其周圍ハ稍紅色ヲ呈セリ手掌ハ至ル所大理石斑紋ヲナシ就中拇指小指球ニ著シ

二、精神症狀

被申立人ノ精神狀態ヲ按ズルニ被申立人ハ意識精明ニシテ其外界ノ事物ヲ知覺領會スルニ著シキ障礙ナク時日場所身邊ニ關スル指南力アリテ現時ノ何年何月何日ニシテ我所在ノ何處ナルヤ我身邊ヲ圍繞スル事柄ノ如何ナルヤ等ヲヨク察知セリ人物ヲ誤認シ住所ニ錯想スルガ如キナク記憶ニハ近事ニ關スルモ往事ニ關スルモ著キ障礙ナク吾身ノ生地住所生年月日入院ノ時日入院來ノ經過家族ノ生死疾病其他ヲ答フルヲ遲徐ニシテ紆曲ナルモ而モ大方ハ正當ナリ

計算ノ能力等モ亦甚キ障礙ヲ被ラス加減乘除等ニ關シ應答稍遲キモ誤算ヲナサス

注意力ハ甚ダ偏頗ニシテ且永續セス身邊ニ起ル事柄ニ對シ之ヲ注意シ之ニ興味ヲ覺ユルヲナク生活ノ一家庭ノ一家族ノ一後來ノ一職業ノ一モ其心ヲ左右セス訪問人アルモ之ヲ喜ブヲナク之ヲ勞スルヲ

ナク其誰ナルヤ其何カ爲ニ來シヤ等ハ其關心スル所ニアラス其言談ハ何事ナリトモ毫モ注意ヲ惹キ起スヲナク即チ被申立人ノ憂喜ハ他人ノ休戚安危ノ爲ニ動止スルヲナク彼ハ唯茫然トシテ眠食ニ身ヲ委スルノミ永ク病院ニアルモ退院ヲ要求セズ

病初ヨリ今日ニ至ルマデ何時モ多ク病症ヲ支配スルモノハ幻覺ニシテ特ニ耳ニ物象ナキ音ヲ聽キ己ヲ罵詈セラル又嘲笑セラル、如クニ覺エ之ガ爲ニ屢不安トナリ獨語シ應對シ或ハ卒然大聲ヲ發シ叱咤叫喚スルヲアリ或時ハ靜坐シ或時ハ興奮騷擾スルニ至ル妄想ハ當初ヨリシテ定マリタルモノナク永續スルモノナク幻聽ノ多寡ト其内容ニヨリテ時々發現シ來ルノミナリ

被申立人ハ其考慮方ニ著シキ障礙アリ言談ノ際ニ尋常應對ノ他不用ナル又ハ迂回ナル言辭ヲ弄シ或ハ殊更ニ奇異ナル言詞ハシヲナシ或ハ無關係ノ辭句ヲ其言談ノ間ニ挿入スルヲアリ其言談ヲシテ之ガ爲ニ奇異ナル解シ難キ尋常思考方ニ想ヒ及バザル形態ヲ取ラシメ其輕キ時ニ於テハ其應對ハ正シキ返答ノ間ニ何カ『變な』ト』ヲ問ニ言ヒ挿ムガ如クニ思ハル、ニ過キズシテ大凡其答フル所ヲ了解スベキモ稍興奮シタルキニ於テハ幻聽モ著ク之ニ混交スルガ爲ニ殆ント全ク其思想ヲ了解スルヲ能ハサルナリ今左ニ之ヲ示サシガ爲ニ鑑定人ト被申立人トノ問答ノ速記ヲ示サン

明治三十六年三月十九日午前十時

患者ヲ招キ診察セントスルモ室外ニ出ツルヲ肯ゼズ依テ速記者ヲ伴ウテ患者ノ病室ヲ訪フ
患者卷煙草ヲ燻ラシ火鉢ノ前ニ跪キ何ヤラ向ヒ相ノ患者ニ向テ話スガ如シ

患者 『それが爲めにたいして行はれない法ですネ悉く勝手に引立て、見せる療法たすると云ふのは五月蠅いダカネ決してなしていけませんネそれは内務省から止めて來ました位でございます人間をして療養すると云ふことは廢せと云ふことで餘程氣脈にかゝる、肺の臓に一言よくてキツタリ止めて仕舞ふ己の所に聞へて達して來る

問 『誰の聲で聞へます』
答 『辭令を以て……申上げて……』

問 『いつ來ました』

答 『嚴しく聞へる所に以て申上げます電信で知らせて來ました』
問 『何つ……』

答 『今朝程いろく、悉く餘り人間診察……ムリヨウなことがあると云ふと今オヤマミチに斯うやつて居るからと云ふてホンニ人と云ふもので召集して顔が揃つて居ればよい、療養と云ふて醫者は……これは聞へて居るバンチャウが後を番して病院に行つて……(猶ホ大聲ニテ隣室ニ向ツテ言フガ如ク)儲かるからと云ふて商賣バイヤウすると云ふ氣儘なことを……キリヨウに掛つていかないそれが爲に悉く禁じて居るのに療治があるのに從ふのか悪いネ君』

問 『そんなに大きな聲を出すのは何う云ふ譯だい』

答 『聞かせなければ家に分らぬこととあることであるから役場に届いたチントキツしてゴミをカルことだからチャンと其仕舞つて置けと云ふてなネ君……(猶ホ他ニ向ツテ何か應答スルガ如ク)國にお出なさると云ふと……皆斯うやつてカンシヨウなど、云ふて唱へて居る輩のチリヨウして居るけれども之が君子供のはてに至るまで尙更出て來て居りさへすれば無理やりに療治と云ふて政府のキントウのアリタカルだけの干涉……強いて君昇進などを骨折つてすべきものでないネ君ネ』

問 『お前の宅は何處だ』

答 『〇〇〇區で〇〇〇區在住、〇〇〇は〇〇町、〇〇町の中程に在住……』

問 『何番地だ』

患者其答ヲナサズ

『御新殿からして小山彈左衛門は、建野艦長は年月幼ない子で十五年二十日務めて居りました苦勞して居りました年の上まで務めさせて置かれぬ終りにその水並艦長の歸つて往かれるマチ、召集の顔の數と同じジントで云ふと水の上汁の水を……聞へて一々無理なりの鐵砲だ療治や診察に來て居る輩でない無病と云ふことでガンセンと〇〇〇區のオムキの方になつて居る幼より病のあつたやうにチーンとアセタイなどをしてなきまてにして居るネ君無理の診斷はいけませぬ請ふ人でない』

問 『〇〇さんお前の年は幾つだ』

答 『年は三十二であります』

問 『何つ生れました』

答 『極月十五日』

問 『何年の……』

答 『ハイでない……〇〇〇區で生れました』

問 『何つ生れました』

答 『年號のハイは三十二歳、三十二の生れは何年の生に相當して居るか當れるか大抵
君……慶應前でありますか』

問 『それで何つでありますか』

答 『明治のシヨハツに對することでありませぬ』

問 『生れた年は何つだ』

患者煙草ノ灰殻ヲ落シナガラ

答 『三十二でございます』

問 『年號は何つだ天保か』

患者平然トシテ答ヲナサズ

『外から石や何か通入り込む使の者がカタクして小言を云て聞かざるやうな譯ネ君、錢が儲かる方が間違だからと云ふてやつていけませぬ』

問 『〇〇町の隣りの人はどうした何んと言つたけネお前さんのことを悪口を言ふて……』

答 『若い子供達が……』

問 『子供達が？』

答 『あれはヤキノ息子巡查ジシとか仰しやつたそうだヤキノ息子何でも田舎から來て居るやうで子供衆のやうでございます己は能くすりませぬ何だかコーミツギーの話などが』

問 『お神さんはどうした』

答 『國務上、政治上、秘書官と云ふもの輩には五月蠅い能く看護などに心得法が示して一度示して……親が出て申して慎ませるやうにしなければ……(猶ホ向フ側ノ室ニ向テ話スガ如ク)全く田舎から來て居るのは本統です能く悉く知りませぬでした聞へますがな……』

問 『お神さんはどうした』

答 『家内ハ離縁てありましてありませぬ』

問 『何せ離縁した』

答 「それは古い昔であります離縁して今に……」
問 「何年位です」

答 「離縁してからもう三十年に近う……」
問 「三十年？」

答 「二十年は本統です」
問 「何せ離縁したよ」

答 「あれ自分で暇を請ふて出ましたらう云ふことが干渉ないだ(患者他ヲ顧ミテ)さうかと云ふて別に異状がなくて——そうかと云ふて俄にそれに相當する……石川人ですネ……暇を下してやりました」

問 「親がありますか」

答 「親父は歿したことは聞へて居りますネ」

問 「どッから……」

答 「疾くに歿しまして今に……」

問 「何ッ死んだネ」

答 「年老けて……數へませぬ」

問 「おッ母さんは？」

答 「矢張り歿したと云ふことは聞へて居りますネ」

問 「何ッから聞へた」

答 「聞へてあります兩親は歿して今世を去りましたことは聞へましたネ」

問 「おッ母さんは何で死にました」

答 「離縁などは干渉するものでありませぬな」

問 「兄弟は何人ありますな」

答 「兄弟もこれでなんです三四人ありますけれども……」

問 「今生きて居るか」

答 「兄弟などは年嵩さでありますから」

問 「兄弟に生きて居る人があるか」

答 「今の所ではエンのハダカに七八人あります」

問 「誰か會いに來たか」

答 「一人も同類は來て居りませぬ」

問 「一昨日誰か來なかつたか」

答 「あれは近隣の者であります」

問 「何んと云ふ人？」

答 『ラクの者……』

問 『何んと云ふ人だ』

答 『外の者だあれは其己が其本統の詳はしい畑の人でない知らない位でございますネ
近所のハヤをツクツタラクの者であります』

問 『何時から此處に來たか』

答 『面談を——一切——來る人が稀に來る人でないが人に面談ならないと云ふて斷り
ました中々何んであります此節ながら迂濶にして人に當るなど云ふことは……』

問 『お前さんは何つから居るんだ』

答 『明治九年から來て居ります』

問 『二十九年の何月から』

答 『二十九年と云へば三十五歳有餘でありますだから年は——餘程、年限でありますか
ら詳しい日數などは——來た所は』

問 『何月何日だい』

答 『正月餅を食つて……に來ましたやうでございます年久しいことでございますなわ』

問 『今日ハ何月何日だ』

答 『雜煮食つて』

問 『今は何月……』

答 『十二月の何んでありますネ(他患者ノ方ニ向ツテ話スガ如シ)助けに來て居ります
な、コウムチヨウになるものでございます親類などは取寄せて見て居りますが』

問 『何つまで居るんだ』

答 『中々葦でないですナ、親が迎に來ました』

鑑定

被申立人ハ遺傳上ヨリ著明ナル禍累ヲ受クルモノニアラズ幼時頭部及ヒ背ニ火傷ヲ蒙リ又誤リテ二階
ヨリ墮落シ頭ヲ打チタルコトアルモ共ニ後患ヲ殘サズ唯小兒時ヨリ頭痛ニ惱ムコト頻リナリシト云フ
ハ吾人ヲシテ本人ガ多少神經性體質ヲ具フルモノナルヲ推知セシムルノミナリ然ルニ明治二十三年
ニ至リ從來ノ性質一變シテ刺戟性憤怒性トナリ又憂鬱スルヲ常ニ過ギタルカ二十四年四月ヨリ頭痛ヲ
訴ヘ酒精ヲ多飲シ被害的ノ幻覺及ビ妄想アリ自殺ノ企圖又ハ他殺ノ念慮ナドモアリ其頃ノ病症ハ大抵
悵鬱性ニシテ時々興奮センガ幻覺及ビ之ニ對スル言語舉動(獨語、獨笑、罵詈、暴行、奇異ナル姿態舉
作等)及ビ感情ノ鈍麻等ヲ以テ其症狀中ノ主ナルモノトセリ

現時ノ徵候ヲ考フルニ其智力界ニ於テハ指南力ハ充分之アリテ目下ノ時日、場所等正ク知り記憶モ割
合ニ障礙輕クシテ計算ノ能力ノ如キモ亦略備ハレリト雖モ其聯想方思考方ハ甚ク尋常ノ規矩ヲ逸シ其
思路ノ進行ノ工合ハ尋常人ノ了解追究スル能ハサル所ニシテ辭句ノ迂曲言ヒ廻ハシノ奇異ナルガ爲ニ

少シモ理解ス可カラズ行爲ハ其動機トノ關聯極メテ乏キカ爲ニ更ニ端倪スベカラザルハ前文速記ノ載
 スル所ニヨルモ其一斑ヲ窺フコトヲ得ベシ殊ニ其思想ハ時々著シク幻聽ノ爲ニ支配セララルガ故ニ益其
 自存確立ヲ失ヒ之ガ爲メ又彼ガ爲メ被申立人ハ終始一貫セル主義思想ナルモノナク自己ノ本領ニヨリ
 テ思想ヲ統御制裁スル能ハズ從テ又確乎タル意志ナク分明ナル冀望モアルコトナシ
 忘想ハ主トシテ幻聽ノ爲ニ支配セラレ大抵被害的ニシテ人己ヲ罵ル己ヲ害ス或ハ我財産ヲ竊ム等ヲ其
 内容トナスモ紛トシテ定マラズ纏マリノ付キタル首尾アル妄想ナルモノナク之ヲ主張スルコトナク自カ
 ラ之ニ重キヲ措クコトナシ

幻聽ハ病狀中ノ主要ナルモノニシテ其内容ハ殆ント皆其本人ヲ刺戟シ感激シ之ヲ脅迫シ之ニ禍害ヲ及
 バントスルモノナルガ故ニ被申立人ハ之ガ爲ニ常ニ刺戟性、激昂性ニシテ傍人ヲ信用セズ又ハ之ヲ敵
 視シ又之ガ爲ニ獨語シ罵言シ或ハ卒然トシテ暴行シ或ハ一種異様ノ舉作ヲナスコト從前ニ異ナラズ
 時々發現スルハ拒絶症狀トテ人ノ言フコトニ從ハズ又特ニ之ヲ拒ミ診察ニモ應ズルヲ否ム症狀ニシテ又
 常ニ何かニ付ケテ同一舉動ノ反復アリ或ハ就寤シテ動カズ或ハ朝ヨリ晩マデ坐リ込メ身動キモセズ
 或ハ數十日引續キテ無目的ニ古紙ニ書き寫シタリシテ已マザルコトアリ被申立人ガ目下患ヒ居ル所ノ皮
 膚病ノ如キモ亦此同一舉動ノ結果ニシテ彼ガ疎懶無感情ニシテ常ニ火鉢ニ手ヲアブリ居ルカ爲ニ生ジ
 タルモノナリ

病初ヨリ今日ニ至ルマデ十數年ノ間ニ於テ始終一貫セシハ感情ノ鈍麻セルコトニシテ家族ノ職業ノ

生活ノコトモ其心ヲ動かスコトアルコトナシ

以上陳述スル所ノ諸症狀ハ吾人ヲシテ被申立人ガ明治二十三年以來目下ニ至ルマテ患フル所ノ疾病ハ
 専門學上ニテ早發癡狂ト稱スルモノナルコトヲ推知セシメ其病症ハ諸精神病中ノ難治ナルモノニ屬シ多
 クハ久痼トナリ不治ニ止マルモノニシテ從テ被申立人ハ此病アルニヨリテ心神喪失ノ常況ニ在ルモノ
 ト認メザルヲ得ズ

被申立人ハ固ヨリ多少計算ノ能力ヲ保存シ加減乘除ノ大體ニ鍛鍊ナリ又過去ノ事件ヲヨク記憶シ居ル
 ガ故ニ出納契約等ニ關シテ猥リニ之ヲ忘却スルモノニアラザルハ前文ニヨリテモ明ラカナレ被申立
 人ハ又前記ノ如ク萬事ニ冷淡ニシテ家族職業生活ノ休戚盛衰ヲ以テ心ヲ勞スルコトナク思想行爲常度ヲ
 失シテ吾人ノ了解ヲナシ得ザルガ如キ着想ヲ廻ラシ舉動ヲ爲スモノナレバ其多少殘存スル計算能力モ
 之ヲ我思想ニヨリテ目的ニ叶フ様ニ應用スルコト能ハス人ヨリ問題ヲ提出サレテ之ニ對ヲナス場合ニハ
 正當ナル答ヲナセ且自カラ計算ノ必要ヲ感シテ有用ノ際ニ適切ノ意見ヲ構成スルコト能ハズ幾分眞實ヲ
 得タル記憶モ一貫セル當理的思想ノ缺如又自家又ハ外圍ノ事情形勢ノ誤認謬解アルガ爲ニ其精神生活
 ニ有用ノ基礎ヲ與フル能ハズ適喚起サレタル記憶モ奇偏ナル思想ノ爲幻聽又ハ時々ノ妄想ノ爲ニ蔽遮
 セラレテ自他ノ利損得失ヲ打算スル正當ノ根據トナル能ハザルモノナリ

之ヲ要スルニ其智力ハ記憶計算其他ニ於テ割合ニ障礙ヲ見ルコト少ナシト雖モ其他ノ大部分及ビ感情界
 意思界ノ病候著甚ナルガ爲ニ其發動運用ノ常ヲ得ル能ハズ從テ被告本人ハ計算ヲナスコトヲ得記憶力割

合ニヨキニ關ラズ財産處分ノ能力ノ全然缺乏スルモノト謂ハザルベカラズ
之ニヨリテ余ハ判事ノ問題ニ對シテ左ノ如ク答フルヲ正當ナリト信ス
被申立人〇邊〇之助ハ心神喪失ノ常況ニアルモノナリ
右之通及鑑定候也

明治三十六年四月十四日

鑑定人 醫學博士 吳

秀 三

右被申立人ハ此鑑定ニヨリ禁治產者ト宣告セラル

第十二例 謀殺未遂被告人〇一〇ス〇ン〇鑑定書

明治三十六年五月十四日〇〇地方裁判所豫審判事〇川〇吾ハ余ニ命スルニ

〇〇市〇〇地〇〇〇番館飲食店

〇國人 〇一〇ス〇ン〇

千八百六十一年三月二十四日生

ガ明治三十六年五月七日〇倉〇〇〇貝〇いノ兩人ニ對スル謀殺未遂事件ニ付被告人〇一〇ス〇ン〇ノ
精神状態ヲ檢診シ

一、同人ハ現時精神病ニ罹リ居ルヤ否ヤ

一、同人ハ明治三十六年五月七日午前〇時三十分頃犯罪當時精神病ニ罹リ居リシヤ否ヤ

一、同人ハ精神病ニ罹リ居ルトセバ如何ナル精神病ナリヤ是非善惡ヲ辨別セサル程度ノモノナリヤ

如何ヲ鑑定スベキ事ヲ以テセリ

之ニヨリテ余ハ同日以來〇〇地方裁判所豫審廷〇〇監獄等ニ於テ被告人〇一〇ス〇ン〇ヲ診察シ病院
ニ於テ被害者〇倉〇〇〇貝〇いノ二人ヲ尋問シ且〇〇判事ガ余ニ提供セル豫審調書ヲ參看シテ被告人
〇一〇ス〇ン〇ニ關シ左ノ事實及ビ病狀ヲ認メタリ

先ツ第一ニ兇行當夜ノ事狀ヲ案スルニ被告人〇一〇ス〇ン〇ハ〇米合〇國〇ツ〇セ〇ツ洲ノ人ニ
シテ明治二十二年水夫トシテ我邦ニ來航セシヨリ以來我邦ニ在留シ初メ七八月間ハ帆船船臘虎船ノ水
夫トナリ居リ其後飲食店ヲ開キ(其後モ二年間許水夫タリシヲアリ)明治二十三年ヨリ前期〇倉〇〇〇ト
同棲シ夫婦同様ニ暮シ居リ子二人ト四人暮ラシノモノナルガ兇行ノ前夜即チ明治三十六年五月七日午
前〇時半頃〇〇〇ノ熟睡中卒然我上ニ跨ルモノアルヨリ驚キ醒ムレハ〇ン〇ハ剃刀ヲ以テ〇〇〇ノ咽喉ヲ
切付ケントスル所ナリシカバ〇〇〇ハ驚キテ叫ビナカラ之ヲ拒ギ掴ミシニ剃刀ハ折レテ柄ノミ〇ン〇ノ

手ニ殘リ刃ハ他ヘ飛ヒタリ○ン○ハ直ニ又寢所ノ隅ニアリシ洋杖ヲ以テ○ニ打チカ、リ頭部ヲ毆チ之ニ傷ヲ負ハセシガ○ニハ逃テ室ヲ出テ梯子ヲ降りシニ○ン○ハ追駈テ同シク下リシモ及バズ引廻シテ梯子ヲ上リ又々棒ヲ以テ下女ナル○貝○イヲ亂打シ其頭部ニ負傷セシメ續テ我家ヲ飛出セリ急報ニテ駈付ケシ巡査ノ中○司○雄ハ追跡シテ○橋ノ方ヘ赴キ右折シテ横町ニ入りシニ百二十五番地洗濯會社軒下ニ白衣ニテ洋杖ヲ携フルヲ認メシカ突然飛出ダシタルヲ追駈ケテ取押ヘタリ

是日○地方裁判所判事○野○二ハ同裁判所豫審ニ於テ被告人○ン○ヲ取調べタルニ被告人自カラハ當夜ノ事實ヲ覺知セスト稱スルニヨリ精神ニ異常アリテ此ノ如クナルモノナリヤ否ヤ疑問トナリ由リテ鑑定ノ必要ヲ生ズルニ至レルナリ

被告○一○ス○ン○ハ前記ノ如ク○米合○國○ツ○セ○ツ○洲ノ人ニシテ其系統ヲ尋ヌルニ祖父母以上ノ病症ハ詳ナラズ父母ハ正式ニ結婚ヲナセシモノニシテ本人ハ公生ナリ父ハ大酒家ナルガ其量ハ不明ナリ四十歳位ノ片本國ニ於テ鐵道轢死ヲナセルカ其原因ハ明カナラス母モ亦少シク酒ヲ嗜ミ六十歳ノ片熱病ニテ斃ル本人ニ兄弟數多アリシガ健全ナルハ兄一人弟二人ニシテ本人ヨリ上ノモノ四人ハ死セリト云フ子ハ○倉○ニトノ間ニ四人アリシガ内一人ハ嘗テ死亡シ昨年生レシモノハ出生後六ヶ月ニシテ死亡シ今殘レハ九歳及ヒ四歳ノ女子二人ナリ本人ハ其胎生期中母ノ或ル病ニ罹リシコトヲ僅ニ聞知セリ出産時ノ状態ハ明ラカナラス發育状態ハ普通ニシテ種痘天然痘ヲ經過セズ九歳ノ時熱病嚙下困難ヲ患ヒ十八歳乃至二十歳ノ片日射病ニ二十三歳ノトキハ麻疹ニ罹リ四年前喘息ヲ患ヒ昨年九月

頃肛門出血ヲナシタリ又數年前ニ長ク左腹部ニ(下文參看)疼痛ヲ覺エタリ其他癩癩日射病ニ罹リ又酩酊シテ歩行セル際ニ突然卒倒セシコトアリシト云フ

本人ハ二十四五歳ノトキ飲酒ヲ始メ酒量漸次増量十三年前横濱ニ來タリシ翌年○ニト同棲後暫時ハ酒ヲ飲マサリシガ其翌年飲食店ヲ始メ其ヨリ酒量ハ一層増加シ此三年ハ殊ニ烈シク且暴言暴行ス目下ハ一回ビール一ダースヲ傾クト云フ

飲酒ノ本人ニ於ケル作用ハ如何ト云フニ本人ハ平生ハ甚々温和ニシテ應對モヤツトスル位ナルモ(醫○藤○次郎述)酒ヲ飲ミタル後ニハ常ニ亂暴ヲナシ(○貝○い述)時トシテハこつぷ椅子ナドヲ投ゲ器物ヲ破毀シ甚シキハ○ニサヲ毆打スル事アリ(被告自白)子供ニモ殘酷ナルコトアリ

明治三十五年四月中幼兒熱ノ病ニテ危篤ナリシ片モ酒ニ酔ヒ續ゲ邪魔ヲシテ子供ニ水モ當テサセズ其内死亡セシニ酒後甚亂暴シ警察署ニ留置セラレシコトアリ其後九月中ニモ泥酔シテ亂暴セルコトアリ(○倉○さ述)醫師○藤○次郎ハ十年モ其家ニ出入スルモノナルニ其家ヲ訪フ片ハ醉ヘル時ハ拳ヲ固メテ之ニ突掛リテ來ル事アリ熟視シ其人ヲ見分ケテ初メテ止ムル位ナリ(○藤○次郎)此ノ如ク亂暴スルハ二三年前ヨリノコトナリ

猶ホ醫師○藤○次郎ハ被告本人ハ明治二十二年頃肝臟病ヲ患ヒタリト云ヒ醫師○ン○一ハ被告本人ガ六七年前酒精中毒症ノ如キヲ患ヒ六七ヶ月前ニモ酒精中毒ニテ時々精神痴呆ノ狀ヲ呈シ又非常ニ暴行セルヲ認メ其酒精中毒症ハ一時性ニシテ大抵一二週間ニシテ治スルモノナリト陳述シ且被告人ハ明治

三十五年九月中重病ニ罹リ下血シ(且喀血)タルガソハ痔又ハ赤痢ナラズシテ酒ヲ飲ムトキこつぷノ缺ケヲ飲ンダ爲ニシテ下血ハ二三日間ニテ止マリタルガ(○ン○一述)其時ニハ○倉○が余ニ語リシ所ニヨレバ慢心シタ様ニナリ人ノ居ラス所ニ入りテ書物ヲ讀ミ或ハ二階ニ上リ薄暗キ室ニ腰掛ケタリ立ツタリ落付カズシテ居リ人ヲ見ルト恐レテ逃ケタリ匿レタリシ『人が私を殺す』トカ『縛に来る』トカ言ヒ且身體ノ衰弱甚カリシ爲メ遂ニ一般病院ニ入り二週間程居リシガ其間耶蘇ノ僧ガ多ク傍ニ居ルヲ見又人ヲ恐ル、事アリ入院後二日目ナリシガ大雨ノ夜病院ヲ飛出シ自家ニ歸リ『病院に居ると殺される』『殺されるなら一層家で死ぬ』ト言ヒ病院ニテ捜シタルガ翌日ニナリ歸院シテ大ニ詫ビタルヲアリ外出シテ何事ヲナセシカ尋問セルモ本人自カラ一向ニ知ラサルモノ、如クナリシ又或夕方遺言シタシトテ○さヲ病院ニ呼ビ寄セタリ(○倉○さ及ビ○ン○一氏述)一般病院ノ○ン○一氏ハ六月十六日法廷ニ於テ被告人カ『精神に不斷は何事もないが時々精神を喪失する事があり其は中風から起るものか又は飲み過ぎた結果だろーと思ひます』ト陳述セリ

其後三ヶ月間許ハ酒ヲ飲マサリシガ悪友ノ勸メニヨリテ明治三十五年十二月末頃ヨリ又々酒ヲ初メ時々甚ク飲ミ續クルヲアリ此ノ如キ時凡ソ五六日ハ更ニ食事ヲナサス其間ニそつぷ五六皿飲ムノミニテ鯨飲シ酒類ハ主ニうすきいニテ一瓶以上モ飲ムヲアリ五六日連飲ノ後ハそつぷヲ飲ミ次第ニ通常食トナルヲ常トス(○倉○さ述)

兇行前十五日許リヨリ以來強キ酒ノミ飲ミ續ケ殆ントあびる如クナリシガ時々感情高ブリテ怒リヲ發

シ暴行スルコト間々アリ四月二十九日隣家ノ路次ノ處ニテ『女房や子供を見付ければ皆殺して仕舞ふ』ト獨語セリ(○倉○ら述)又其夕方ニハ○倉○が寢臺ノ上ニ押付ケ片手ヲ咽喉ヲ締メ片手ハ拳固ニシテ『殺して仕舞ふ』ト言ヒ又○さカ臺所ニアリシ所へ來リテしちりんヲ蹴倒シばけつヲ外へ投ケシ事アリ(○倉○ら述)又四月三十日カ五月一日ノ事ナリシ晩方勝手ニ至リ突然○さヲ蹴倒シ猶ホ下女ナル○貝○いソ頭髮ヲ把ミ又○いヲ呼付テ押倒シテ腿ノ所ヲ靴ニテ蹴タル事アリ(○貝○い述)

其後五月三日ヨリ酒量稍減セシガ猶ういすきいヲ飲ミタル事モアレハ○さハ之ヲ隠シタリ兇行二三日前モ茫然トシテ客ヲ待遇セス『妻か警察へ連れて行かれる』ナト云ヒタリ(○さ述)

五月六日朝マダキヨリ黙シテ語ラス茫然トシテ仕事モセズ室内ニテ彼方此方へ運動シ居リ打伏シテ本ヲ讀ムカト思フト忽チ椅子ニヨリカ、リ又忽チ打伏シ下ニテ運動スルカト思ヘハ二階ニ腰掛ケ居リ左スルカト思フト又下ニ降リルナト行爲一定セヌ又二階ニテ手紙ナトヲ書ク故○さが何處へ出するかト尋ネシニ『船に出すのだ』ト答ヘシガ手ガ震ヘテ書ク能ハザリシ○さハ『同人の氣か變になりたり』ト疑ヒ『若しや』トテ剃刀ヲ捜セシニアラサリシカバ『咽喉でも突て死ぬかも知れん』ト思ヒ剃刀ヲ如何ニセシヤト○ン○ニ尋ネシニ『向ふの家に貸して遣つた』ト言ヒタルカ遂ニ捜シ出スヲ得スシテ已ミス

是日ハ碌々酒モ飲マスびるヲ朝ト午トニ一本宛飲ミ食事ハ午後ニそつぷヲ少シ飲ミ晩ニをむれつ半皿ヲ食シタリシノミ被告自ラハ午後四時半はいんとろう。すきいヲ飲ミタリト言フ被告ハ夕方ヨリ寢所ニ入り子供ヲ尋テ九時頃就寢シ○貝○いハ十時頃睡ニツキ○さハ十一時頃ニ眠リタルガ此時モ○ン

○ハ目ヲ見開キタリ彼ハ夕方ヨリ臥牀ニハアリシモ眠リ得サリシモノ、如クナリシガ此クテ其夜即チ明治三十六年五月七日午前〇時半頃前記ノ如キ犯罪ヲナスニ至レルナリ

是日〇〇地方裁判所豫審判事〇野〇二ハ同裁判所法廷ニ於テ取調ノ際被告人ニ對シ『昨夜被告は剃刀を持つて〇〇に劍を負はせて居るか知つて居るかどうか』ト問ヒシキ被告人ハ『幾らか覚えて居ます』ト答ヘ猶ホ『剃刀を如何にして所持し何處にて見出せしか』ニ對シテ『目が覺めたら其處に剃刀がありました酒を飲んで頭が狂つてましたから其れて切つたと思ひます』ト答ヘタリ被告自カラノ言ニヨルニ彼ガ其夜寢ニ就キシハ日暮頃ナルガ子供ノ寢タノハ知ツテ居リシモ〇〇ガ寢牀ニ入リシハ知ラズ其前ノ日ノ夕刻〇〇ガ剃刀ヲ探セシハ之ヲ知リ居リ又夜半目ノ覺メシ時剃刀ノ我傍ナル疊ノ上ニアルヲ見シガ其ヨリ後ノ一ハ記セズ『屋外に出で巡查に捕へられて裁判所へ連れ來られしとは知るか』ト問ヒテ『何處かへ逃げる積で出たのだらうと思ひます』ト答ヘ『何故逃げるのか』ノ問ニ對シ『誰か自分の跡を追掛けて來て縊り殺すと思ふたからです』ト答ヘ『何故人が追掛けるのであるか』ノ問ニ對シテ『能く覚えてませんが頭は始終妙な工合になつて居て誰か追掛けはせぬかと思つたのです』ト答ヘ『捕へられたとき洋杖を持つて居りしことは』持つ居たと思ひます』ト云ヒ『其杖は自分の部屋で見附けたのだと思ひます』ト云ヒ之ニテ〇〇ガ打チシ一ハ確カニ記憶セズ自分ハ如何ニシテ傷ヲ受ケシカラ知ラズ洋杖剃刀褌衣ノ腹部すばんの腰部及ビ膝ノ邊ニ血痕ノ附ケル由來ヲ知ラズ雇人ノ〇〇ガ此際ドーシテ居リシカ知ラズ『誰かを打つたには違ないが誰を打つたか覚えてま

せん』ト稱シ『誰か打つたと云ふ事は確かに記憶あるか』ト問ハレテハ『人を打つたか或は何かに當りて打れたか覺えがありません打つたと云ふことは確かに云へません』ト答ヘタリ(以上豫審調書)

以下監獄醫〇村〇藏ノ口述及ビ記載ニヨリテ其後ノ狀況ヲ記録スルニ左ノ如クナリ

五月七日 入監ノ時帽子ヲ眉深ニ被ブリ『何時殺さるゝや』ト問ヒ居タリ顔貌忿怒ノ色ヲ帶ビ眼光炯々人ヲ射ル又頭痛、眩暈ヲ訴フ此夜多少安眠セリ

五月八日 稍疲勞ノ狀ヲ呈シ且陽加答兒ヲ併發ス精神狀態ハ鬱悶狀ニシテ時々嘆息ヲ發シ此夜安眠ヲ得ス是日友人〇〇〇スニ書面ヲ送レリ左ノ如シ(別紙略ス)

五月十一日 鬱悶狀態ニシテ安眠ヲ得ス

五月十二日 夜間時々醒覺シ安眠ヲ得ス室内ヲ徘徊ス

五月十三日 昨夜小兒ヲ幻視シ且迷夢ニ襲ハレ睡眠ヲ得ス(本日肛門出血數回其量一回二三乃至四十瓦)

明治三十六年五月十四日余ハ〇〇地方裁判所豫審延ニ於テ被告ヲ診察セリ當時

本人顔貌亂蕪目視茫莫眠足ヲザル如ク周圍ヲ誤解シ(通譯ニ語リシ一ヲ已ニ語リシモノト誤認ス)時日場所ノ指南力充分ナラズ『此所は』ト問フニ『分らぬ』前に來た事はない』ト云ヒ暫クニシ『今朝裁判所に行くのだ』ト言ハレタリト云ヒ今日ハ何日ナルヤヲ知ラズ月ハ凡ソ五月ナリト思フト告ク記憶ニ殘ル最終ノ月ヲ問フニ五月ノ初ナルモ何日ナルカ委シクハ知ラサル一多分三日カ四日マテハ知

リ居ル其頃軍艦ニ行ウタト思フモ其日ハヨク覺エテ居ラヌナド答ヘ『監獄には四日五日も居るならん』ト云フ

頭痛殊ニ額部ニ於テ眩暈ヲ訴ヘ不快ナリト稱シ一昨夜及ビ昨夜安眠セズ屢々悪キ夢又煩サキ夢アリ誰人カ頻リニ煩サク物言ヒ或ハ鐵砲ヲ持チ來リ又小刀ヲ以テ聲ヲ掛ゲナガラ追駈ケラルヲ夢ミナドシ之カ爲ニ目醒ムル事屢々ナリ或ハ醒メカ、ル中猶半ハ夢ノ裡ニアリ醒メテモ暫時茫然タリシコトヲ告ゲ音聲嘶啞右手ニ縛帶ス之ヲ問フニ『是は切りたるなり』ト曰フ切つたか覺えず又『何時切りしか覺えず』三四日前より此傷ある事は知り居る』ト言フ左ノ中指ノ中節ニモ數個ノ擦過傷アリ左ノ示指ノ第一節ニモ極小キ擦傷二個アリ是等モ自分ハヨク其發成ヲ辨ヘズ

是間警察ヘ行キタル事ハ記シ居ルモ其他ハ細シク知ラズ其時話セシ事モ覺エ居ラズ『何か面倒な事かありし爲めと思ふ』ト語リ又○さノ傷ヲ受ケテ病院ニ居ルハ二日許前ニ來タ我友人ヨリ聞キタルコト其傷ハドニー譯カ自分カ負ハセタルコト其傷ハ頭ニアルコト其病狀ハ左程ニ悪クナク友人モ段々ヨクナルト云ヒシコトナドヲ問ニ應シテ徐々ニ答ヘタリ何故今日裁判所ヘ來リシカヲ問フニ懷中ヲ探リ手帳ヲ出タシ其間ニ挿メル家賃請求書ヲ取り出シ之カ爲メニ來リシ旨ヲ言フ

此ノ如ク兇行當時ノ事ニ關シテ追想ノ甚ダ缺漏セル他記憶力ハ著シク減殺シ暫時ノ後對話ノ内容ヲ忘却スル程ナルモ舊時ニ關スル記憶力ハ割ニヨシ而モ我二人ノ子ノ年齢ヲ精知セズ訊問ノ間ニ屢々欠伸ス體重廿五貫百自身身長五尺六寸七分握力三十四手指及ヒ舌ニ震戦アリ瞳孔反應スリーブマン症

狀ナシ膝蓋腱反射稍亢進シ強キ蹠足ニ左足心ニ痛ヲ訴フ『小さき動物の如きもの室隅に奔り忽ち消ゆるを見』唯今留置所にても見たり』ト訴フ又ひはこんでる性意欲アリ肛門ヨリ下血スルハ肺臟ノ破レ腐リテ爲ニ出ルナラントテ不安ノ心ヲ抱キ之ヲ恐レ憂ヒテ再三復ヘシ問ヘリ(以上鑑定人ノ診察ノ要領)

五月十四日 時々出血ノ爲メ稍貧血ヲ來タシ眩暈ヲ訴フ疲勞ノ狀アリ前日ニ同シク安眠ヲ得ス

五月十五日 身體症狀少シク良午後十時頃當直醫見廻リタルニ消毒衣ヲ着ケ居ルヲ見テ大ニ驚キ妖怪ト認認セリ落付キタル後胸部ノ疼痛ヲ訴フ且下血ハ胸部ヨリ出テシナラント妄想ヲ抱キ頻ニ苦慮シ『死する覺悟なり』ト云フ

五月十六日 症狀前日ニ異ナラス

何時入監セシヤヲ問フニ『もー一ヶ月にもならん』ト云ヒ法廷ニ出デシ時日ヲ問フニ『昨日なりしか』ト答ヘ『○ラ○スカ來りて自分に何か話したる事ありや』ト傍ノ人ニ問ヒ掛ケタリ是日友人二名來監面會セシガ其時家事ノ始末ヲ頼ミ又家主ヨリ家賃請求ノ事ニ關シ話ヲナス事辻褄合ヒタリ

五月十七日 鑑定人親シク診察ス。被告人ハ監房ニアリ彼方此方ヲ徐歩シ時々獨語ヲナシ之ヲ監房ヨリ出タン診察スルニ『余を一度見し事ありや』ト問フニ『見た事あり』二三日前に裁判所で見たリト答フ『本日何日なりや』ト問フニ『能く分らんか十六日か十七日ならん』通譯官カ教えた時より時日を知り居る』ト答ヘ且通譯官ニ向ヒ『昨日あなたが私に日の事を問ふたと思ふか如何』ト問ヒ掛ケ

猶ホ『其時十六日だと言はれしならん』ト言ヒ余ノ問ニ對シ余ニ向テ『裁判所に行きしは十四日なりしかあなたが其時私に十四日だと云ひしならん』ト答ヘ其ヨリ前ノ事ハヨク記憶ナキ事ヲ告ゲ又通譯官ニ向テ『何時入監せしやあなたに問ふた事はなかつたか』ト問ヘリ

更ニ五月ニ入りテヨリ記憶スル時アリヤト問フニ『五月ハ一日もよく分らぬ』ト言ヒ自家ニアリシ井最終ノ記憶ニ殘ル事柄ヲ問フニ『入寢時ナルモ其の何日なりしや何時なりしや覺えず』其前ノ事ニ付キテハらゐるすきいヲ飲ミシコト自分ノ部屋ニテ吞ミシ事ヲ告ゲ其らゐるすきいハ自分カ階クシ置キタルモノナリト云『其時ハ殆んど終日酒を飲んだと思ふ酒類ハらゐるすきいにて時々客人と酒場にて飲みし如く思ふも其時日は知らず』ト云フ

入監ノ理由ニ付キテ被告人ハ毫モ之ヲ知ラズ『入監後來訪人より妻とごたくのありしを聞きたり二三日前に〇ラ〇ス氏來リ其時彼か妻に創つけたる事を話せり』自分も微かに誰かと争ひし様に覺ゆ小刀に根棒とを以て己を脅かすものを追駈けしと思ふ其所は我家より少し離れし所で外だと思ふ』誰なりしや知らず相手は二三人なりと思ふ』盡なりしや夜なりしや知らず』ト云ヒ傍ヲ顧ミ通譯官ニ向ヒ『其時彼は妻か余の持てる剃刀をもき取れりと話さざりしや』ト問ヘリ手ノ創ニ付キテモ其由來ヲ話ス能ハズ

目視明瞭ナラス二二日前ハ殊ニ右ガワルカリシ時ニ複視アリ二三年來ノ徵候ニシテ身ヲ屈スレバ目前カ暗クナリ物カ見えナクナル入監來頻リニ右指ニテ左示指ノ頭ヲ摘ミ又撫テルコトアリ監房内ニテ

小動物ノ急奔スルコトヲ見驚キタルコト二三度アリ猶ホ或時ハ動物ヲ見或時ハ女ノ如キモノヲ見或時ハ少數ニ或時ハ多數ナリ

彼ハ從來嫉妬心ヲ抱キシコトナシ智力殊ニ學校智識ハ著シク劣等ニシテ(例之ハ合衆國ハ五十州ヨリ成ルト云ヒ大川ハミスシッピナナルヲ知ルモ大山ハ知ラズ華盛頓ハ第一世大統領ナルト知ルモ其事業ヲ知ラズ)

感情ハ略尋常ナルモ稍鈍キモノ、如ク且著シク物ニ驚キ易シ彼カ子供ノ憐ナルヲ話セハ啼泣ス監獄醫ノ言ニヨレハ入監來夕方ニハ時々落涙スルコトアリ子供ノコトヲ案シ平生子供ト話ヲ成セシコトヲ思ヒ出ダスナリ

睡眠十分ナラス毎夜床ニ入り一二時間スルト醒覺シ其ヨリ少シ運動ス

身材ハ中等大ニシテ榮養佳良ニ脈搏ハ大實強左手背ニ豌豆大ノ腫物アリ(がんぐりをん)左中指ノ中節ニ小サキ切創アリ其傍ヲ尙極小サキ創二三アリ右手ニ於テ拇指示指間ノ皮膚ニ長サ凡二仙迷ノ半ハ治シ且ツ開墜セル切創アリ右中指ノ伸側(第一節第二節間ノ關節ノ接骨方ノ角ニ)ニモ小創アリ前膊ニモ二個ノ小創アリ一ハ尺骨側ニ於テ上下ノ中央ニ一ハ伸側ニ於テ稍尺骨方ニヨリ肘關節下凡七仙迷ニアリ手指ハ細カニ震戦ス瞳孔ハ反應鈍シ右眼ニ輕度ノ結膜炎アリ視力ハ指ニテ検査スレバ尋常「スネルレン」ニテハ右四十左三十胸腹ノ臟器ハ尋常ナリ胸部胸骨上部ヨリ左右乳嚢ノ邊ニ向ヒ皮下靜脈ノ開張アリ膝蓋腱反射亢進ス「アヒルレス」腱反射尋常ナリ足背ハ水腫狀ニ膨起ス大腿ノ内側

ニ於テ膝蓋ヲ去ル十五仙迷許ニ長サ八仙迷ノ創痕アリ

五月十八日 昨夜僕麻質斯ノ爲ニ足痛ミ眠ラレズ今朝二三分間劇シキ頭痛ヲ覺ニ消化不良ニシテ且便秘アリ

五月十九日 今朝ハ氣分ヨク病院ナル妻(○さ)ニ手紙ヲ與ヘン爲メ紙筆ヲ乞ヘリ

五月二十日 氣分ヨク毎日ノ如ク漸次酒ノ醒メシ如ク何事モ明瞭ニナルト申立傍ナル新約全書ヲ取り宗教上ノ談話ヲナス

同日山手六角病院ニテ妻○倉○さ宛書信裁判所へ檢閱ノ爲メ○田看守長ヲ以テ豫審判事へ送附セシ處文意不審アルニヨリ鑑定ノ爲メ預リ置ク趣其書信文ハ左ノ如シ
余カ親愛スル妻ヨ

余ハ御身ト並ニ助ケナキ無邪氣ナル兩人ノ幼兒トニ對シテハ實ニ斷腸ノ思ニ不堪候余ハ御身ノ無事ナランコトヲ祈リテ茲ニ數行ノ文行ヲ認メ申候○さヨ彼ノ出來事ニ對シテハ何卒神ノ爲メ余ノ罪ヲ赦サレ度候余ハ確カニ彼時ハ本心ヲ失シ居候余ハ生涯中如何ナル時ニモ余カ幼兒ノ母タル御身ヲ殺害スルナドトハ夢ニモ思ハサリシ事ヲ信セラレ度候フハ如斯事ヲナスハ神ノ禁ジ玉フモノナルガ故ニ余ハ○ら○すが御身ノ病院ニアル事ヲ告ケ候迄ハ御身ハ無事ニ營業シ居ラレ候ト許思ヒ居リシ譯ニ候余ハ御身ノ速ニ退院シ得ルニ至ラン事ヲ希ヒ且御身ノ來リテ余ニ面會セラレン事ヲ願居候御身ハ定メテ金錢ヲ要セラレ候ト存シ候余ニハ朋友モ有之二日前ニハ○ニ○シ○氏并ニ○

||氏此處へ來ラレ候程ナレハ御相談可有之候余ハ幼兒ニ一目遇ヒ度思ヒ居リ候今度ノ事ニテ余ハ今後一切飲酒セサル事ニ決心致シ候何卒御返事下サレ度候不憚ナル幼兒等ハ實ニ余カ晝夜斷腸ノ種ニ候兩人ハ定メテ『おっかさん抱』おとっさん抱』ト申シ居リ候コトト推察致シ候 以上
千九百三年五月十九日 ○○監獄 ○ー○ン○

○手○角病院 ○ン○夫人即チ○倉○さ殿

五月廿一日 居留地内外人ノ評判ヲナシ飲酒ハ財政上信用上道德上悉ク損失アルモノナリト言ヒ言語舉動常人ノ如シ

五月廿二日 來訪者ノ有無ヲ訪ヒ家事ヲ心配シ居レリ

五月廿三日 時々頭痛スト告グ

五月廿五日 天氣ノ爲カ四肢ニ痠麻質斯痛アリ

五月廿六日 夜安眠異狀ナシ左ノ書信ヲ發セリ

拜啓○さ及小兒達ハ如何ニ暮シ居リ候ヤ面會致度痛心ノ爲メ御伺申上候
小生ノ受取事ノ出來ル金圓ハ悉皆同人等ニ相與ヘ可申候

一週間前ニ病院ニアル○さニ通信致候へ共未タ何等ノ回答無之同人ガ回復次第小兒等ヲ同伴シテ訪問シテ與ル、事ヲ待居リ候過日○ー及○る○し○ガ訪問シ與レタルモ其後家ノ事ニ付キ何トモ申越シ無之候ニ付何卒成行ヲ御一報被下度又如何ナル物品カ持出サレタルカモ承知致度右物品中ニハ失

ナフコトノ出来サルモノモ有之候

世間ノ人が餘リ酷ニ小生ノ事ヲ言ハズ家族及負債ニ付キテハ尙善意アルモノト證明センコトヲ望ミ候
將來ハ必ス飲酒致間敷候
迅速ナル御回報相待申候

千九百二年五月廿六日

〇〇町〇〇番

〇エ〇エ〇ク〇ウ〇殿

〇〇監獄ニテ

〇一〇〇ン〇

五月廿七日 今朝入浴後疲勞ヲ覺ニ眩暈ス

五月廿九日 市役所ヨリ發シタル被告人宛營業告知書ヲ示セルニ目下被拘監中ニテ休業シ居リ且此稅
金ハ向六ヶ月分ノ前納額故猶豫書ヲ市役所ニ出タシ度トテ直ニ書面ヲ認メタリ是日理髮剃鬚ヲ願出
テタリ

六月二日 昨夜來風邪ノ氣味アリ相變ラズ眩暈アリ

六月四日 音聲嘶啞氣力ナシ湯ノ後ハ殊ニ疲勞ヲ覺ユト告ク本日ハ甚ダ眩暈ス著衣ノキ二度著靴ノキ
一度アリ各二三分間位持續セリ其際ニ人事不省トナルコトナシ

余即チ鑑定人ヲ見テ見知り居リ問ニ應シ一度合ヒタル事アリト云フ何時ナリシカ一週位ノ前ノ事ナ
リシカ裁判所ニテモ見タル如シト云フ

人事ヲ醒覺セシハヨク知ラヌガ五月ノ中頃ヨリシテ裁判所ニ出テタルヨリ以後ノ事ハ多少知り居ル

然シ今日ニテモマタ完全ニ明瞭トハナラス二週間前頃ヨリ頭ハ少シク明瞭トナリシト思フト告グ

『前月の初めの頃は知り居る』入監前は家に在りて酒を飲み居たり『其事入監迄のとは何も知らず』
『〇ラ〇スが來りて余か妻の頭と頸とに傷けし事を語れり』ナト語ルモ其理由ヲ擧クルヲ得ス『余は
其事を知らず本心に出してしにあらす』誰か余を攻撃するものを防ぐ爲めなせしと思ふ『其人がない
ふとすてつきを持ち打ちかゝりたりと思ふか其人は明かに見えす』兎角誰かと争ひしとは記憶する
が能くは知らず』余は初め妻は家にありて業を取り居るものとのみ思ひ居たるに友人より妻が病院
に在ることを聞き知りたり』等ハ被告ノ言語ナリ

監房ニテ時々動物ノ牀ノ上ヲ走り或ハ壁ニ蹴ケ上ルヲ見ル或ハ人形ヲ見ル動物ハ時トシテハ二三個
時トシテハ多數ナリ時トシテハ色々ナ家財又ハ晝ノ額ヲ幻視シ且皆多少動キツ、アリ斯ノ如キコ
多クアリシハ十日許モ前ニテ此四五日ハ何モ見エズ

手指及舌震戦ス慢性咽喉炎左側扁桃腺腫大右足背ニ疼痛ヲ訴フ瞳孔ハ反應ス兩眼視力三十

六月九日 豫審廷ニ出ツ

『巡査に逮捕された事は覺ありや』ト問ハレシキ『巡査に逮捕された事は記憶しませんが警察署へ往
きしは今微かに覚えています』ト答ヘ『五月六日の夜のは少しも記憶して居ないかどうか』ト問ハ
レシキ『記憶はして居りませんが其夜は誰か、利刃と棒を以て自分を殺そとした者がありて其を
防止する爲め誰かと喧嘩したかも知れませんが其時分は腦が惡イ時でした』ト答ヘタリ

六月十日 同上足背ノ痛ミハ餘程薄ラキタリ

六月十三日 顔色蒼白目視異彩ヲ放チ談話ノ調子モ稍亂レタリ

六月三十日 午前運動後監房ニ入レントセシニ之ヲ拒ミ『豫審久しく決定せず早く横濱に歸りたし』ト云ヘリ

七月八日 前回『出廷せしは何時なりしや』と問ふに先月の半頃より前で凡そ一ヶ月近くならん』ト云ヒ『前日入監を拒みたるは何故なるや』ト問フニ『入監を拒みしにあらす歸れるかと問ひし迄なり』ト云ヘリ又其時日ヲ問ハレテ『是れは凡そ一週間前ならん』ト答ヘタリ

目視茫莫、輕度ノ結膜炎咽頭加答兒アリ舌震戰手指震戰シ言語感動ヲ帶ビズ感情一般ニ鈍麻セルヲ認ム

説明

本人ガ兇行ノ當日時經ズシテ○地方裁判所法廷ニ於テ陳述セシ所ニヨレバ刺刀ガ目覺メタ時我傍ナル壘ノ上ニアルヲ見シヲ記憶スルモ其後ノ事ハ記憶セス『刺刀を以て○に劍を負はせしとは幾らか覺わ居る』ト云ヒ猶ホ色々ノ尋問ニ對シ『誰か自分の跡を追掛け來りて縊り殺すと思ひ逃げる積にて外へ出た』ト云ヒ又『捕へられしとき洋杖を持居しを記憶し誰かは之にて打ちたることは打ちしが確かに記憶せず打つたと云ふ事も確かに云へません』ト云フ左スレバ此ノ如キ應答ヨリ考フルニ被告人ハ意識ニ障礙アリテ全ク人事不省マデニアラザルモ半バ人事不省ノ有様ニアリタルモノト云ハザルヲ得ス

ソハ被告人ガ兇行當夜ノコトヲ盡ク記憶セス記憶スルコトモアリ記憶セサルコトモアルニヨリテカク推定スルモノナリ

此意識濁濁ノ状態ハ五月十四日余カ自カラ○地方裁判所法廷ニ於テ被告人ヲ診察セシ際ニモ之ヲ檢出スルヲ得タリ即チ此時被告人ハ月日ヲ明カニセズ場所ヲ遠答スルヲ得ズ周圍ノ事情ヲ正ク見解スルコト能ハズ注意力及び記憶力著シク缺亡シ今見シコト今聞キシコト直ニ忘却スル等ハ皆之ヲ證明スルニ足レリ五月十七日頃モ記憶未タ十分ナラズ時日ニ關スル辨別殊更惡シク『昨日あなたが私に日のことを問ふたと思ふか如何』『其時十六日だと云はれしならん』『何時入監せしやあなたに問ふたとはなかつたか』ナド自分ノ記憶スヘキコト却テ傍ノ人ニ何心ナク問ヒ質セルガ五月二十日頃ヨリ被告ハ『氣分次第により漸次に酒の醒めし如く何事も明瞭になる』ト稱シ醫師ノ診案上ニモ精神ノ次第ニ常ニ復スルヲ認メタリ猶ホ此間ニ於テ被告人ハ腸胃症ヲ患ヒ肛門下血ニ惱ミ時々頭痛眩暈及ヒ夜間不眠ニシテ驚夢多キヲ訴フル他種々ノ幻視錯視アリ看護衣ヲ穿テルモノヲ妖怪ト誤認シ傍ニナキ我幼兒ヲ目撃シ屢小キ動物ノ室内ヲ急奔スルヲ見又大小動靜色々ナル動物又器物繪等ノ移動スルモノヲ見又ひぼこんでる性ニシテ肛門下血ヲ以テ肺臟ヨリ下ルモノトシテ不安ノ心ヲ抱キ且又診案上ニモ目視ノ茫漠薄弱結膜炎瞳孔反應ノ遲鈍視力ノ減退手指及ビ舌ノ震戰膝蓋反射ノ亢進等アルヲ確定シタルガ故ニ當時被告人ハ身體上ニモ未ダ全ク健康ニ復セザリシヲ知ルベク從ツテ被告人ガ兇行當日以後疾病ノ爲ニ意識濁濁ノ状態ニアリ五月二十日頃ニ至リテ次第ニ意識清明トナレルモノナルハ疑ヲ容レズ

カレハ其兇行以前ニ於テ被告人ノ精神状態ハ如何ナリシヤト云フニ彼ハ十五日許リモ前ヨリ多ク飲酒シ之カ爲ニ精神其平衡ヲ失ヒテ感情殊ニ激シ易クナリ時々暴行シタルヲアリ或ハ器物ヲ投ケ倒シ或ハ妻婢ヲ毆チタリ蹴タリシ女房ヤ子供ニ對シ殺意アルカ如キ言語ヲナシタリ五月ニ入りテ酒量頓ニ減ジタルガ飲食ヲ十分ニセス神志不安ニシテ舉動落付カス或ハ茫然トシ居リ或ハ憂鬱シ居リタルヲ見ルニ被告人カ數日連飲後精神ニ多少ノ異常アリタルハ明ラカニシテ兇行前又兇行當夜ノ一ニ關シテモ被告人ノ記憶ハ或ハ存シ或ハ存セズ其時ノ事共ヲバ多分ハ追想スルヲ能ハズ即チ五月初日モ明白ニハ患者ノ記憶中ニアラスシテ會テ臺所ニテしちりんヲ蹴飛シ女房ヲ毆打シ雇女ノ髮ヲ握リタリセシトハ記憶セズ『五月は一日も分らぬ』トカ『五月の初めの頃は知り居る』トカ『多分三日か四日迄は知り居る』トカ云ヒういすきいヲ終日飲ミタルヲ知ルモ客人ト酒場ニテ飲ミシ如ク思フモ其時日ハ知ラザルヲ又兇行前ういすきいヲ自分ノ部屋ニテ飲ミタルヲ其酒ハ自分カ匿クシ置キタルモノナルヲモ人ニ語ルヲ得兇行前最終ノ記憶ニ殘レル事ヲ問フニ『入寢時なるも其何日なりしや何時なりしや覺えず』ト答ヘタリ之ニ由リテ之ヲ見レバ被告人ノ精神状態が四月ノ極末頃ヨリ異常ヲ呈シ居リテ甚タ感性刺戟性トナリ運動性興奮症狀著シク五月初ニ入り酒量頓ニ減シタルニ加ヘテ食事不定ノ爲榮養十分ナルヲ缺キ精神症狀ハ一層深重ナルヲ加ヘシモノト認メサルヲ得ス

然ラバ即チ被告人〇一〇ス〇ン〇ハ明治二十六年五月初ヨリ同二十日頃迄ハ精神ニ異常ヲ呈シ居リ意識ハ稍甚シク溷濁シ謂ハバ半バ夢中即チ人事不省ノ状態ナリシモノト謂フベシ

此ノ如キ意識障礙ヲ主トスル精神病ハ鬱憂性暴動發作癲癇臟躁發作酒客譫妄ノ發作麻痺狂ノ興奮状態等ニ於テ此種ノモノアルヲ得ヘシ故ニ被告ノ意識障礙ハ精神障礙中如何ナル種類ニ屬スルモノナリヤハ此ニ次テ解釋ヲ要スヘキ問題ナラン抑被告人ノ父ハ大酒家ニシテ母モ少シク酒ヲ嗜ミ且父ハ鐵道ニテ轢死セルガ其原因不明ナリト云フヲ見ルニ多少病累遺傳ノ惡影響ヲ被ムリ居ルモノト認ムルヲ得ベク本人ハ二十四五歳ヨリ飲酒シ初メ十餘年前飲食店(〇〇ニテ所謂ちやぶ屋)ヲ開業セシヨリ店ニ酒アレハ益飲酒ノ分量ヲ増加シ醫師〇藤〇次郎ハ被告ガ明治廿一年中肝臟症ニ罹リタルヲ知リ醫師〇ン〇一ハ被告ガ六七年前酒精中毒症ニ罹レルヲ證言セルヲ見ルニ被告ハ久シキ前ヨリ慢性酒精中毒症ニ罹リ居ルモノト信セラレ且醫師〇藤〇次郎及〇倉〇三ノ陳述ニヨレハ二三年來被告ハ著シク感情刺戟性トナリタリト云ヒ殊ニ明治三十五年中ハ酒後狂躁シテ時々こぶ椅子ナドヲ投ゲ器物ヲ破壊シ〇さヲ毆打シ來訪人ナドニ向ヒ拳ヲ固メテ打チ掛ルヲナトモアリ四月中ハ幼兒死亡後ナルニモ關ラス亂暴シテ警察署ニ拘留セラレシヲアリ同年九月中肛門下血ノ爲一般病院ニ入りシ時ニハ精神ニ異常ヲ呈シ憂鬱閉シ或ハ不安恐怖シテ人ニ害ヲ加ヘラルト妄想シ幻視ナドモアリ一夜雨強キニ出奔セルヲアリタリト云フ是等ニヨリテ見ルニ被告〇一〇ス〇ン〇ハ數年來慢性酒精中毒症ニカ、リ二三年來ハ精神症狀ヲモ併發シ所謂酒客暴虛症酒客不德症等ヲ起シ居リタルヲ明ラカニシテ是ノ如キ精神症狀ハ兇行前ニ至ル迄モ治癒セサリシトハ被告カ四月ノ末日頃ニ於ケル亂暴ノ行爲ニ徴シテモ明カナリ抑酒客ニ於テハ其中毒ノ増スニ連レテ精神症狀ヲ起スモノニシテ感情ノ鈍麻殊ニ道德風儀ノ感情ノ缺

乏ヲ致シ責任義務ノ知覺銷殺スルヲ其著キモノトナシ又其感情ハ輕薄トナリテ動キ易ク激シ易クナルヲ常トシ之カ爲ニ忿怒シ暴行シ家内知人ニ對シテ暴行ヲ加フルニ至ルハ世間例多キヲナリ又時々妄覺殊ニ幻視ヲ發シ屢又妄想ヲ呈スルヲアルモノナリ是等ハ酒客ノ常態ナルガ前文被告ノ病狀記錄ヲ通讀スレハ何人モ被告ニ是等ノ症狀アルヲ疑ハサルベシ又酒客ニアリテハ此他ニ一時性ニ發作狀トナリテ意識溷濁ヲ起シ其際ニ譫妄狀態トナルヲアリ之ヲ酒客譫妄ト稱シ過多ニ飲酒セル後色々ノ原因ニテ起ルモノニ病ノ起ラントスル頃ハ不快、憂鬱頭痛、腸胃症不眠アリ次テ卒然譫妄狀態トナリ種々ナルモノヲ幻視シ驚怖スベキモノ又ハ大小動物ナドヲ目撃シ苦悶シ驚愕シ爲ニ不安不穩トナリ或ハ躁擾シ自他ニ危險ノ行爲少ナカラズ其間意識著シク溷濁スルモ傍ラノ人ト應對ハ猶ホ多少常ノ如クナルヲ得ベク全ク人事不省ニハアラス此ノ如キヲ數日ニシテ治スルカ又ハ死ニ歸スルヲ通常ノ經過トス而モ其症狀ハ常ニ此ノ如ク完備スルニ限ラス色々ノ變態アリテ或ハ一夜幻覺盛ニアリテ傍人ヲ誤認シ烈キ暴行ヲ加ヘ翌日ハ殆ント治スル如キモノアリ

被告〇一〇ス〇ン〇ハ少シク慢性酒精中毒症ヲ患ヒ居リ四月下旬ハ殊ニ多量ノ酒類ヲ飲用シ居リタルニ五月初ヨリ酒量頓ニ減シ飲食十分ナラス感情憂鬱シ且刺戟性トナリ居リ且兇行後ニ於テモ意識溷濁シ居リ慢性酒精中毒ノ症狀ヲ呈シ居リタルカ故ニ被告ハ明治三十六年五月七日午前一時半頃兇行ニ及ビタル當時酒精中毒ノ結果トシテ一時譫妄狀態ニ陥イリタルモノト認定スルヲ至當トス且彼カ鬱憂性ニカ、リ居ラザリシコハ明白ニシテ彼カ既往症及ヒ現症中ニハ癲癇又ハ臆躁ト考フベキ點ナク又麻

癲性ト診斷スヘキ所更ニナキカ故ニ是等ノ病症ナリトハ診斷スルヲ得ス

倍テ此譫妄狀態ニ於テ意識溷濁ノ程度極甚シカラザリシハ彼ガ當夜ノ事柄ヲ後ヨリ幾分カ記憶シ居ルニヨリテ之ヲ知ルベク被告ノ自カラ陳述スル所ニヨレハ誰カ自分ノ跡ヲ追ヒ掛ケ來タリテ縊メ殺サントスト思ヒ之ヲ避ケ逃ントシテ屋外ニ出テシ様ノ心地セリト云ヒ誰カ己ヲ脅迫スルモノアリ又小刀ト根棒トヲ以テ來リ迫リシモノアルニヨリテ之ヲ防ガントシテ傍ナルモノト爭ヒタル様覺ユト云ヒ且兇行後監獄ニ在ルキモ屢驚怖スヘキ夢ニ襲ハレテ睡ヲ安カリシヲ得サリシト云ヘバ彼兇行ノ當夜ニ於テモ恐ラクハ夢像ノ爲ニ驚カサレシカ或ハ夜中卒然目醒メテ傍ノ人ヲ誤認シ己ニ危險ヲ加フルモノトセシナランカ此際意識ノ溷濁センガ爲メ己ノ爲セシト己ニ加ヘラレントセンコトヲ誤マリテ記憶ノ中ニ存スルコトモ亦稀異ニアラサルナリ之ヲ要スルニ被告ノ疾病ニ罹リ居リタルコト其疾病ノ酒精中毒症ナルコト及ヒ之カ爲ニ意識溷濁ノ狀態ニ在リシコトハ余ノ信スル所ナリ

惟フニ之ニ關シ疑ヲ插マザルヲ得サルハ被告人ガ兇行ノ翌日即チ五月八日監獄ヨリ友人〇〇〇スニ送リタル書面ノ餘リニ眞面目ニシテ餘リニ著作セラレタルニアリ五月七日ニ審問サレタル際及ビ五月十四日ニ余カ診按セシ際ニ於テ被告人ノ精神知覺カ甚タ朦朧タリシニ比スレバ此書面ヲ著作セシキノ精神知覺ノ明瞭ナルハ天地理ノ懸隔モアリト云フベク人ヲシテ異様ノ感アラシムルモ精神障礙殊ニ一時性ノモノガ其發作後ニ於テ或ハ忽チ著ク表ハレ又ハ忽チ何事モナキ迄ニ輕度トナルコトアルハ吾人ノ屢實驗スル所ナレバ其前後ノ精神狀態ノ確定セラレタル以上ハ之カ爲ニ彼意識溷濁ノ狀態ヲ以テ伴作擬

装ナリト断言スルハ稍之ヲ偏重視スルノ嫌アリト云ハサルベカラス況ンヤ其書狀ニヨルモ被告人ハ彼ノ兇行アリシヲ覺リ之ヲ後悔スルノミニシテ當夜ノ事態ハ之ヲ明知セザルハ『出來得ベクハ巨細ノ事情ヲ承知致度存候』等ノ文字アルニヨリテ之ヲ察スベキナリ

猶ホ又注目スベキハ被告人ガ其病狀ヲ誇張セントシテ其病症ヲ伴作スルヲナリ五月十四日頃自己ノ手ニアル傷ヲ問ハレテ三四日間ヨリ此傷アルコトハ知り居ルカ何時切リシカ覺エ居ラズト云ヒ兇行後警察署ヘ行キタルヲハ覺エタルガ其仔細ハ知ラズ何カ面倒ノヲガアリシ爲ト思フト云ヒ我妻ハ病院ニ居ルヲハ友人ヨリ聞ケリドローニー譯ナルカ余ガ彼ニ傷ツケタリナト云ヒテ其前法廷ニテ取調ヲ受ケ又來訪友人ヨリ事狀ヲ聞取リシヲ殆ント知ラザルモノ、如ク言ヒ做シ其他知覺、辨別、記銘力等著ク症狀ヲ呈シテ外見上意識ハ甚溷濁セシニモ關セス五月十七日ニハ余(鑑定人)ニ向ヒテ二三日前裁判所ニテ面會シタリ裁判所ニ行キシハ十四日ナリシガあなたハ其時私ニ十四日ダト云ヒシナラント云ヒテ明カニ二十四日診察ノ際ニ意識ノ左程迄溷濁セシニアラザルヲ示シ猶ホ又入監ノ理由ヲ更ニ知ラサル如キ様ヲナシ六月九日ノ豫審調ノトキモ法廷ニ於テ兇行當夜ノヲハ反省セサルカ如キ返答ヲナセリ此ノ如キハ恐クハ被告人ガ我犯罪ニ對スル責任ヲ輕減セントシテ殊ニ當夜ノ意識溷濁ヲ裝ヒテ何事モナルベク『知らぬ』^{よく覺えぬ}ヲ以テ推シ通サント欲スルニヨラズンバアラズ是レ適吾人ヲシテ被告ガ兇行當夜ノ精神朦朧狀態ハ伴作擬裝ニアラスヤトノ疑惑ヲ起サシムルニ足レリ然レモ是レ實ハ左ニアラズシテ伴狂ハ兇行當日以後謂ハバ精神障礙ノ潤色トシテ附加シ表ハレタルニ過ギザルナリ目下被告ノ

病症ハ主トシテ慢性酒精中毒ノ身體症狀ヲ殘シ精神症狀ハ極メテ輕度ナリ

鑑定

以上ノ説明ニヨリテ即チ左ノ如ク鑑定ス

- 一、〇一〇ス〇ン〇ハ現時精神病ニ罹リ居ラズ
- 一、同人ハ明治三十六年五月七日午前〇時三十分頃犯罪當時精神病ニ罹リ居リタリ
- 一、右精神病ハ慢性酒精中毒症ニ基クモノニシテ當時知覺精神ヲ喪失セシメ是非ノ辨別ナキニ至ラシムル程度ノモノナリ

東京市本郷區駒込西片町十番地

明治三十六年七月十七日

醫學博士 吳 秀 三

右被告ハ免訴ノ旨渡アリタリ

第十三例 故殺犯被告人○田○釜○精神狀態診斷書

明治三十七年六月十八日○○地方裁判所所屬辯護士○木○太郎君ハ余ニ囑スルニ○○府○○郡○○町大字○○○町○○○番地平民○○下○○之助方雇人○田○釜○(明治十六年六月十日生)ガ明治三十七年三月十八日同○○郡○○○村○○○番地○田○鈴○方ニ於テ本人ノ實母○だ(嘉永六年八月十八日生)ヲ殺害シタル當時本人ハ知覺精神ノ喪失ニヨリテ是非ノ辨別ナカリシヤ如何ノ診斷ヲ以テセリ
余ハ其書類及ビ關係者ノ陳述ヲ案シ之ヲ考フルニ

第一節 家系及ビ犯罪迄ノ既往狀況

右○田○釜○ガ家系ニ於テ其父ハ酒亂ニシテ卒中風症ニテ死シ母ハ今回ノ被害者ニシテ神經病性ニシテ素行修マラス五十餘歳ニシテ男狂ヲナスノ噂アリ兄一人ハ酒亂ノ癖アリ
被告本人ハ幼時蟲氣アリ屢々痙攣ニ惱ミタリ明治二十六年十月頃即チ十一歳ノ時ヨリ前記○下方ニ雇ハレ主人ヨリ讀書算盤等ヲ教ハリ又十七八歳ノ頃一二年間許夜學ニ通ヒ高等小學二三年程度ノ讀本修身書ヲ學ビシカ記憶進歩ハ少キ時ヨリ甚ダ悪カリシト云フ幼時ハ惡戯ヲ好ミ近所ノ子供ト喧嘩ヲナシ雇主ハ屢之カ爲メニ其子等ノ父兄ヨリ交渉ヲ受ケシヲアリ惡戯ヲ以テ近邊ニ名高カリシ又常ニ不安ニシテ外出ヲ好ミ一時間モ店ニ安居セス間アレハ裏海岸ニ出テ、逸遊ス(○下○之助語ル)本人ハ至極正直ニシテ品行モ善良ニ曾テ不良ノ行爲アリシヲ聞カス唯明治三十六年月日不詳品川ノ某妓樓ニ上リ遊

與ヲナシ主人ニ謝セシコト一回之アリシノミ(○○警察署警部○直、巡查○井○吉ノ犯罪原因搜查口頭報告書)

猶○警部○井巡查ハ被告ハ一種奇異ナル性癖モノナリト聞キ雇主ノ言ニヨレバ被告ハ性質頗ル短慮ニシテ日常來客ト些細ノ事ヨリ口論ヲナスノ癖アリテ之カ爲メ主家ニ於テモ屢説諭ヲ加ヘラレタルコトアリ極小心ニシテ憤怒シ易ク人ノ言語ヲ妄想シ(?)氣ニ懸ケ或ハ幻夢ナドノ善惡ヲ思ヒ詰メ固リ解ケズ(?)厭フコトヲ命ズルト直ニ怒ル癖アリ又多年雇主家ニ居リテ我儘ナル爲メ主人不在ノトキハ其妻母ト口論スルコトアリ(○下○之助調書)

近年ニ至リ自姿ハ益甚ク主人ノ命ヲモ遵奉セス我意ニ適スレバ實ニヨク働ケトモ然ラサルトキハ再三命ヲ下シ終ニ纒ニ之ニ應ズル位ナリ一昨年頃ヨリハ刺戟性忿怒性トナリ主人ニ戒メラル、トキ三日間モ憤懣スルコトアリ此時分ヨリ客ニ對シ切口上ニシテ節ヲ付ケ氣取ル様ニナレリ昨年春ヨリハ其度殊ニ劇シクナリテ舉動一層甚シク變化シ且餘程慢心ノ様子アリ外出スルトキハ一々衣服ヲカヘ或時ハ糠石鹼等ニテ顔又ハ手ヲ洗ヒ歩行スルニモ肩ヲ張り兩手ヲ突張り歩行シ近邊ノ者モ常ニ笑ヒ居タリ秋頃ニ至リ慢心ハ愈々加ハリテ見世ノ子供ヲ相手ニ私ハ是デモ見世ノ且那ナリ與ノ者ハ見世ノコトニ口出スルハ無用ナリ私ハ是テモ相庄(主家ノ屋號ナリ)ノ白鼠ナリサレバ外出スルトキナトハ頭ヲ下ケヌモノハナイ白鼠ニナルニハ何カラ何マデ心得テ漸ク其位地ニナルナリナドト語り又本人ニ對シ彼是小言ヲ申聞カストキハ非常ニ立腹シ終日不機嫌ニテ容易ニ解ケス故ニ家内者カ可成小言ヲ云ハズ差支ナキ

コトハ黙シ居タリ(〇下〇之助語)

一、二年前博徒溜松ト入質ノコトニ付キ口論ノ末命ノ取遣ヲナストテ出刃庖丁ヲ懷中シ外出セントスルヲ雇主ニ止メラレタルコトアリシ(〇、〇井聽取書)ナドモ其餘波ナルベシ又近隣ニ遊ビニ行キ雜談中婦人ノコト多ク近所娘子ノ美談ヲ嘯シ或ハ其家ニ來リ合セシ若者ト一二言争ヒタル時ハ兩眼ヲツリ上ゲ顔色ヲ變ヘ非常ノ様子ナルヲ見テ他ノ者ハ之ヲ避ケル位ナリ(〇下〇之助語)
是レヨリ先キ明治三十年頃ヨリ時々卒然大シタ理由ナクシテ家出シタルコト度々アリ明治三十年中最少シ學問シナケレバ一人前ニナレヌカヲテ無斷暇ヲ乞ヒ主人ノ説諭ニテ思ヒ止マリシコトアリ(〇警部被告聽取書)

四、五年前祐天和尙ノ話ヲキ、大ニ感奮シ主人ニ無斷ニテ成田不動尊ニ詣テ一週間ノ斷食ヲナシ後人ヲ以テ詫ビテ主人方ニ歸參セシコトアリ當時ノ言譯ニ祐天上人モ水行斷食ニテ英物トナリタレバ余モ之ニヨリ物覺エヨクナリ一人前ノ者トナラント思ヒ又商業上巧ミニ取引ノ爲シ得ラル、様祈願シタルナリト云ヘリ(〇井聽取書、〇下〇之助語)

明治三十五年春頃日暮ニ何事カ不平アリシカ無斷外出シテ翌朝早ク歸來シ暇ヲ吳レト云ヒシコトアリ(〇下〇之助語)

明治三十六年一月三日見世ノ拭掃除ヲナス際一番ノ晴着ナル羽織ヲ着テセシ故主人ハマタ宿入前ナレバ汚ストイケヌカラ脱ゲト命ジ又妻ノ仕付ケアシキ爲メナリトテ主人夫婦口論ヲナセシニ本人聽クニ

忍ビズトテ卒然無斷ニ外出シ翌日歸宅スルヤ直ニ暇ヲ貰ヒタシト云ヒ種々説諭シ且尋問セルニ〇京〇町及ビ〇〇區ノ雇人請宿ヲ聞合セ他ニ奉公セント思ヒシガ口ナキ故店ニ歸リシガ入ル能ハズ又金錢ナキ爲メ警察ニ至リ一宿ヲ請ヒシモ許サレヌ再ビ店ニ歸リ戸ヲタ、キシガ開ケザル故他ニ一泊シタリ(〇、〇井被告聽取書、〇下〇之助語)

又三十七年一月中モ無斷家出シ雇主ノ家ニ歸來ルヲ得ズ人ヲ以テ詫ビ入レタルコトアリ(〇、〇井聽取書)

昨年以來從前ニ異リ人ヲ驚カセシハ

一、生物ニ對シ殘忍ナルコト。ベスト豫防ニテ鼠買上アリシ時分鼠ヲ生キタル儘又ハ殺シテ鬚ヲ引抜ク之ヲ問フニ筆ヲ作ルナリト云フ又生キタ儘鐵線ニテ縊リ殺スコトアリ又裏海岸ニテ蛇ガ出ルト常ニ之ヲ捕ヘ殺ス其殺シ方普通ナラズ或ハ尾ヲ持チ之ヲ振り廻ハシテ後地ニ打付ケテ殺シ或ハ板ニノバン釘付ニシテ海ニ投ジ又ハ火ヲ付ケテ之ヲ焚キ燃ル所ヲ尾ヲ搏リテ海ニ投シテ得々然タリ凡テ此ノ如キコトハ主人ノ目ヲ窺ミテ之ヲ爲シ主人之ヲ戒ムレバ蛇ヲ見ルト此ヲ虐待セザレバ心地悪シクカクスルトキハ心地ヨシト告グ

二、舉動ノ異様傲慢ナリシコト。或ハ土藏ノ中ニ入り刀ヲ拔キ窓ヨリ往來ニ客待スル人力車夫ニ示シ又ハ振り廻シ劍舞ノ真似ヲナシ武藏國ノ住人〇〇野〇頼ナリト威張リタルコトアリ又昨年以來熱心ニ三國志十五卷ヲ讀ミ卷中ノ武人ヲ讚稱シ何度カ繰返ヘシテ讀ミタリ(以上〇下〇之助語)

昨年十一月營業仲間ニ入營スルモノアルトキ主人病ミシ故代理ヲ頼ミシ且行掛ケニ親戚へ寄り行ケト云ヒシニ早朝其家ニ至リ帽ヲ被リ襟卷ニ面ヲ裏ミ表ヲ叩キ「加藤く」ト呼ブ又先方ニ至ルモ家ノ中ニ入りテモ帽モ襟卷モ取ラズ人ニ注意サレテ之ヲ除キタリ

三、舉作ノ不靜安不沈着ナリシコト。其舉動ハ内外ニ於テ共ニ落付カス外ニ出ツルコト常ナラスシテ時トシテハ店ノ掃除ヲ仕掛ケタ儘はたき又ハ雜巾ヲ以テ出掛ケルコトアリ近所ノモノハ「どーかせしならん」ト異ミ居タリ

以上即チ被告ガ當犯罪己前ノ事實ニ徵スルトキハ被告ハ近年ニ至リテ性質著シク變化シ刺戟性忿怒性トナリ自恣不安ニシテ且尊大自負ノ狀況アリ種々異様ノ舉動アリタルモノナリ

第二節 犯罪事跡

今進ンデ更ニ明治三十七年三月十七日ヨリ翌十八日ニ至ル間犯罪當時ノ事跡ニ關シ之ヲ調査スルニ被告ハ十七日午後六時半カ七時頃(或ハ九時カ九時半頃)店ニテ雇主妻○下○ん(二十七歳)カ裁縫ヲナシ居ル側ニテ主人ノ子○か(十四歳)及友輩雇子僧○澤○兼○算盤ヲ教エテ居リシガ○んハ○かノ算用ヲ違ヒ居ルトテ「我方に來テ算盤をせよ自分か教ゆる」ト云ヒタルニ○藏ハ「自分か教えるから御神さんは人のすることに世話を焼かすとも自分の用をなさい」ト云ヒタルバ○んハ「奉公人として生意氣なことを云ふな自分のすることに指圖は入らぬ」ト云ヒ○藏ハ又々「生意氣なことはいさ少さい時分から此處に居て教えて貰つたから其代りに教えるのだ」ト云ヒ(調書其他)ナガラ尋テ大聲ニ二三度「悪

う御坐います」ト云ヒシガ又○兼ノ見居シ書物(○藏ノ所有ナリ)ヲ「自分で自分のとをするに差支はない」ト云ヒツ、一枚一枚引裂キタリ(○下○之助調書)ソノ場ハ其デ濟ミタルガ○藏ハ之ヲ殘念ニ思ヒ其夜十二時頃主人ガ歸宅スルヤ解傭ヲ請求シタルバ主人ハ「一二年の奉公人ではなし請人もあるし今日は遅いから寝て其途を立て、來れば暇を遣る」トテ之ヲ止メタリ翌十八日午後二時頃主人外出セシニ被告ハ直ニ雇主妻ニ對シ自宅マテ行カンコトヲ求メタルモ主人不在ナル故ヲ以テ許サレス午時四時ニ至リ毎日店ヲ掃除スル時刻ナルニ掃除セズ店ニ在リテ腕組ヲナシ黙坐シ雇主妻及ビ雇主母岩○み○(七十二歳)ガ命令スルモ猶掃除ヲナサントモセズ之ニ由リテ雇主母ハ自ら掃除セントセシニ被告ハ「自分がするからしなくともよい」ト云ヒ雇主母ハ其無禮ヲ責メタル内雇主妻モ出テ來リ自分ガ掃除スルトテはたきヲ取りタルニ○藏ハ立腹シテ少シク口論シ突然廊下ヲ踏鳴ラシ非常ナ勢デ「私ハ狂です」ト叫ビナガラ藏中ニ駐込ミ雇主妻及ビ雇主母直ニ之ヲ見ニ赴キシニ中ヨリ戸ヲ押サヘ明ケザルヲ無理ニ入りタルニ被告ハ着物ヲ脱キ掛ケ居ル故之ヲ詰ルモ其理由ヲ答ヘズ無理ニ土藏カラ出シ主人ヲ呼ビニ行ケリ

被告ハ云フ土藏ニ入りタルハ前夜雇主妻ト口論ヲシテ殘念デナラヌニ又雇主母ト口論ヲシ益々堪へ切レズナリシ故豫テ密カニ懷中シ居タル短刀ヲ自殺セント思ヒ雇主母ニ對シ「今自分が自殺して見せるから左様思ひ」ト云ヒ土藏ニ入りテ自殺セン積リナリシガ其聲ハ雇主妻ニモ同母ニモ聴キ取レサリキ

被告ハソレヨリ十分許モ黙考シ居タルガ筈ト芥取トヲ以テ裏方へ出テシカ途ニ窃カニ主人方ヲ出テ自宅ニ向ヒ午後五時半頃之ニ着セリ(本人調書、○下○之助調書、○下○ん調書、○下○す調書)

五月二十三日ノ公判ニ際シテ被告ハ判事ノ被告ガ歸宅セシ理由ヲ問ヒシニ答ヘテ「主人方に居つては隙がなくて自殺が出来ませんから自分の家に歸つて自殺を仕様と思つて歸りました」ト答ヘタリ

其時被告ノ母ハ座敷ノ圍爐裏ノ側デ食事ヲナシ居タルニ(同日自首書調中ト少シク相違ス)被告ハ「主人の用で此邊まで来りし故寄りたり」ト告ゲ(被告云フ此時母ト争ヒシコトナシ)母ガ食後其肩ヲ敲キ遣シケル内其隙ヲ伺ヒ兩手ニテ母ノ喉ヲ扼シ倒レタ所ヲ(主人方ヨリ持來リシ)九寸許ノ短刀デ母ノ頭ヲ一突キシ撞(?)放シテ自殺セントセシガ短刀ノ鈍カリシ爲メ思ヒ止マリ直ニ母ノ家ヲ出デシニ隣家ノ妻○澤○(二十八歳)ガ物音ヲ聽キ付ケ來リシニ遇ヒ「人に知らせると手前も殺して仕舞ふ」ト威シ跳足ニテ○川ノ方へ去リタリシガ同日午後六時三十分○警察署ニ自首セリ其時被告ヲ見ルニ頭部及ビ襯衣ノ袖ニ血痕アリ右手ニ綑帯ヲ施シ居リ自ラ之ヲ母ヲ殺ス時短刀ヲ握ツタ爲メニ傷ケルナリト稱セリ(三月十八日○川判事被告調書三月十九日○警部○澤○ノ聽取書)實母○だハ頭咽喉肩等大小九ヶ所ノ孰レモ重傷ヲ加ヘ就中顛顛部耳後部頸部肩胛部ノ傷最重ク致命傷ナリト云フ(警察醫○野○次郎鑑定書)

第三節 犯罪當時及其後暫時ノ舉動言語

其當時被告ノ舉動言語ハ調書ニヨリテ之ヲ見ルニ甚シキ醜亂轉倒ハナカリシモノ、如ク其陳述ハ左ノ如クナリキ

『私は是迄○○○宿ノ質商店○下○之助方に雇はれ居りましたけれども一考へても一人前の商人と爲る事か出来ぬと思ひ昨日即ち三月十七日にも既に自殺しようと思ひましたけれども一人の母もあることなれば昨日は決行せず今日愈々其決心を致しましたが借自分が死にましたら母か一人残り居りて跡で難澁をするから先づ母を殺し而して自分も死なんと決心し今日午後四時半頃主人の宅を無断外出し○○郡○○村字○○郷○○番地に獨身で居住して居る母○だ(五十歳位)の宅に行き母に告げて今日は一寸此邊まで使に來たから立寄りたりと云ひ母は炬燵にあたり經木の真田(?)を編んで居りましたから肩が凝るであらうから些と叩いて遣ると申し母の肩を叩きつゝありて豫て自分が懷中に持ち居りたる此短刀を以て母の頸を切り殺して了ひまして直に自分も死で仕舞ふと思ひましたけれども此短刀で死に切れず必ず死に損ふであらふと存じましたから自殺に著手せずして此警察署へ自首しました次第で御座りますからドーカ御法の通り宜しき様御處分を御願ひ申します次第であります私の母を切り殺しました證據には此通り短刀に血が付て居りますので御座ります此短刀は主人○下○之助方の土藏内に置きありしを今日私に取り出して持つて居りましたので御座ります(三月十八日午後六時四十分○警部本人自首調書)

猶其數日後ニ判事ガ何ノ爲ニ歸宅セシカト問ヒシニ答ヘテ『母を殺害して自分が自殺しようかと考へた』ト云ヒ此ノ如キ思考ヲ起セシハ何時ナリヤト問ヒシニ答ヘテ『昨晚の十時頃です』トイヒ如何ナル譯デ母ヲ殺害スルノ考ヘヲ起シタノカトノ問ニ答ヘテ『自分ひとり死んで仕舞つては母は跡に非常に悲しむであらうと思ひましたから自分が死ぬのは母を殺してからと考へたのです』何故自分がそんな考になつたかと云ふに昨年七月頃母に對して自分も暫くすれば一軒持つて母と一所に暮して行く様にすると思ひましたそんな譯ですから自分が死んで仕舞へば母は非常に困ると思ひましたのです』三月十八日〇〇警察署ニ於ケル被告調査書 且被告ハ自分ト母トノ關係ニ就キテ母ハ自分ヲ非常ニ愛シテ居ル旨ヲ告ゲ(五月二十二日)〇〇地方裁判所第六刑事部法廷公判(雇主及ビ其妻モ被告ト其母トノ間ハ惡イ様ノコトハナク又母ニ關シ不平ヲ云ヒシコトナシト告ゲ(〇之助及其妻〇〇調書)被告ガ犯罪原因ノ搜查ニ任セシ警察官モ被告カ十八日母ト口論シタルコト等直接犯罪ヲ誘致シタル事實ヲ發見シ得ズ但被害者〇田〇〇ハ素行修ラズ年老ナガラ情夫ナドアリテ被告ノ兄〇吉モ之ガ爲ニヤアラン母ト關係面自カラザル趣ナレハ被告ガ或ハ之ヲ知り得テ常ニ其念頭ヲ去ラズ自分ノ死後世ニアルトキハ或ハ悲嘆ノ境遇ニ陥キラスカト慮カリ今回兇行ノ元トナリシカヲ報告セリ(〇〇警察署ニ於ケル)〇〇警部〇井巡查殺人犯罪原因捜査口頭報告聴取書)猶被告ノ言ニヨレハ母ハ兄〇吉カ養ヒ居ルモノニテ兄ハ〇〇縣ニ在リテ鐵道ノ工夫頭ヲナシ居リ時々母ニ仕送リヲナシ毎月カ年二三回カ三四圓ノ金ヲ母ニ仕送ルト云ヒ外ニ兄〇次郎ハ〇京〇山邊ニ奉公シ姉〇〇〇京〇所トカニ奉公シ妹〇〇〇玉ノ方トカニ奉公

シ居ルガ皆母ニ仕送リハセズト云フ(三月十八日調書)即チ三月十七日犯罪ノ當時及ヒ三月十八日犯罪ノ直後ニ於テ被告ノ精神状態ハ如何ナリシヤト云フニ彼ハヨク自カラ言ヒシコト自ラ爲セシ及ビ之ニ對スル周圍ノ狀況ヲ遂一明白ニ知覺シ又之ヲ記憶シ居リ殺害ヲ敢テスルニ至リタル理由及ビ自己ノ考察ヲ語リ自己ガ既往ノ經歷犯罪前後ノ事情ヲ供述スルニ當リテ錯誤矛盾等ヲ見ス即チ此當時ニ於テ被告ノ知覺精神ガ明瞭ニシテ意識作用記憶作用等ハ少ナクモ著キ病的侵害ヲ蒙リ居ラザリシコトハ明カナリトス但之ヲ以テ未ダ精神異常ナシト速断スルコトハ正當ト云ヒ難シ知覺精神ノ明瞭ナリトモ其異常ハ之ト竝立シ得ベケレバナリ其後四月五日〇〇地方裁判所ニ於ケル被告調査書ニヨルニ被告ハ猶ホ自己ト雇主家及ビ母トノ關係ヲ明答シ主人方ヲ無斷外出ヲセシコト二回ナルヲ知り其時日理由ヲ知り實母ト往來セシ狀況及ビ年内回数ヲ知り又母ヲ殺害スルニ至リタル理由ヲバ『自分の兄は豫備兵なれば自分か獨り自殺した跡で若し兄が召集されて戦地に行く様になれば母は獨りて困るだらうし兄が母に心を残して思ふ様に働けまい自分が母を殺せば兄は一時怒るであらうが後願の患なく十分に働けるであらうと思ひ殺す氣になりました』ト告ケ(五月二十二日公判)ニモ同意味ノ口述ヲナス)母ヲ殺シテ後自殺ヲ思ヒ止マリシコトニ關シテ『母を殺して血が澤山出たので驚いて是では自分獨りでは死ぬことか出来ないから警察へ自首すれば死刑の宣告を受けるに相違ないと考へ自首しました』ト辨解シ母ヲ殺シテ其家ヲ出ル時隣家ノ主婦ノ來ルニ遇ヒタルコトヲ記憶シ五月二十三日公判ノトキハ犯罪當時ノ事ヲ詳細ニ判事ノ問ニ應ジ三

月十七日十八日ノ自分及傍人ノナセシコトヲ順序ニヨリ話ス右ニ記述セル加害ノ狀況モ一部ハ被告ガ是日ニモ物語リタル所ニヨリテ委細ヲ知ルヲ得タルナリ
 然ラバ即チ被告ノ知覺精神ハ當ニ犯罪當時ノミナラス其後一月又二月ヲ隔テタル四月五日又五月二十三日ニ在リテモ明亮ナリシコト明カニシテ此頃ニ於ケル被告ノ精神狀態ハ少ナクモ犯罪當時ト同様ノ狀態ニアリタルモノト推考スルコト至當ナルベシ
 然レモ辯護人○橋○太郎鑑定申請趣意書ニヨルトキハ被告ハ第一回公判ニ於テ即チ五月二十三日ニ於テ證據決定アルヤ辯護人カ辯護ヲ辭シ退廷シテ假監ニ行クニ際シ自カラ壁ニ頭部ヲ打チ付ケ又ハ石段ニ其身ヲ轉ビテ自殺セントシタル狀況アリ漸ク看守ノ制止ニヨリ思止マリタリト云ヒ其自殺方法ノ尋常ナラザルハ吾人ヲシテ轉被告ノ精神狀況カ尋常ニアルヤ如何ヲ疑ハシム猶其以前ニ於テ被告同監者謀殺犯○澤○次郎ハ被告ノ自殺セザル様慰メタルコトアリ(第一回公判始末書及ビ○橋辯護人趣意書)又○橋辯護人趣意書ハ六月六日ノ日附ナルガ之ニ由ルトキハ被告ハ在監後母親ガ現出セルヲ幻視セリト云フ又○木辯護人ノ言ニヨレハ被告ハ四月下旬頃ニ於テ其叔父○田○之助ニ「我身ニ對シ辯護不必要ニ付此金軍用ノ爲欲上致度心得ル故金三拾圓也御送附願上候也」トノ通信ヲナシタリトノ事ニ徵スルモ已ニ其以前ニ於テ被告ノ精神狀況カ尋常ニアルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ザルナリ

第四節 入監後ノ監獄醫ノ診査要領

被告ハ明治三十七年三月十九日○○監獄ニ入監シ五月廿五日被告ハ卒然大聲ヲ發シテ起立シ眼中張紅

シテ目視范々タリシヨリ監獄醫ノ藥ヲ受ケタルコトアリ又六月十七日ノ現症ニ就キテ○○監獄監獄醫○山○次郎ノ語ル所ニヨレハ被告ノ顔貌ハ常ニ喜悅ノ狀ヲ呈シ對話中被告ハ身體ヲ左右ニ動搖シ手ハ常ニ些細ナル動作ヲ營ムモ不隨意ナルガ如ク之ヲ問フニ何モセスト答ヘ觀念ノ聯合ニ障礙アリテ談話ヨク纏マラス感覺障礙トシテ幻視幻聽アリ幻視トシテハ不動尊ヲ見幻聽又錯聽トシテ認ムヘキコトハ被告ハ屢々今日ハ琴ガナルトカ大變ニ大鼓ノ音ガスルトカ三味線ヲヒク又囃ガアルナドト訴フ又同房者ヲ以テ自分ノ知人ナリト誤認ス又注意力ノ減弱ヲ認メ醫ト對話中獄丁ナド入來ルモ之ヲ覺ラス又指ナドニ針ヲ指スモ平然タリ針ガ刺リ居ルト注意ヲ促セバ驚イテ之ヲ取除クナリ指南力モ減退シ時日場所等ヲ確カニ知ラス知覺能力モ異様ノ變常ヲ呈シ假ヘハ缺ヲ見セルニ其ヲ稱呼スルコトヲ得ス布ヲ切ルモノダトカ裁縫ニ用フルモノダトカ云ヒ且手付キデ之ヲ擬ネテ見セル針ヲ見セルハ縫フモノダト手付ヲナス記憶力モ減退シテ犯罪當時ノコトヲ委細ニ知ラズ只母ト喧嘩シタルコトヲ追想シ得ルノミ學校ノコトヲ知ラズ又昨日ノ菜ハ何ナリシカ知ラス思考力理解力モ乏シク感情ハ愉快性ニシテ家ニ歸ラントモ思ハス苦痛モ感ゼス自負心アリテ算盤ガヨク出來ルトカ又ハ何デモ出來ルト告グ身體上ニハ觸覺、痛覺、溫度ノ感覺共ニ鈍ク膝蓋髓反射亢進ス

第五節 現在症狀

人ヲ視テ禮揖セス立タル儘ニ前ニ來リ強テ坐ヲ命シ漸ク之ニ就ク
 顔貌ハ常ニ喜悅ノ狀ヲナシ且ツ輕ク左右ニ身體ヲ振搖シ常ニ不安不靜ナリ且ツ咀嚼運動ヲ營ム其理由

ヲ問フモ笑ツテ答ヘス開口セシムルニ日本紙塊口中ニ在リ唾棄セヨト命ズルモ應ゼス何故ニ紙ヲ咀嚼スルカト問ヘバ甘キ故ナリト答フ時々獨語ス

感情ハ表面的爽快ニシテ常ニ笑容ヲナシ舉作モ之ニ從ヒテ輕捷ニシテ對談モ活潑ナレド而モ其感情ハ深實ナラス監獄ニ在ルモ更ニ之ヲ憂ヒス主家及ビ兄弟親族等ノコトニ介意セス何時マテ捕囚トナリテアルヘキヤ自家ノ罪責カ如何許重大ナルヤ等ニ至ツテモ更ニ意中ニ付度セザルモノ、如シ此ノ如キ感情ノ鈍麻ハ管ニ純精神上ノミナラス身體上ニモ波及シテ額上ニ針刺ヲ與フル等疼痛ヲ加フルモ眼ヲ抉セントシ舌ヲ缺マントスル等ノ威嚇ヲ加フルモ毫末モ之ヲ嫌ハス之ヲ避ケス微動クニモ額目ノ上ニ現ハレス自家感覺ハ亢進シテ稍自尊ノ風アリ傍ナル人ヲ輕視シ縱マニ談笑動作シテ毫モ顧慮スル所ナシ智識界ニ於テハ被告ニ入監來頻回幻視幻聽アリタルヲ認メ被告ハ屢亡キ父母ノ來ルヲ見又ハ不動尊ヲ見是等ノ多クハ雲ニ乘リテ來リ臨ムト云フ或ハ火ノ如キ紅キ毬ノ落チ來ルヲ見タリ又時々夜間我名ヲ呼ブモノアリ起ツテ見レハ不動尊等ナレバ之ヲ拜シ祈請スルコトアリト告ク

注意ハ散漫ニシテ一定點ニ向フ能ハス周圍ノ變化ニ應シテ直ニ之ニ轉シ易ク從ツテ事物ノ正確ナル認識ナク思想考慮モ亦之ニ連レテ變リ易ク一定確乎ナラス而モ分明ナル意想奔逸ノ症狀ナシ妄想ノ有無ニ至ツテハ之ヲ明カニスルコトヲ得ス但自家感覺ノ亢進ハ暗ニ誇大妄想ノ存セサルヤヲ疑ハシム被告自カラ云フ私ハ旦那ナリ倉モアリ金モアリ今ニ主人カラ貰フナリ『皆か私のことを旦那々々』ト云フト

指南力又記憶力ニ至ツテハ被告ノ余ノ問ニ對スル應答ノ常規外ナルヲ以テ之ヲ判知スルコト難シト雖其甚缺亡セリトハ斷言スヘカラス時トシテハ其應答正鵠ヲ得ルモ時トシテハ之ニ反シ其正鵠ヲ失ヘル時ニ於テハ被告ハ全ク問題ト内容相當セザル無關係ノコトヲ語レハナリ人ノ言フコトヲ理解シ問題ニ應シ相當ノ返答ヲナスコトアリ同日場所ノ觀念略備フルモ殊更ニ直ニ返答ヲ與ヘス迂回シテ回答スルコトアルカ如シ記憶等ニ關シテモ亦然ルモノ、如シ之ヲ以テ其良否確定スルコト難シ是等ノ狀況ハ左ノ問答ヲ見バ自カラ明ナラン

問 『何日此處に來たの』
 答 『せんに來た四月に來た』

問 『四月の初か又は終か』
 答 『初めか終りか判らぬ』

問 『今日は』
 答 『今はね……(考へて)……七月だよ』(正)

問 『七月の何日か』
 答 『今日は……何日だよ……あー……今日は九日だ』

問 『どーして九日といふことを知つて居るか』
 答 『明日は何かを買ふ日だから』(正、囚人ノ定期購買日)

問 『此處はどこか』

答 『もー知つて居る言はずとも判つて居るよ……可笑もの……此處は監獄さ』

問 『何處の監獄か』

答 『……〇〇の……』

問 『此處は何區か』

答 『彼處の字を書く所……筆記所に行けば判るよ……其處に書いてあるよ』

問 『何と書てあるか』

答 『何と書てあるか知らぬ其處へ行けば判る』

問 『なせ此處へ来たか』

(笑ツテ答ヘズ)

問 『遊びに来たのか』

答 『あー』

(監獄ニ遊ビニ來ル者カアルモノカトイヘバ 應答セスシテ明日カ明後日ニハ判事サンノ處へ行クヨト言フ)

問 『いつ歸るのだ』

答 『家に歸るには雲に乗つて行く其時には劍と繩とか用る』

問 『何といふ處か』

(……遂ニ答ヘズ)

問 『どーして監獄へ来たのか』

答 『喧嘩したから……虎(?)を切つたからだ喧嘩したら此處へ連れて来てさーして家へ歸へしてやるといつた』

問 『誰と喧嘩をしたのか』

答 『古きことだ古いことだからもーよし——おぼけと喧嘩をした……(而シテ自分ノ著シ居ル「シャツ」ヲ示シ)之を看守さんに貰つた』(トイヒテ談話ヲ他ニ轉セントス 重ネテ誰ト喧嘩ヲセシカト問フモ笑ツテ答ヘズ)

問 『忘れたかえ』

答 『何に忘れるものか』

問 『忘ればいか』

答 『何に忘れぼくあるものか……海で喧嘩をしたことがあるよ其人は居なくなつてしまつた』

問 『喧嘩の相手は誰かごまかしてはいかぬ、早くお言ひ』

答 『喧嘩はしないよ昨日皆なか御前は此處へ隠居するのだといつたよ女の人と喧嘩し

た御母さんだつて此間は……云つたよ

問 『(傍ニアル醫員ヲ指シテ)此人は誰人だい』

答 『居る人だよ』

問 『(看守ヲ指シテ)此人は』

答 『朝起ると……何とかで夜があけたといふ人だよ』

問 『何をする人だい』

答 『せんは先生であつた、もーすつかり判らなくなつた、あすこ(室ノ一方ヲ指シ)にて皆なが先生といふよ』

問 『讀書か出来るか』

答 『出来るよ手紙を書く時は下手になるよ』

問 『廿五錢へ五十八錢をたせば幾何になるか』

答 『一圓だよ御札があるよ書物に御札があり御前にやるよと書イテあつた今日は面白くなすよ』

汝ノ姓名ヲ書テ見ヨトテ紙ト筆トヲ與フレバ被告ハ筆ヲ示指ト中指トノ間ニ一種異様ニ挾ミ頻回筆ニ墨ヲ附ケ又ハ筆ヲ口ニ致シテ容易ニ筆ヲ下サス『何か無くては駄目たようまいよ、何かなくては駄目たよ何か教へておくれ』トイフ『お前の名をお書きよ〇下に居る時に習つたら』ト言ヒ『なに習ふもの

か教へてやつたのだよ』ト云フ。漸ク『お團子を書いて見せよ』ト言ヒテ紙上ニ不正圓ヲ畫ケリ其際一手ニテ畫ク處ヲ隠シ人ニ書クノ狀ヲ見セシメザラントス『いろはを書いて御覽』トイヘバ『八』ヲ書シ『是はこしらえた字』ナリト言フ『字も書けず算盤も出來ずとして質屋となれるものか』トイヘバ『先程算盤か出來たではないか』トイヒ又自ら書シタル文字ヲ指シ『此字は何といふ字か教へてやろう』トイフ

傍人ハ被告ハ舞踏ガ巧ミナリト言ヘルヲ以テ踊レヨト命スルニ尻ヲマクリ『なくなるといけない』ト言ヒツ、穿チ居タル草履ヲ脱シ之ヲ揃ヘテ懷中ニ入レ腰掛(留椅子)ヲバ恰モ絃妓ノ大鼓ヲ持ツカ如クニ持チテ左肩ニ載セ體ヲ動搖シ拳ニテ打チ將ニ踊ラントスルノ狀ヲ爲セトモ容易ニ踊ラス何か早く踊レト促セバ『梅ヶ枝の外何も知らぬ』トイフ梅ヶ枝ノ踊ヲ踊レヨトイヘハ一二言之ヲ歌フノミニテ終ニ踊ラス診察終リ將ニ室ヲ辭シ去ラントスルノ時被告ハ屢ニ草履ヲ懷中セシコトヲ既ニ忘レテ頻リニ室内ヲ探索ス(傍人ノ言ニヨレハ常ニ然リトイフ)

精神運動方面ノ症狀トシテハ反響言語、反響舉動アリかたれぶしハナシ反響言語トハ醫師ガ患者ニ臨ミテ單語等ヲ高唱スレハ患者ハ直ニ響ノ音ニ應シテ同一單語ヲ繰返ヘスヲ云ヒ反響舉動トハ同様ノ症狀ニテ舉動ニ現ハル、ヲ云フ

猶一ノ奇異ナル徵候ハ被告ニ對シ眼前ニ諸物品ヲ提出スルキノ被告ノ應答ナリ即チ左ニ列記スル所ヲ以テ之ヲ知ルヘシ

筆 被告『今書いたべんだ』

鉛筆 被告『是はべんだ』

墨 被告『(少シク考へテ)教へてお呉れよ』

紙 被告『是は鹿だ』

時計 被告『此間誰かが見せたよ(胸ニ掛ケル真似ヲナス)是は知てる是は是は(龍頭ヲ弄ス)是は家

にもある是はこゝやると廻はる(龍頭ヲ廻ハス)是は言はなくつたつて分てる是はね金

鍵 被告『是は手錠を開ける物だ』

卷烟草 被告『是はねばいぶばいぶじやないそれはね。それはね。烟草だ』

烟草盆 被告『是は火を入れるものだが、もーだめた、火がない』

枕 被告『是はね寐る時にこゝするんだ(枕スル真似ヲナス)是は分らないよ』

帽子 被告『是は帽』

五十錢銀貨 被告『是は胸に掛けるんだ』

五錢白銅貨 被告『先にはで菓子を買つたよ』

一錢銅貨 被告『それはせんでせにともいふ』

石鹼 被告『羊羹を見たよ(湯に行けば貰えるよ)』

マッチ 被告『(燈火ス真似ヲナシテ)これだ』

(火ヲ點ゼヨト命ズレハ擦過シテ發火セシム)

問 『時刻ハ』(午前十時十分)

答 『今は八時だおまんまを先つき食べた許りだ』

問 『此處は何所だへ』(醫務所)

答 『是は家の中だ(彼處牢舎ヲ指シ)向ふは坐つてる所た是れは離れてるか矢張家だ』

問 『年齢は幾何だ』

答 『二十一だ』

問 『何か時々見るか』

答 『神様が見える』

之ニ何ノ神ナルヤヲ問フモ語ル能ハス唯手真似ヲ以テ背後ニ火燄ノ騰起シ左右ニ劍ト繩

トヲ手ニスル狀ヲ示セリ

此ノ症狀ハ即チ腦髓ノ一定ノ疾患ニ發スル所謂失語ニ類スルモノニシテ健忘性失語又場合ニヨリテハ

錯語症ニ類スルヲ見殊ニ被告ガ手真似ヲ以テ正ク問題ニ應スル對答ヲナスニヨリテ益然アルヲ覺ユル

ナリ
頭顱ヲ檢スルニ頰骨ハ著シク左右ニ突出シ爲ニ顔形ハ九ク角張りタリ

周圍	五・一・五	耳前頭圍	三二・〇
耳後頭圍	二一・二	耳顱頂圍	三二・〇
耳下體圍	二八・〇	前後徑	一八・〇
左右徑	一五・〇	鼻根後頭圍	三五・三
耳孔徑	一三・五	前後額骨突起徑	一〇・五
耳孔鼻棘徑	一一・〇	耳高	一一・〇

體溫呼吸脈搏等ハ之ヲ検査スルニ異常ヲ認メス胸腹ノ諸臟器モ又之ニ同シ顔面神經ニ異常ナク瞳孔ニモ異常ナシ被告ハ時々齟齬ス言語障礙ナシ手及ヒ指振顫シ四肢少シク厥冷シ時トシテちあのーせヲ呈ス皮膚紋畫症(赤色)アリ胸筋ノ器械的刺衝性亢進シ膝蓋腱反射少シク亢進ス以上ノ精神症狀及ヒ身體症狀ニヨレハ被告カ目下精神病ニ罹リ居ルハ明白ニシテ其症狀ノ系統的ニ具備スル所決シテ擬似伴作スルモノニアラサルハ毫モ疑ヲ容レズ其病ノ何種ナルヤヲ問ハバ其ガ早發癡狂ト稱スル疾病ナリト答フルニ又脚躑スルヲ要セザルナリ被告カ指南力知覺力等ノ智能界ニ障礙少ナキ割合ニ其感情其意思及ヒ聯想構思上ニ於ケル異常等ハ其症狀中ノ尤モ較著ナルモノニシテ反響言語反響舉動失語類似症等モ然カリ

第六節 總括

以上五段ニ分チテ陳述セル所ヲ總括シテ之ヲ論ズルニ被告カ目下精神病ニ罹リ居リテ知覺精神喪失ノ

狀況ニアリ是非ノ辨別ナキハ明ラカナリ何トナレバ被告ノ推理力構思力ハ著シク障礙ヲ蒙リ居ルコト前記問答ヲ見ルモ大凡推察スルヲ得ベク其狀態ハ非專門家ノ判斷ニ任スレハ恐ラク『錯亂トカ』取リ留マラヌ』ト指稱スベキ程ノモノナレハ是非ノ辨別ナキ位ニ止マラズ其諾否サヘモ本心ヨリ出テタルモノナリヤ如何ヲ知ルベカラザレハナリ

又入監後ニ於テハ五月廿五日ヨリ稍異常ヲ呈シタルカ如キモ少ナクモ六月十七日以後ニ於テハ監獄醫ノ診視アリテ其症狀ハ爾後現在マテ持續スト云ヒ且其記載ハ余カ診查ノ要領ト略相一致スルカ故ニ其時以來被告ハ現在ト同一ノ精神狀況ニ在リタリト看做スベシ

然ルニ被告ハ犯罪當時及ビ其直後即チ本年三月ニ於テハ既ニ第三節ニ於テ反覆シテ精細ニ論シタルカ如クニシテ其言語舉動ニ關シテ甚キ錯亂轉倒ヲ呈セス其知覺精神ハ明瞭ニシテ意識作用記憶作用等ハ少ナクモ著キ病的侵害ヲ被ムリ居ラサル如ク又之ト同様ニ裁判調書ニ基キテ余ノ判斷スル所ニヨレハ四月五月ノ頃ニモ其知覺精神ノ明亮ニシテ犯罪當時ト同様ノ狀態ニ在リタルカ如シ但シ五月二十三日第一回公判後ニ於テ盲暴ニシテ無意味ナル自殺企圖ヲ敢テセントシタルカ如キハ被告ノ精神狀況ノ失常ナキヤヲ疑ハシム

要スルニ被告ノ精神狀態ハ恐ラクハ五月二十五日頃又ハ其前ヨリ次第ニ變化シ來リ六月中旬以降ニ至リ明ラカナル現在ノ狀態ニ移化シタルモノナルガ如シ然ラハ即チ犯罪當時及ヒ其後暫時被告ノ精神狀態ガ健全ニアリシヤ如何ト云フニ是レ余カ甚タ答辯ニ苦ム所ナリトス何トナレハ余ハ遂ニ之ニ關シテ

明確ナル参考材料ヲ有セザレバナリ

抑前記ノ如キ知覺精神ノ明瞭ナルコト記憶作用推理作用ノ尋常ナルコト等ハ是レ程度ノ問題ニシテ明瞭ナルカ如キモ全然明瞭ナラス尋常ナルカ如キモ全然尋常ト云フベカラザルコトアリ専門家ノ異常ヲ發見スル場合ニ於テモ非専門家ニハ更ニ之ヲ發見シ得サルコトアルヘキハ理ノ見易キコトナリト然カノミナラス精神知覺果シテ明瞭ニ記憶力推理力等略具備スルト雖モ是ヲ以テ一概ニ其人ハ精神健全ナリトハ斷言スベキモノニアラス世人ハ精神病換言スレバ癡狂者ハ躁暴ニアラサレハ悲泣シ無我夢中ニアラサレバ言談取留マラヌモノト考フルモ是レ大ナル謬見ニシテ精神病ノ種々雜多ナル躁グモアリ閉グモアリ夢中ナルモアレバ何事モヨク辨ヘテ思慮應對常ノ如ク穩和靜肅ニシテ而モ其知覺精神ノ根本ヨリ顛倒セルモノアリ又或ハ或事物ニ對シテハ是非ノ辨別アリナガラ一定ノ事物ニ對シテハ是非ヲ適當ニ判斷スル能ハザルモノアリ故ニ單ニ記憶ヨリ事實ノ陳述前後ヲ失ハズトスルモ其人ノ精神作用ハ一般ニ健全ナルベシトハ推論スル能ハス場合ニヨリテハ此ノ如キ人コソ却テ著シク精神ノ變調シ居ルコトアルモノナリ

今此被告本人ノ罹レル早發癡狂ハ前ニモ述ベシ如ク指南力知覺力等ノ障礙ナキニ感情ノ鈍麻著明ヲ特徵トスルモノニシテ殊ニ此ノ病症ニハ病勢ノ消長少ナカラズシテ其輕キ時ニ於テハ一見尋常人ト甚相近キモノナリ犯罪當時ニ於テ被告ノ精神狀況ニ關シテ疑ハシキハ被告ガ從來我儘勝手ナル外主人ノ家族ト全ク平和ノ常況ニ在リナカラ些少ナル原因ヨリ憤激ノ情堪ヘ難クナリテ忽チ方向違ノ母親ヲ殺害

スルニ至リタルコト又法廷ニ於テ母ヲ殺害スルニ至リタル經過及ヒ事實ハ詳細ニ陳述スルニ關ラス毫モ主人ニ對シ又母親ニ對スル尊敬重愛又ハ悲嘆悔悟等ノ感情ノ發揚ヲ見サルコトニシテ被告カ感情界ニ於テ一面激發シ易キニモ關ラズ一面又甚鈍麻セルヲ推理セシム

且又被告ハ近年自恣ノ度ヲ加ヘ一昨年來刺戟性忿怒性トナリ且談話スルニ切口上ニ節ヲ付テ氣取ル様ニナリ行クニ肩ヲ聳カシ兩手ヲ突張リ近邊ノ者モ笑ヒ居ルト云ヒ又慢心ノ様子アリ人ニ對シテ傲慢不遜ニシテ自カラ見世ノ且那ト稱シ相庄ノ白鼠ト稱シ外出スルニ頭ヲ下ケヌモノハナイト稱シ或ハ土藏ニ入りテ刀ヲ弄シ然カノミナラス舉動不安ニシテ落付カズ時ニ相當ノ理由ナクシテ卒然外出シ又ハ濫リニ激發スルコトアリ性質又遂ニ殘忍トナリ鼠蛇ヲ慘殺スルコトアリ被告ノ性質ガ近年ニ至リ著シク變化シ從ツテ其結果トシテ異様ノ舉動モアリシコト明カナリ

是等ノ病狀ニ關シテ余ノ意見ハ如何ト云フニ抑早發癡狂ハ青年者ニ發スルコト多キ精神病ニシテ破瓜時ト共ニ精神發育ノ尋常經過ヲ失シ其症狀躁狂又ハ鬱狂ニ類スルコトアリ特ニ感情ノ刺戟性ナルコト劇變スルコト思想固定セヌコト言語舉動ノ奇態異様ニシテ不定不明ノ妄想アル等ヲ以テ其兆徴トスルモノナレハ被告ガ犯罪前ノ諸徵候ハ非醫者ノ看察ナルニモ關ラス吾人ヲシテ此病症ニハアラズヤノ觀想ヲ起サシムルモノナリ若シ此等症狀ニシテ孤立シテ犯罪前ノミニ存スルモノナラシメバ未タ診斷上ノ價値ヲナスコト少ナケレモ吾人ハ現在症狀ニヨリテ被告ガ目下明カニ早發癡狂ニ罹レルヲ知レルガ故ニ其ト數月ヲ隔テタル前時ノ症狀ヲモ亦早發癡狂ノ病狀ナリト推測シテ甚ク失當ナラヌト信ズ若シ果シテコレ迄

ニ推測スルヲ過度ノ憶測ナリトスルモ被告ノ現病ガ犯罪前少ナクモ已ニ發育中ニアリシコトハ何人モ最早疑ハザルナルベシ
若シ何人ト雖モ余カ此推定ヲ以テ不當ナリト思惟セサル以上ハ又必ずシモ被告ガ犯罪當時ノ精神状態ヲバ一モ二モナク健全常人ノ如キモノトナスコトナカランカ然レモ亦被告本人カ犯罪當時知覺精神ノ喪失ニヨリテ是非ノ辨別ヲ缺キタルノ程度迄精神ニ異常ヲ起シ居タルヤ否ヤハ是レ亦實ニ余ノ容易ニ解答シ能ハザル所ナリ

第七節 診斷ノ主文

余ハ遂ニ遺憾ナガラ此問題ニ對シテハ左ノ如クニ結論スルヲ以テ満足セザルヲ得ス
被告○田○藏ガ明治三十七年三月十八日其實母○だヲ殺害シタル當時彼ハ恐ラク精神病ニ罹リ居リテ知覺精神ノ喪失狀況ニアリ是非ノ辨別ナカリシナラン若シ假リニ果シテ然ラズトスルモ其精神障礙ハ既ニ數年前ヨリ其状態ヲ失ハントシ或ハ既ニ失ヒツ、アリシモノト認ムベク其異常ハ是非ノ辨別ヲ無クスル迄ノ程度ニアリシモノナルヤ如何ハ之ヲ確言スルコト能ハザルモ余ノ信スル所ニヨレハ之ヲ其程度迄ニアラズト認ムルヨリハ之ニ反スル認定ヲナスコト妥當ナリ

東京市本郷區西片町十番地に二十七號

明治三十七年九月二十日

醫學博士 吳

秀 三

右被告ハ明治三十七年 月 日無期徒刑ノ判決言渡アリ依テ上訴ナシタルモ取下ケテ服罪セリ

第十四例 謀殺被告人○藤○代精神状態鑑定書

明治三十七年四月九日○區○○町○○番地戸主○藤○松母○代○警察署ニ出頭シ實子○藤○代○明治二十年五月八日生ガ數日前一子ヲ分娩シ之ヲ附近ノ井戸ニ投シ殺害シタルコトヲ届出テタリ右○藤○代ナルモノハ明治三十六年四月十七日○區○○町○○番地○吉ノ媒酌ニテ○郡○○村大字○○橋附近番地不明莫大小職○澤○助ニ縁付キタルガ同人ハ懶惰貧困且前科アルモノニシテ○代カ結婚後モ夜間友人ヲ訪問スルト稱シテハ連リニ外出シ又ハ毎日麥酒會社ニ出勤スト云ヒナカラ給金ヲ持還ラズ○代ハ已ムナク母○代ヨリ米薪小遣金ノ仕送ヲ受ケ居リタル程ナリ、又○助ハ一度某莫大小工場ニテ莫大小ヲ竊ミ取り呵責放還セラレタルコトアリ行末モ到底同棲ノ見込ナキヨリ○代ハ母及ビ姉ニ相談セント同年七月十七日姉ノ夫○區○○町○○丁目居住○野○吉方ニ赴キ一泊シテ歸宅セシニ○助ハ其家ヲ逃走シテ行衛不明トナリ媒酌人タル○吉ニ交渉セントセシニ同人モ姿ヲ隠

シタレバ已ムコトヲ得ス兄○藤○松方ニ寄食シ一、二ヶ月ヲ過ゴス内ニ其身懷胎セルコトヲ覺リタリ
(四月九日○警察署警部○村○六檢證調書及ヒ五月十九日同警部被告人聽取書)又或時ハ夫○助ガ某
麵麴店ニテ窃盜ヲ働キ監獄ニ入りシト傳聞シ盜賊ノ子ガ生ル、カト且ハ愧チ且ハ憂ヒ又到底子供ノ始
末ハ六ヶ敷事ト見込ミ獨リ自カラ苦勞シ居リ憂思煩惱セシガ母ノ言ニヨレハ傍告ハ平素内氣ニモアリ
傍母ハ○代ノ懷胎後ハ種々之ヲ慰メ居リタリシガ明治三十七年三月頃ヨリぼんやりシク氣拔ノ如
ク心配スルナト云ヘバ唯泣ク許デ氣ガ狂ツテイカヌト思ヒ家内中デ心配シテ慰メ毎夜十二時迄ハ起キ
テ居タリ(豫審廷ニ於ケル被告ノ母ニ對スル調書)然ルニ四月六日午前二時○代ハ住居ノ裏口ヨリ忍ヒ
出テ一丁許リ隔タリタル畑中ノ廢井ニ身ヲ投ケント赴キシニ途中俄ニ産氣ヲ催シ畑中ニテ分娩セリ依
テ繙絆ト前掛トニ裹ミ井戸ニ投ケ込ミ自分モ續テ入水セントセシガ不圖死ヌコトヲ思止マリ家人ノ起
キ出テ又間ニ窃ニ家ニ歸リ爾後其事ヲ隠シ居タリ母ハ○代カ其後臥牀セルヲ見シモ體ノ工合惡キ爲ト
セシカ何トナク舉動異ムベキニヨリ追々嚴シク尋問シテ四月九日ニ至リ○代ハ遂ニ生兒ヲ殺シタルヲ
語ルニ至レリ(○村警部檢證調書)被告ガ赤子ヲ投ケシト云フ井戸ハ○町二十六番地ノ畑中ニアリ周
圍ニ桑樹ヲ植エテ掩ヒ隠サレタル水深二丈五尺ノモノナリ○村警部ハ兒屍(男子)ヲ引キ上ケタル後○
○地方裁判所○添檢事ノ許可ヲ得テ之ヲ○帝○大○醫○大○法○學○室ニ託シテ剖檢且鑑定スルコ
トヲ求メ(○村警部檢證調書)タルニ其鑑定人トナリシ○島○二、○永○而ハ「本兒ハ成熟兒ニシテ出
生後充分呼吸ヲ營ミタルモ窒息ノ爲ニ死亡シ其窒息ハ疾病ニ基因セサルコト明カナレ如何ナル人工

方ニ由來セシヤハ不明ナリ』トノ鑑定ヲ與ヘタリ(鑑定書)以上ハ被告○藤○代カ殺兒事件ノ大略ナル
ガ明治三十七年六月六日○地方裁判所豫審判事○恒○郎ハ右事件ニ付左ノ事項ノ鑑定ヲ余ニ命シタ
リ

一、○藤○代ノ精神狀態殊ニ明治三十七年四月六日午前二時頃自己ノ分娩セシ嬰兒ヲ殺害セシ當時
知覺精神ヲ喪失シ居タルヤ否ヤヲ明カニスルコト
余ハ之ニ由リテ被告ヲ收容セル○監獄ニ就キ又被告自身ヲ○府○病院ニ召致シ數回被告ノ精神
身體ヲ診査シタリ今其概要ヲ列記スレハ左ノ如シ

第一 既往症

先ヅ被告人ノ血統ハ如何ナリヤ之ヲ尋究スルニ被告ノ父ハ五十三歳肺病(?)ニテ死セシガ平生酒客ニ
テ毎日二合ヲ常飲セリ母ハ五十六歳ニテ今健存シ持病ナシ父ノ系統ニ於テ父ノ第一人ハ若キ時急ニ差
込ミ死亡シ一人(○藤○藏)ハ發狂シ三十三歳ノ時死セリ此發狂セシ弟ハ他家ヨリ子トシ養ヒシモノニ
シテ只祖母ノ乳ニテ育テラレタリ父方祖父(○藤○次郎)ハ七十七歳ノ時發狂ニテ死シ兄弟ナク祖母ハ
六十五歳ノ時腸胃病ニテ死シ弟一人ハはやうち肩ニテ死ス母ノ系統ニ於テ母ノ異母兄一人同母兄弟六
人アリ異母兄ハ遠ク離レ住キ四十餘歳ニテ死セリ他ノ兄弟各一人ハ健存シ弟一人ハ抱瘡ニテ死シ妹一
人ハ四十七歳ノ時腹膜炎ニテ一人ハ産後ニテ死亡シ又一人ハ目下生存スルモ肋膜炎ニ惱ム母方祖父ハ
七十七、八歳ノ時老衰ノ死シ其兄弟十三人アリシカ皆夭死シ母方祖母ハ臙躄性ニテ五十一歳ノ時死シ

其兄弟三四人アリシモ皆死因不明ナリ被告本人ノ兄弟ニ付キテハ兄二人姉一人ハ健存シ姉一人ハ(○藤○イ)二十九歳ノ産後發狂セリ(六月六日豫審廷ニ於テ余ニ對スル被告ノ母ノ陳述)之ヲ約メテ言ヘハ被告人ノ血統ニハ精神病ヲ出セシコトアリ姉ノ一人ハ産後發狂セシガ父方祖父及ヒ父ノ弟モ發狂セリ

本人自身ノ既往ニ關シテハ被告ガ最幼時母ノ泌乳ノ不足ナリシ爲カ羸弱ニシテ四歳ノキニ漸ク立ツコトヲ得種痘麻疹ヲ經過シ七歳ノ時熱病ニ罹リ全治後百日咳ニ罹リ醫治ニヨリ全癒セシモ(○地○監獄醫記)十五歳マテハ殆ント絶間ナク病ミ居タリ(○判事ノ被告ノ母ノ調書)本人ハ又九歳ノ頃目ヲ病ミ物ヲ視ル能ハザリシコトアルヲ告グルモ母ハ之ヲ告グズ月華ハ十五歳ノ秋ヨリ初メテ來潮シ其後時々滯止セシコトアリ其持續ハ毎回三日間許ニシテ經行ニ苦痛ナシ(被告ノ陳述)明治三十六年四月十七日結婚シ七月十五日最終ノ月經アリ(母ノ陳述)三十七年四月六日成熟一男子ヲ分娩ス母ノ言ニヨレハ被告ハ三月二十日頃ヨリ精神變調シ「ボンヤリ」トシテ坐リキリ又ハ立タ儘ニテ何か話シ掛クレバ泣キ出スクメ家内中忙カシキ時モ更ニ心ニ掛ケス之ヲ助ケントモセス二十八日頃ヨリハ精神變調愈甚クナリ月日サヘ分ラヌ位トナリ何か云ヒ掛クレバ「氣がくしゃく」スルニヤ獨リ忽チ泣キ出テ、モ他人ニ悲ヲ訴ヘルニ更ニナク茫然トシテ唯坐リ又ハ竹ミ居リテ用ヲ言ヒ付ケレハ唯々ト云フモ氣拔セシ如ク忘レタルカノ如ク立ツタラ立ツタ切リテ其用ヲナサズ時々「ちよいと用がある」ト云ヒテハフラリト外出ス(余ニ對スル母ノ陳述)サレド普通ノ用事ノ分ラヌ様ニマテボンヤリセシコトハナシ母ガ言ヒ付ケテ

子供ノ著物ヲ拵ヘ居タリ(母ニ對スル調書)三月末迄ハ子供ノ又夫ノコナト云ヒテ母ト共ニ話セシコトハアルモ其後ハ語り出テス只泣クノミ夜分ハ家人ガ皆起キテ番ヲナセリ三月末ヨリ水氣出テ四月二日ヨリ水氣ノ爲メ臥牀セリ食事ハ不定ニテ或時ハ多食シ或時ハ少食シ又或ハ絶食セリ睡眠ハ十分ニシテ大抵午後九時ヨリ午前五時迄眠リタリ便通モ尋常ナリキ(六月六日母ノ余ニ對スル陳述)本人ハ妊娠後産前ノ自己ノ状態ニ關シテ陳述スラク

『(夫に)別れてからそれつきり月のはなし、媒人の親へそう言つたんです。もうね私は二度と亭主は持たない氣で其子を育て、世話になるつもりでした。それでも残念で、そればかり思つて居りました。他の考へなしに残念だとばかり思つて居りました。煙草屋へ行つて巻煙草の仕事をして居ながら残念でたまらない口惜しくなると仕事だか何かが譯が分らなくなる。それからよして宅に居たんです』

『矢張宅に居てもくやしいと思ふと氣がうか／＼つとして來るんです。もしや／＼となつて來るんです(胸ヲ押ヘテ)何か物か上つて來る様な氣かすると頭かぼんとなつて人のいふ事も聞えなけや覺えもない妹は何もしないに酷い目に遇はしたんです後で可憐そうなことをしたと思ひました湯呑だの何だの投げ付けたんです』

『それでもつて寝ても起ても口惜しいことを思出すと獨りて起きて考へ出して何故こんなに起きてるんだらうと思ましてね又時々には心細くなりましてね夜になると其様でねられませぬ』

之ヲ一括スレハ被告人ガ産前ノ精神狀況ハ抑鬱性昏迷性ニシテ且刺戟性ニテアリシカ如シ
明治三十七年五月二十三日〇〇監獄ニ入監セリ體格中等榮養中等ナルモ皮膚ハ枯燥シ手指振頭ロベル
トソン氏症候及ビ歩行時共同運動障礙アリ又左前膊後側兩下腿ニ知覺障害アリ頭骨ヲ前方ニ屈シ稍憂
鬱ノ狀アリ入監ノ理由ヲ尋ヌルモ初メハ應セス反問度々スレバ漸次應答シ終ニハ自身ノ悲境ヲ進シテ
訴フルモノ、如シ(〇〇醫〇地〇康〇記)其症狀ハ監獄醫ニヨリテ歇斯帝里ナリト診斷セラレタリ(〇
地〇〇醫診斷書)又入監ノ頃ハ家ニ歸ランコトヲ切望シテ絶エス垂泣シ五六日後ハ泣クコトヲ止メ
シカ碌々食事ヲセズ精神症狀ヲ認メズ(〇〇醫〇山〇次郎語)

第二 現在證

(甲) 精神症狀

本人ガ目下ノ精神狀態ヲ診査スルニ彼ハ月日指南ナク又周圍ニ對スル指南ヲモ十分ニ有セズ七月七日
診査ノ日今ハ五月三日ナリト云ヒ余ガ七月七日ナリト云ヒ聞カセシニ對シ『こんな寒いのに七月と云
ふことはない』ト訝リ『寒くはない暑いのだ傍の人は扇子を使ふて居るではないかお前は單衣を着てる
ではないか』ト詰リタルニ『裕を着て居たのだが單衣を着ると云はれたから着て來のです』ト云ヒタル
ナド月日モ誤マリ又寒暑ノ差別ヲ辨ヘザルガ如シ場所ノ指南力モ薄弱ニシテ久ク居リシ所ノ何處ナル
ヤハ辨知スルモ初メテ臨ミタル場所ノ如キハ確カニ之ヲ判知スル能ハヌ又知ラズシテモ平氣ニテ傍ノ
人ニ問ヒ質サントモセヌ

注意力ハ散亂ニシテ周圍ノ事物ニ對シテ茫然タリ何物カアレハ一寸目ヲ之ニ向ケ輕ク之ヲ批評スルモ
其印象ハ十分ニ記銘サレヌシテ直ニ又注意圈外ニ去ル
記憶モ亦之ニ從ヒテ茫莫ニシテ一旦逢遇セシ人又ハ物モ再三注意ヲ促スニアラザルヨリハ再知スルコ
ト能ハヌ彼ガ前生活ニ關シテハ結婚前後ノコトモ善ク記憶シ順序ヲ立テ、略正ク陳述スルコトヲ得彼
ガ結婚後亭主ノ舉動ヲ異ミ其盜人ニアラザルヤヲ疑ヒ初メ後兄ノ家ニ引取ラレシ迄ノ事柄ヲモ逐一物
語ルコトヲ得然レモ分娩前後ノコトニ關シテハ追想ノ力甚缺亡シ被告本人ハ唯曖昧ニ之ヲ記憶スルノ
ミナリ今之ヲ明カニ示サンガ爲メ余ト本人トノ問答ヲ掲ゲンニ被告本人ハ余カ彼ニ對シ生兒ヲ井戸ニ
投ケ棄テ殺シタルヲ問ヒタルニ答ヘテ

『はつきり日は存じません』ト云ヒ

暫ク答ヘズ『ちよくり思出せませんから』トテ深く考ヘ込ム

問 『大凡いつ頃だえ』

答 『四月か五月でしたらう』

問 『その時どうして棄てたんだ』

答 『それも覚えてる所もあればない所もある、赤ン坊とは少つとも氣がつきません、自
分で死なうと思つて前に通つた道を通りましたが其時手水しやうと思つたんです、
其時に出たんでせう自分の着てる寢衣はじやまと思ひまして何だかぶよぶよしたも

問 『其時方々よこれたらう』
のが出たからそれで包んで井戸へ棄てたんです赤坊と思つたら棄てやしません』

問 『どうして監獄へ来たんだ』
答 『自分じや汚れたか如何だか気がつきませんでした』

問 『どうしてこゝへ来たの』
答 『やつぱり私が悪い事を致しまして』(泣く)

問 『どうして愛宕下へ行たの』
答 『愛宕下へ行くんだつておつ母さん伴れて来て其處から此處へこんな處へ……』

問 『どうして愛宕下へ行たの』
答 『おつ母さんにつかまつて歩いて行つたんです、警部さんが家へお出でになつて色々お聞きになつたんです』

問 『いつ?』
答 『私が悪くてねて居つた頃です』

問 『こゝへ来たのはいつだえ』
答 『何日でございましたがもう十日か十五日になるだらうと思ひます』

問 『此間裁判所へ行つたのは何日頃だえ』
答 『もう忘れて了ふ程立つてよ何でも十日か二十位立つてませう』

計算能力其他學校習得ノ智識ニ關シテハ凡ソ尋常可然ノ程度ニアリ

判断ノ力ハ大ニ薄キ監獄ニアルヲモ氣ニ掛ケス平然タリ自己ノ犯罪ニ關シテ深ク其結果其影響ニ考ヘ至ラス重ク自カラ責メ又ハ自カラ悔イルノ狀況ナシ七月八日診察ノ際ナトニハ本人ハ獨リシテ卒然語り出テ、『昨日御祭か在つて面白かつか提燈がどつさりついて居た(大山元帥出發ニ付キ市中之ヲ祝セリ)其面白い處を通行して御醫者様に行つた(〇〇府〇〇病院ニ來レリ)また行きたい』ト言ヒテ椅子ヲ離レントス依テ此處ヲ出ルコトハ出來ヌト言ヘバ『出られるとも』ト答ヘ此衣服(淺黄未決囚衣)ヲ著テ居テハ出ルコト叶ハズト言ヘバ『赤き衣服でないから差支ない出られるとも』ト答ヘタリ

思想ノ進行ハ稍遲滯スルモ其他ノ異常ヲ認メズ妄想ノ存在ヲ認メズ唯周圍ノ事物ヲバ多少自身ニ牽附ケ考フルコトアリ診察中本人ハ『今朝人が自分を指してあれは死刑だと言つた、自分は殺して貰はずとも、獨りで死ぬ事が出来る』云々ト話ス

問 『何處で何人が斯く言ひしか』
答 『直き彼處で指して斯く言ひたり』

問 『汝ではなく他の人を指して言つたのではないか』
答 『否、自分を指して言ひたり』

妄覺ハ入監以來時々之アリシ如ク本人ハ告ゲテ曰ク
『お蔭様で大變よくなりました足と頭が。足がまた引張れます、頭もいゝ時と悪い時とありま

す色々な音がしまして心地が變になつて來るんです、色々な音がするんです、カーンといふのもなればチーンといふのもあればワァワァと鳴るのもあるんです』

問 『人の聲は』

答 『此節しません、先にはしましたけれど前にはねかゝると誰か來たやうな氣がしました煎餅がいくつも來て弱つちまつた大きいのが小さいのが人の頭の上に一杯に乗つて推のけてもく／＼乗つて來て媒人みたいに人をいぢめた、おつかない顔して煎餅が來るんです』

問 『煎餅が來たのは何時頃だえ』

答 『監獄へ來てから』

問 『外には何事もなかつたかね』

答 『恐ろしい蛇が來た事もある大きな目で丸い鱗がある大きな蛇だつた』

『又晩になると火事になつてばつとするから急に起きて見ると火は少しさなす』
『或はあたりが赤くなり衣物が燃えてると思ひ起るなどもあつた』

問 『お前さんの家ちやどうだつたね』

答 『隣の子供が來ていろいろいな事をいつて』

問 『いくつ位の小供』

答 『八ツか九ツ位』（是ハ事實ナルベシ）

意識ハ清明ノ度ヲ缺キ茫然トシテ自失スルノ狀アリ外界ノ認識不全ニシテ且記銘力薄キ爲ニヤ余ガ『誰か面會に來りしか、母は面會に來らざるか』ト問ヒタルヲ被告ハ『母は死でしまつた』ト答ヘ『僞るな』ト言ヘバ『僞ではない母は自分の九歳の時に死でしまつた』ト答ヘ反覆尋問ノ後漸ク氣ガ付キテ『否な死だのは父であつた、母は生きて居る自分は母が死なぬ様に祈つて居るのだそれ故に』ト答ヘタリ

本人ハ感情柔脆ニシテ溫容人ニ接シ大抵微笑シツアル中又卒然啼泣又ハ悲怒ス概シテ其思想ヲ結婚當時又其以後ノ不幸ニ回ハストキ落涙シ又ハ怨嗟痛恨ノ言ヲ漏ラス『媒人に騙されたのです私が姉さんの所へ相談に行つてうちに私の著物やなんか媒人と亭主と二人いゝやうにして丁つたのです』ト云ヒ或ハ『看護の人が言ふことを聽いて呉れぬのがじれつたくつてにくらしくつて堪まらぬ』トテ右側乳坐ノ上縁ニ於テ皮膚ヲ搔ムシルニ至レリ又○○府○○病院ニ來リテ癲狂院ナリト聞クヤ其時前マテ去就人ニ任セテ平氣ナリシ本人カ卒然身ヲ起シ叫聲ヲ發シテ『狂ぢやないやだ』トテ傍人ヲ推退ケ去ラントセシガ人ノ制シ止ムレバ又忽ニ靜ニ返ヘリタリ又足痕検査ノ際患者ハ前進ノ半途ニ於テ突然『足をこんなに汚して歩め』ト言フ、にくらし』ト言ヒ、怒リ且泣キテ、前進ヲ中止セントセリ、然レ左右ノ如ク時々激怒スルニモ關ラス感情ノ長續スルコトナク忽又靜止シ又其意思モ外人ニヨリテ容易ニ影響ヲ受ケテ變化ス反響言語反響舉動かたれふし等ナシ

本人が舉動中異ムヘキハ兩腋毛ヲ牽キ切リシコトニシテ本人ハ之ヲ「理由はないよ」ト説明ス又糞中ニ長キ木綿絲ヲ入レタルモ亦本人ノ舉止ガ尋常範圍外ナルヲ證スベキカ又本人ハ通常東京語ヲ用フルモ時トシテハ人ト談話又ハ獨語中「だつべー」「おらー」「べー」等ノ如キ田舎語ヲ交ヘ東京ニ生レ東京ニ育チシモノト思レザリシガ是レ患者ノ同檻者ニ田舎人アリ、患者ハ其人ノ言葉ヲ聞キ覺エタルモノナリト云フ

七月七日被告本人ハ〇視〇巡查一人附添ヒテ〇〇監獄ヨリ〇〇府〇〇病院ニ送致セラレテ余ノ診察ヲ受ケタルガ其歸監後或ハ笑ヒ或ハ泣キ醫員室内ニ入り診察セントセバ只今「御客がある筈だから」トイヒテ診察ヲ拒ミ檻外ニ人ノ足音スレバ「そら御客が来た」ト云ヒ其間又憤怒ノ狀ヲナシテ「くやしいくやし」ト連呼シ言行一變甚不穩トナリシヲ以テ多日同檻シテ親密ニ暮セシ一婦人モ之ヲ恐レテ爲メニ他檻ニ轉居スルニ至レリ又七月八日朝ニ至リ「人が自分を指してあれは死刑なりと云つた」ト訴ヘ一層不穩ヲ増セリ此間被告ハ「にくらしく仕方がない」「子供を殺しもせぬに子供を殺して憎鼻禪に包みて捨てたよ、昨日同車して、あちらの方へ行つた人が車夫に話して聞かせた、にくらしく、堪まらぬ」「往きがけにも話したが復りにも話した」トノ趣ヲ告ゲテ涕泣頻リナリシ要スルニ本人ハ附添者ノ語ニ激シテ病狀一變シタルモノ、如シ又七月九日ニハ〇〇府〇〇病院ニ參院後暫時興奮シ「散歩に行きたい」トテ頻リニ外出セントシ又「團子が食ひたい」等ノコトヲ喋々ス、正午ニ至リ晝食ヲ與フルモ食セズ其理由ヲ問ヘハ「他の家に行つて御膳などを食べるものぢやない」ト云ヒ空腹ナラザルヤト問フモ然

ラズト答ヘタリ然ルニ診査終リ退院ニ臨ミ菓子二片ヲ喜色滿面再三再四低陳謝シ去レリ
十二日ニハ晝飯一椀ヲ食セリ何故ニ今少シク多量ニ食セサルカト問ヘバ他ノ家ニ行キテハ遠慮スベキモノナリトイフ

八月八日微笑シ且輕キ笑聲ヲ發シ輕度ノ發揚狀態ニアリ卒然余ニ向ヒ「昨日は御馳走で有りかたう」ト云フ(一ヶ月前ノ菓子ノコトヲ謝スルナリ)入監ヲ憂悶セス「いつまで居てもいい、」ト云ヒ入監セシヲ「昨日」ナリト云ヒ又「昨日ハ遣ひに行つた玉子を買つて来た」トカ「石を枕の下に入れ置いたのを取られた」トカ「芋を掘りに行かうとしたら止められた」トカ「母親が昨日来た」トカ云フモ皆事實ナキコトニシテ精神症狀ハ依然一ヶ月前ト異ナラズ、

(乙) 身體症狀

態度少シク屈伏シ頭首ヲ前方ニ垂レ時々點頭運動ヲナス診察室ニ入ルモ傍人及ビ物品ニ向フテ毫モ注意ヲ拂ハス、初診後五分過時々眉間ニ皺縮(蹙眉)ヲ認メ悲哀ノ狀ヲ呈シ或ハ長大息ヲナスモ亦其間ニ破顔一笑スル事ヲ得脈搏七十八至、整、強、中等大、體溫三十六度九分、體長四尺六寸六分、體重四十七基瓦

- 頭形測定
- 周圍 五二・五仙迷
- 耳後頭圍 二二・五仙迷
- 耳前頭圍 二八・〇仙迷
- 耳顛頭圍 三六・五仙迷

耳下顎圍 二六・〇仙迷 前後徑 一七・〇仙迷
 左右徑 一四・五仙迷 鼻眼後頭圍 三四・〇仙迷
 耳孔 一一・〇仙迷 前頭骨額起徑 一二・〇仙迷
 耳孔鼻棘徑 一〇・〇仙迷 耳高 一一・〇仙迷

顔色帶黃蒼白ニテ兩側頰骨部微ニ潮紅ス顔面ノ皮膚ハ四肢ヨリモ四肢ノ皮膚ハ軀幹ヨリモ其色白シ舌ニ苔ナシ口ハ常ニ半開ノ位置ニアリテ上齒列上下兩唇間ニ露出ス

右眼内眥ノ下方一仙迷ノ部ニ四分一仙迷直徑ノ小黑痣一個アリ

左眼内眥ノ内方ノ四分一仙迷ノ部ヨリ始マリ内下方ニ去ル小凹癍痕アリ全形橢圓形ニシテ縦ニ長ク(米粒狀)長徑四分三仙迷、幅四分一仙迷ナリ、胸腹及ビ其諸臟器ヲ檢スルニ異常ヲ認メズ唯心臟鼓動ハ比較的強ク左乳房ハ心動毎ニ震動ス

乳房ハ左右共ニ中等大ニ膨滿シテ皺襞ヲ呈ス其皺襞ハ殊ニ左乳房ニ於テ著明ナリ、乳坐ハ深褐色ニ著色シ細キ縮細様ノ皺襞アリ、乳嘴ハ左側ニ於テ右側ヨリモ善ク發育ス

右側乳坐ノ上縁ニ於テ乳房皮膚ニ搔爬痕ヲ見ル

右乳房下邊心窩部左季肋部(乳腺ノ内方二三仙迷ノ處)色素ニ乏シキ皮膚癍痕アリ其周圍ニハ著色帶ヲ繞ラス

腹部ハ臍以上ニ於テ膨隆シシヨリ以下ハ平坦ニシテ多數ノ皺襞ト線トヲ有シ、就中線ハ幅廣クシテ

縱走シ其半數ハ屈曲ス(妊娠癍痕)

右側卵巣部ヲ壓迫スレバ疼痛ヲ訴フ

左前膊尺骨線ノ上下中央部ニ帶黑色ヲ呈スル小斑文身二個アリ

左ノ下腿ノ上半部ニ於テ腓骨頭ノ後面相當ノ部ヨリ前下部ニ向ヒ脛骨前縁ニ達スル長サ八仙迷幅三仙迷ノ癍痕アリ小兒ノ時腫物出來タル結果ナリト云フ其上縁ハ盲管様ニ臨メリ

感覺及ヒ運動ニ關スル検査ハ左ノ如シ

第一 嗅官ニ關シテハ左ノ如キ検査成績ヲ得タリ

検査材料

第一回本人ノ所言

第二回本人ノ所言

樟腦

無臭 無香

樟腦の香かする

醋酸

鼻孔くすぐつたし

鼻孔くすぐつたし

桂皮油

無臭 無香

變な臭がする

百露拔爾撒謨

無臭 無香

變な臭がする

第二 視官

(イ)視力ハ左眼ニテハ四迷突ニテ始メテスネルン視力表ノ二十號ヲ見、右眼ニテハ二迷突ト七十八仙迷ニ於テ同表同號ヲ見ルヲ得

(ろ)視野ノ検査所見ハ左ノ如シ

		第一回				第二回			
		左		右		左		右	
外	内	上	下	外	内	上	下	外	内
五五	三〇	四一	一九	四六	三五	四一	一九	五五	三〇
三八	三三	三七	三三	三七	三三	三八	三三	三八	三三
四一	二四	三九	一九	四〇	二四	四一	一九	四一	二四
二七	二九	二六	一一	三八	三三	二七	二九	二七	二九
三六	一三	三六	一一	一九	三三	三六	一三	三六	一三
三〇	一三	三四	一三	三八	三五	三〇	一三	三〇	一三

内上	内下
三〇	二三
一七	二八
二五	三三
二三	三三
二三	三〇
二五	三〇

(は)眼底ニハ記スベキ變狀ナキガ如シ
 (に)眼運動ハ上下ニ異常ナク又右方ニ向テノ運動ニ異常ナキモ左方ニ向テノ運動ハ稍困難ニシテ左方ヲ凝視スルヲ得ス即チ若シ左方ヲ凝視セシムル時ハ直視ノ位置ニ復シ而モ右眼ハ少シク内斜視ヲ呈ス復視アリタルコトナシ
 第三 聽官、左右共ニ二十四仙迷ニテ袖袂時計ノ音ヲ聞クコトヲ得、外聽道ニハ耳垢堆積ス鼓膜ハ尋常ナリ其他ノ検査ニモ異常ヲ認メズ
 第四 味官ノ検査所見ハ左ノ如シ

検査材料 本人ノ所言
 鹽酸 すつばい
 食鹽 からい
 柱皮鹽 あついで(舌を負傷させる積りなのか)
 規尼涅 にかい、あゝにかい、ひどひことをする
 砂糖 あまい、をいしい

第五 皮膚感覺

(一)觸覺 顔面ニ於テハ或時ハ左側ニ於テ右側ヨリモ敏ク或時ハ右側ニ於テ左側ヨリモ敏シ軀幹四肢ニ於テハ一般ニ右側ニ於テ右側ヨリモ鈍麻スルヲ認ムルモ亦不定ナリ軀幹中胸部ハ右側ニ於テ左側ヨリモ敏シ

(二)部位神觸覺検査用兩脚器ヲ以テ檢スルニ其成績不定ナリ第一次(七月七日)検査ノ際ニハ左右上肢ニ於テ兩脚ノ距離十四五仙迷以上胸背ニ於テハ十五六仙迷以上ニアラサレハ之ヲ二點ト感セス其他身體ノ諸部ニ於テ二十仙迷以上ニテ初メテ二個ノ感ヲナス位ナリシニ第二回(七月九日)検査ノ際ニハ其距離ハ胸背ヲ除キテ大抵五仙迷又ハ十仙迷ニテ二箇ト感シタリ其モ或ハ同一肢節ノ屈面ト伸面トニテ著シク相異シ或ハ手掌足蹠等ニテ前膊屈面ヨリ鋭敏ナルヲ見

(三)痛覺、刺針、又ハ感傳電氣ヲ以テ刺戟スルニ全身到ル處ニ痛覺鈍麻シ、刺針ニ於テハ出血スル程感傳電氣ニ於テハ一仙迷距離迄刺戟スルモ殆ント疼痛ヲ訴ヘス就中電氣ヲ通スル場合ニ於テハ却テ洵ニ心地良ト稱ス一般ニ身體ノ右半部ハ左半部ヨリ痛覺甚ク鈍麻スル如シ又左記ノ諸部ニ於テ痛覺尋常ヨリモ亢進スルガ如ク第二第八ノ部位ニ於テ殊ニ然リトス

手掌足蹠ニ刺針スルモ一向平氣ニテ只左足蹠ヲ刺ストキ『くすぐつたい』トイフノミ然ルニ其後再診セシ時ハ右手掌ニ於テ何所ニモ疼痛ヲ訴ヘタリ

右側卵巣痛ノ他ニハ全身ニ壓痛點ヲ發見セサルモ猶注目スベキハ身體諸所ニ左ノ如ク觸覺及ビ痛

覺過敏ノ部夥多アリシコトナリ即チ

(い)左鎖骨上窩

此部ニ於ケル感覺過敏部ハ略卵圓形ニシテ其鈍端ヲ鎖骨ニ向ケ、鎖骨上窩ノ中央ニ在リ長徑五仙迷横徑四仙迷

(ろ)左鎖骨下窩

此部ニ於ケル感覺過敏部ハ略菱形ニシテ其隅角ヲ上下左右ニ向ケ左右徑共ニ四仙迷

(は)右鎖骨下窩

此部ニ於ケル感覺過敏部ハ長方形ニシテ其長徑ヲ左右ニ向ケ五仙迷横徑ハ四仙迷ナリ

(に)同乳外下前腋窩線第六肋骨部

此ノ部感覺過敏部ハ楕圓形ニシテ天保鏡大ナリ位置横位ニアリ

(ほ)兩側肩胛骨下隅下約五指横徑脊柱ヲ去ル亦五指横徑ノ部

此ノ部感覺過敏部ハ左右兩側共ニ圓形ニシテ略二十錢銀貨大ナリ

(へ)左大腿内面ノ一小部

左側大腿内面ハ一般ニ感覺銳キモ其下三分一ノ部ノ中央一ノ小部ハ特ニ疼痛ヲ感スルコト甚シ其形ハ小雞卵大ニシテ長徑ハ上下ニアリ

(と)右下腿外面ノ一小部(後日審査ノ片ハ已ニ消失セリ)

右下腿外面下三分一ノ部脛骨前緣ニ近キ部ニアリ長圓形ニシテ長徑四仙迷橫徑三仙迷ヲ算ス

(ち)左肩胛間部

上方上部背椎ヨリ約五指橫徑外、肩胛骨内上隅ノ上内方ニ當ル所ニ約一錢銅貨大ノ痛覺過敏部アリ、刺針、叩打、電氣刺戟ニ應シテ疼痛ヲ訴ヘ且ツ此部ヲ叩打スレバ其都度同側ノ肩胛上舉ス

(四)溫覺、試験管ニ熱湯ヲ入レ健康人ニテハ僅ニ手ヲ觸レ得ベキ溫度トシ溫覺ヲ檢スルニ感覺過敏部中第一、第二、及ヒ第六ノ部ニ於テ之ヲ感スルモ第六部ニ於テハ「暖かい」ト稱スルノミニテ熱キト稱セス其他左大腿内面ニ於テハ溫熱ヲ感スルモ其他部ニ於テハ「なんともなし」ト稱ス

(五)冷覺、試験管ニ氷水ヲ入レテ之ヲ檢スルニ感覺過敏部中ノ第一、第二、第三、第四、及ヒ第六ノ部ニハ冷キヲ感シ第六ノ部ハ弱ク之ヲ感ス

左大腿内面ハ溫覺ト同シク一般ニ之ヲ感スルガ如シ其他ノ身體部分ニハ冷ヲ感スル部分ナキガ如シ兩側大腿内面、兩乳房下、左鎖骨下窩ハ特ニ寒冷ヲ感シ左手掌ハ右手掌ヨリモ之ヲ感スルヲ強ク足趾モ亦然リ

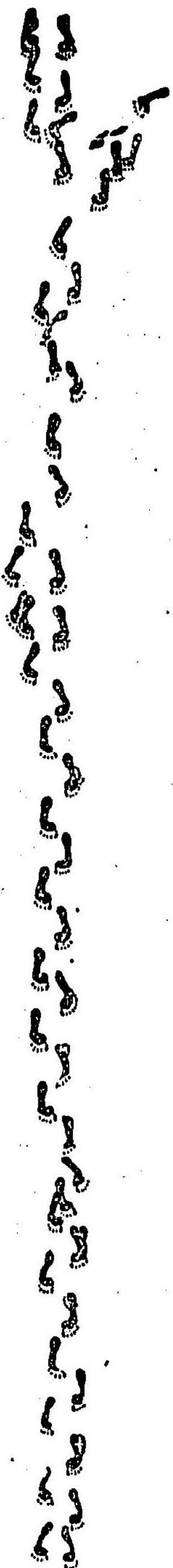
左大腿内面上三分一ノ部左胸(感覺過敏部第四號)左右鎖骨下窩(同第二、第三號)ニ於テハ之ニ對シテ熱ヲ感シ其他ノ感覺過敏部ニ於テハ溫ヲ感ス(溫度感覺ノ倒錯)試ニ試験管ヲ握ラスルニ著シク手掌潮江スレモ熱ヲ告ケス潮紅ノ度ハ兩手掌共ニ同一ナリ

第六 運動能力 顔面ニ時々電光様ノ閃爍ヲ發ス、殊ニ口圍就中左口角ハ屢吸氣時ニ於テ著ク左方ニ牽引セラレ頬肉亦類骨筋方向ニ屢下正ニ變縮ス其他上下兩唇ハ時々横ニ變縮シ、眉筋亦變縮ス舌ハ不安ニシテ輕ク震顫ス

上肢、環指小指ハ急速ニ變縮性屈伸運動ヲナシ手及ヒ指ハ輕ク震顫シ其間ニ不正運動反復往來シ又稍粗大ナル内轉外轉運動ヲナス

下肢、跗趾、第二趾、第三趾モ亦時々不正ニ屈曲ス閉目直立セシムレバ身體恰モ棒狀トナリテ後方ニ倒レントス、開眼直立時ニ於テモ亦然リ後方ヨリ支持スルトモ亦棒狀トナル

歩行ノ際、兩脚共ニ輕度ニ屈曲シ、身體ハ動搖ス、殊ニ右脚ニテ體重ヲ支ヘ、左脚ヲ前進セントスル際甚シクシテ後右方ニ顛倒セントスルヲ見ル、此際右足脛ノ上半部ハ常ニ直立位ニアリ而シテ身體ノ



轉倒セントスルハ側方ニ椅子、卓子等之ニ頼レハ能ク轉倒ヲ免レ得ベキ物體ノ存在スル處ニ於テ著シ足痕、足跡ニ墨汁ヲ塗布シ白紙上ヲ步行セシメテ得ル處ノ足跡ハ別紙ノ如シ(前頁圖參看)

筋力 上下肢ノ被働運動ニ對スル力ハ普通ナルカ如キモ概シテ右方ノ筋力少シク弱キヲ覺フ握力ハ左、九、右(十分ニカヲ入レシメテ)八

筋肉ハ全身ニ於テ一モ萎縮セルモノナシ

感傳電氣平流電氣ヲ以テ顔面神經、尺骨神經、橈骨神經、正中神經、腓骨神經、坐骨神經、股神經等ノ變縮狀況及ビ反應狀況ヲ檢スルニ異常ナシ

第七 反射作用ヲ檢査スルニ

鼻粘膜ハ紙捻子、綿、或ハ小桿ヲ以テ刺戟スルモ噴嚏セス又癢盛セス平然タリ瞳孔反射ハ諸種共ニ存ス結膜反射ハ減弱ス、咽頭反射紙捻子、指かてーてる綿球等ヲ以テ舌根、口蓋弓、軟口蓋咽頭後壁ヲ刺戟スルニ左側ニ於テハ何レノ部分ヲ刺戟スルモ殆ント嘔吐運動ヲ起サスト雖モ右側ニ於テ其口蓋弓部ヲ稍久シク刺戟スレバ嘔吐運動ヲ起ス

足蹠反射腹壁反射ハ之ヲ提起シ得ス

膝蓋腱反射ハ兩側共ニ尋常上肢ノ腱反射ハ左右共ニ亢進ス、顔面神經現象ナシ

第八 血管反射ハ輕度ニ於テ之ヲ胸壁ニ認ム

第九 兩足ハ厥冷ス

第十 腋毛ハ兩腋共ニ短クシテ四分ノ一仙迷許ニナリ剪切セラレシモノ、如シ

陰毛短クシテ且甚シク疎生シ陰阜以外ニ生セス内診上腔加答兒及子宮頸加答兒ノ存在ヲ認ム、其内外生殖器ノ畸形、會陰破裂痕等ヲ認メズ

第十一 尿ハ反應弱酸性、比重一〇一四、蛋白質等ナシ

第十二 大便ハ暗褐色硬軟性ニシテ臭氣著ク糞塊中長サ五六尺ノ細キ木綿絲ヲ認ム顯微鏡下ニ於テハ鞭蟲及ヒ蟻蟲ノ卵子ヲ認ム十二指腸蟲卵ナシ

第三 註 論

以上記述シタル所ヲ總括シ且之ヲ解釋センニ

被告本人ハ精神病者及ビ神經病者數人ヲ出タシタル血統ニ生レタルモノニシテ姊一人ハ産後ニ發狂シ祖父及ビ叔父モ發狂シ其他父ハ酒客ニシテ外祖母ハ癡躁家ナリ

本人自身ハ明治三十七年三月中旬マテハ身體上著キ疾患ナク精神上ニモ健全ナリシガ母ノ言ニヨレハ同二十日頃ヨリ精神變調ヲ來タシタリ其症狀ハ憂鬱悲哀鍼刺的ニシテ且輕キ昏迷狀態ニアリタルモノノ如ク時トシテ絶食アリ又毎度不眠アリシモ特別ニ幻覺(實際ナキ物象ヲ五管ニ觸ル、コト)妄想(事實ナキコトヲ意中ニ空想スルコト)等ナク醫治ヲ受ケシコトモナケレハ其他ノ症狀ニシテ診斷ノ補足トナルベキモノ、如キハ不明ナリシガ合併症トシテハ下肢ノ半麻痺及ヒ水腫ヲ呈セリ是等ノ症狀ハ三月末ヨリ四月ニ跨カリ殊ニ重キヲ加ヘタル如クナリシガ四月二日ニ至リテ當犯罪事件ヲ惹起シタリ

本人ガ入監後ノ症狀ニ關シテハ〇〇井監獄醫ノ診斷ニヨリ彼ガ歇斯帝里症ニ罹リ居リテ著シキ精神病
狀ナカリシヲ知ルヘキモ本人カ陳述ニヨルハ耳鳴、色視症及大蛇ノ幻覺數多鹽煎餅ノ夜襲ノ如キ奇
異ナル幻覺アリタルモノ、如シ

又現在證ニ於テハ其證狀ハ被告自身及ヒ其母ノ言ヨリ推定スヘキ三月末四月初ノ證狀ト相似タレハ其
精神病狀ハ三月末ヨリ今日迄依然トシテ續キ存シタルモ而モ餘程其時分ヨリハ其程度輕減シタルモノ
ナルベシ、今ハ指南力モ不十分ニシテ周圍ノ事情ヲ領解スルハ正當ナレモ遲ク又淺クシテ被告ハ多
クノ場合ニ於テ茫然自失スルノ狀態ニアリ思想ノ進行ハ遲徐ニシテ思路減裂等ノ症狀ヲ呈セス且目下
ハ感情動キ易クシテ時々從前ノ悲運ヲ想起シテハ悲ミ周圍ノ些事ニ感シテハ激スルハアルモ敢テ憂
鬱狀態、制止狀態ヲ認メス却テ多クハ輕ク快樂狀ニシテ常ニ微笑シ又時々輕ク發揚シ或ハ感動(忿激)
ノ爲メニ促サレテ運動上ニモ活潑トナルコトアリ

此ノ如クニシテ其症狀ヲ一括スレハ其ハ確乎具體的ノモノニモアラス從ツテ臨牀上ノ一定病形トナサ
ズ寧ロ不定ノ病症タルヲ標示スルナリ果シテ何程ノ精神病ナランカ是ハ其身體症狀ニヨリテ推定スル
ヲ得ンカ、其身體症狀ヲ見ルニ顔面ニ現ハル、夥多ノ皺縮、舌、指、足趾ノ震戰攣縮等ハ明カニ被告
本人ガ神經性ノ人物タルヲ知ルニ足リ又感覺減却ガ半身性ナルヲ掌蹠等ニ限局スルヲ、感覺過敏部ガ
神經區域ニ準セサル所ニ斑紋性ニ存スルヲ溫冷ノ感覺ガ身體ノ大部分ニ不正形ニ缺乏スルヲ感覺異常
ノ部位ガ時々ニ變動スルヲ、視野ガ四方ニ限狹シ且其程度時ニヨリテ相違スルヲ、眼覺ガ時トシテ絶

無時トシテ不定ナルヲ粘膜反射ガ減却スルヲ歩行ガ困難ニシテ特ニ其安全ナル場合ニ著シキヲ、閉目
直立ノ際直身顛仆スルカ如キコト、以上ノ症狀アリ、而モ一個ノ機質性疾患タルヲ標榜スベキ徵候ナ
キ等ハ吾人ヲシテ被告本人ノ神經的疾患ガ臟躁症ナラサルヲ推測セシム

抑婦人ニ在リテハ其生殖作能時ニ際シ著キ神經作能及ビ精神作能ノ顯微シ易キ傾向ヲ呈スルモノニシ
テ常態ニ於テモ多少ノ精神病の徵候神經病的徵候ヲ發スルモノナリ、妊娠時モ亦其重要ナルモノ、一
ナレハ婦人ハ尋常ニテモ此間ニ神經性傾向ヲ生シ刺戟トナリ反射興奮性増進シ苦悶ヲ生シ又ハ鬱愛シ
或ハ失神狀トナリ或ハ感情ノ倒錯ヲ來ス少ナカラサルモノニシテ嗜異性トシテ孕婦ガ異味ヲ好ミ欲
スルハ人ノ知ル所ニシテ甚キハ竊盜殺人ノ傾向ヲ生スルサヘアリ此際ニ於テ臟躁性病徵ノ發スルハ殆
ント普通有リ勝チノコナリ況ンヤ其人神經病性體質ヲ備ヘタルニ於テヤ此際通常ノ稀ニ見ル所ノ著
シキ精神上ノ震動ヲ蒙ルニ於テヤ被告本人ノ場合ニ就テ之ヲ考フルニ彼ハ血統上ヨリ生來神經病性
素質ヲ有シタル上稀ニ逢遇スベキ程傷ハシキ婦人ノ本性的榮譽ヲ傷ケラレタルガ如キハ明カニ其精神
ニ非常ノ痛撃ヲ加ヘ之ニヨリテ其精神の常態ヲ傾倒顛覆セシメ得タルハ之ヲ想像スルニ難カラス
臟躁ハ最多ク遺傳性ニ起因スルモ感動ハ之ヲ誘發スル原因トシテ著シク有動ニシテ且其基礎ノ上ニ精
神病ヲ發スルコト少ナカラス其精神病タルヤ單純ナルアリ或ハ苦悶發作トナリ或ハ幻覺症
トナリ或ハ精神朦朧狀態トナリ或ハ發揚シ鬱愛シ又ハ妄想性精神病モアリ要スルニ多種不定ノモノナ
リトス故ニ此被告ノ精神症狀ノ如キハ恐ラクハ臟躁性ノモノト認ムルモ差支ナカラン

抑妊娠中ニ於テハ種々ノ精神病ヲ發スルコト多キカ中ニモ鬱憂性ノモノヲ最モ多シトシ且リツピンク氏ノ如キハ妊娠狂者ノ多分ニハ一種夢狀狀態アルコトニ注目スベキヲ稱セリ又此種ノ病症ハ妊娠ノ後月々發狂スルモノ多ク妊娠ノ第五月以後殊ニ分娩ノ直前ニ多シト稱セラル、精神感動殊ニ其長續ノモノハ其誘因中ノ有力ナルモノト認メラル、而シテ其精神感動ニ關シテ從來諸家大抵妊娠ノ爲ニ或ル不品行ノ暴露センコト後來ノ家計困難ヲ増加センコト分娩ノ危險ナルベキコト等ヲ擧ゲタルガ今此被告本人ニ於ケルカ如キハ實ニ其婦人タルノ品位節操ヲ沒却スヘキモノ、中殊ニ非常ナルニ逢遇シタルモノナルヲ見バ其感動尋常一様ノモノニアラスシテ本人ノ精神ヲ擾亂シタルノ劇甚深重ナリシコト知ルヘキナリ分婉モ亦婦人ノ精神ニ著シキ影響ヲナスベキハ一考シテ已ニ推シ知ルヘキコトニシテ破水ノ際ニ從來健康ナルモノ一時發狂スルコトサヘアリ然レモ亦分娩ハ妊娠狂ノ經過豫後ニ對シ更ニ影響ノナキコトアリ今此例ニ於テモ分婉ハ被告ニ著キ精神的激動又ハ之ヲ從來ノ失神狀態ヨリ脱スルコトナカリシナリ、之レニヨリテ余ハ被告ヲ以テ目下精神病ニ罹リ居ルモノト認メ且其精神病ハ鬱憂性昏迷性躁性ニシテ妊娠ヲ機會トシテ發シタルモノト認ム之ニ次キテ起リ來ル問題ハ即チ此病症ガ果シテ産前ヨリ産後ノ今日マテ絶エス持續シ居リタルヤ否ヤニシテ是レ余ガ甚ク解答ニ困難ナル所ニシテ産前ノ病症ハ醫師ノ診斷ヲ受ケタルコト更ニナキト其症狀ノ提供ハ一々被告本人及ビ其母ノ言ニヨルノミナルコトハ其困難ヲ致スニ付テノ最要ナル理由ナリトス

此點ニ關シ重要ナル根據トナルハ疑モナク婉産當時ノ被告ノ舉動及ビ被告ガ之ニ關スル追想能力ノ狀

況ナリトス是ハ被告ノ違法行爲ニ責任能力アルヤ否ヤト直接ノ關係アレバナリ

抑本人ハ盜賊タルヲ知ラスシテ某ヲ夫トシ痛恨遺ル方ナク産時ニ及ハ、寧ロ其兒ヲ殺サンカト決心セシコトアルハ被告ガ自ラ○村警部ニ答ヘシ所(同警部聽取書)五月廿三日○判事ニ答ヘシ所(調書)ニヨリテ明ラカニシテ五月十九日ニハ被告人ハ『子供を殺そ』と決心したは久き以前であります時々心が變りましたから確かと定めたのは何時頃でありましたか記憶致しません』ト○村警部ニ語レリ且四月六日即チ嬰兒殺害ノ當日ニ於テ兒ヲ殺サントノ意思一度被告ノ心中ニ：：：確カ不確カ兎ニ角ニ：：：起リシモノ、如ク五月十九日○村警部ニ對シ『先月六日の夜二時か三時頃俄に腹痛を感じ出産に迫りたることが分りました依て窃に家を脱け出で井端に赴き人知れず分娩し井に投げ様と思ひ井の手前十間斗りの所まで参り云々』ト答ヘタルカ(聽取書)是ヨリ先キ嬰兒殺害ノ當時乃チ其翌日四月九日ニ於テ被告ハ同警部ニ對シ井ニ投シ自殺セントテ家ヲ出テシガ途中出産セシ爲メ兒ヲ井ニ投シ自分モ投身セント思ヒタルモ卒然思ヒ止マレルコトヲ語リ(檢證調書)テ初メヨリハ殺兒ノ意思ナカリシコトヲ告白シ其後又五月二十三日ニハ豫審廷ニ於テ『泥棒の子を生んでは世間へ顔出しが出来ぬと思ふて常に案じて居りました臨月にもなると、寧ろ其子を殺して仕舞はんかと思ふたのですが本年四月六日午前二時俄に産氣が付たから氣がむら／＼と致し寧ろ井戸に身を投して死なんと企て：：：畑に到つたるに子を産み落しました其處で又氣が變り赤子を井戸へ投げ込んで仕舞はんと思ひ云々』ト云ヒテ平生ヨリ其殺兒ノ意思ナキニモアラサリシカ其當夜吾家ヲ抜ケ出ツルルハニハ其意思ナク嬰兒ヲ産ミ落シタル

キ卒然此意想再現シタルモノナルヲ語り要スルニ被告ハ自カラ孰レヲ孰レトモ精確ナルヲ記憶シ居ラサルガ如シ猶ホ其分娩ノ瞬間ノ精神狀況ニ關シテハ被告ガ『産んだものは男か女か又完全なるものか否か能く見ませんでした何でもフヨクしたものの様に思ひました初め繻絆に包みましたが洩れる様でありましたから更に前掛にて其上を包みました其前掛は平常枕の覆にして居ましたが死するときは履物を包みそれを持って入水し死後履物より自分の死場所を覺らるとの無き様致す考へにて家出の際携へて参りました』ト云ヒ五月二十三日豫審廷ニ於ケル『子供を井戸に投げ込む前其子の鼻又は口を押へて息を止めたのではないか』ノ問ニ對シ『左様なことは致しません只闇黒の處で繻絆に包んで井戸に投げたのです假令泥棒の子でも私の生んだのですから其時其子の顔でも見たら殺す氣には成らなかつたでせう』ト答ヘ『泣き聲でも立てたなら捨てる氣には成らなかつたのです』(調書)ト云ヒタルガ如キヨリ考フ或點ハヨク記憶シナカラ或點ハ全ク曖昧ナリトス蓋シ此時ニ於テ被告ノ意識ハ或一部ニハ追想明亮ナルカ如キモ又他ノ一部ニハ追想甚冥晦ニシテ分娩前ニ於ケル又分娩後ニ於ケルト似テ全ク明亮ナラスシテ多少朦朧タリシモノノ如ク被告ガ憂愁苦悶ノ餘リニ分娩ノ期ノ近ツクト共ニ感動益烈クナリテ遂ニ戶外ニ逸出スルニ至リシヨリ自カラ井ニ投セントシテ却テ嬰兒ヲ投セシ迄ノ間ノ一ハ其記憶特ニ曖昧ナルカ如シ

此ノ如キ狀態ハ屢精神病者ニ見ル所ニシテ殊ニ此ノ如キ發作ノ起リテヨリ或事件ヲ遂行シテ其内閣ノ外ニ迸發スルト共ニ輕快シテ平和狀態ニ復スヲ通常トス

其直後ノ狀況ニ關シ被告人ノ母ハ曰ク『四月六日の朝であつた様に思ひますが〇代の眼が非常に充血して居り様子が變であるから何うしたのかと聞きましたら千代は半ば夢の如き様にて赤子を生んだと云ひスヤ／＼と眠て仕舞ましたそれより千代が眼を覺ませば様子を聞かんと勉めたるも只寢言の様に赤兒が生まれたがヒロ／＼する様な氣味悪ひものであつたといふのみにて要領を得ず漸く八日の夕刻に成て赤子を生んだが變なものであつたから井戸へ投込んだと云ひました依て隈なく近邊を搜索し九日に成て始めて分たから御訴したのです』(豫審廷ニ於ケル母調書)是等ノ證言ハ一見虚偽ノ如クナレモ之ヲ被告ノ精神狀況ニ比較スルモ能ク又相一致スルヲ以テ推考スレハ被告ガ妊娠ノ後月ニ於テ發病シ分娩ノ爲ニ促サレテ卒然危險ナル犯罪行爲ヲナシ其後ハ引續キ分娩前ト同一ノ精神狀況ニアリ以テ今日ニ至リタルモノト想定スルヲ得ン

管ニ此ノミナラス被告ハ其後ノ一ニ關シテモ記憶ノ缺漏性ナルヲ明白ニシテ自己ガ監獄へ來リタル狀況ノ如何何レノ處ヲ經テ此處へ來リシカ等ニ付キ明答スル能ハス唯離々ニ警部ガ我家ニ來リ種々問合シタルヲ自分ガ母ニスガリ母ノ語ニ從ヒテ何處トモナク立出テタルヲ途中芝愛宕下邊ニテ某大衛ニ立寄りタルヲ某家ニ巡查警部居リタルヲ其家ヨリ直ニ歸ルベシト思ヒシニ圖ラズモ馬車ニテ此處(監獄)ニ來タリシヲ等ヲ述ベ而シテ其陳述ノ内容ハ甚概括的ニシテ是以上ノ精細ナルヲニ互ルヲ得ズ是レ吾人ヲシテ此際ニ於ケル被告ノ精神狀態ガ同ク朦朧曖昧ナリシヲ推知セシム從テ又吾人ハ被告ノ精神狀態ガ即チ犯罪前及ビ犯罪後數月ノ今日ニ於テ相類似スルノミナラス其犯罪ノ直後ニ於テモ亦乙ノ時

ニ於ケルト相類似シタルコトヲ略々推知シ得ルナリ
 抑被告ノ精神状態ガ此ノ如ク抑鬱狀昏迷狀、朦朧狀ナリトスルトキハ被告ハ所謂知覺精神ノ喪失ニヨ
 リテ是非ノ辨別ナキモノト云フヲ得ベシ抑鬱狀ナルトキハ凡テノ思想意志トモニ抑鬱セラレテ正當ニ
 發展スルコトヲ得ズ殊ニ悲哀的觀想ノ甚キ極度苦悶ノ状態ニ陥イルトキハ精神昏晦シテ前後ノ分別ナク
 身ヲ以テ此苦悶ニ殉スルニ至ルコト屢アリ精神ノ昏晦ナルハ又昏迷状態ノ特徵ニシテ精神ハ前夜ノ如ク
 朦朧トナリ我思フヲ我爲スヲニ關シ其程度ノ強弱如何ニ從ヒテ不完全ニハ之ヲ辨識スルカ或ハ辨識シ
 能ハザルカニシテ到底自カラ眞行爲ヲ統御スルコト能ハサルモノナリトス

第四 鑑定

以上縷述スル所ニヨリテ之ヲ結論スルニ被告ハ目下臆躁症(即歇斯帝里症)ニ罹リ且之ヲ基礎トシテ精
 神ノ變調ヲ來タシ居ルモノニシテ其精神症狀ハ恐ラクハ本年三月末頃ヨリ今日マテ持續シ居ルモノナ
 ラン從ツテ余ハ鑑定ノ主文ヲ左ノ如クセントス

明治三十七年四月六日午前二時頃○藤○代ガ自己ノ分娩セシ嬰兒ヲ殺害セシ當時同人ハ知覺精
 神ヲ喪失シ居リタルモノナリ

東京府巢鴨病院長
 醫學博士 吳 秀 三
 明治三十七年八月十二日

被告人ハ明治三十七年八月十五日刑法第七十八條及刑事訴訟法第六十五條ニヨリ免訴ノ決定ヲ宣告セラレタリ

第十五例 放火犯被告人○本○太郎精神狀態鑑定書

明治三十七年八月三十一日○○地方裁判所豫審判事○田○作ハ余ニ命スルニ○○府下○○郡○○村
 字○中○○番地平民農○本○郎○衛○長男○本○太郎(明治六年三月廿六日生)放火犯被告事件ニ關
 シ同人ノ精神狀態ヲ鑑定シテ左ノ二問ニ答辯スヘキコトヲ以テセリ

一、○○監獄ニ在監セル○本○太郎ハ是非ノ辨別ヲ有スルモノナルヤ否ヤ
 一、若シ辨別ヲ有セサルモノトセハ何ニ原因スルヤ

(甲) 事 歷

其事跡ヲ尋ヌルニ是ヨリ前明治三十七年八月八日午後十一時頃右○本○郎○衛○方ニ出火アリテ同家
 ノ木小屋肥小屋及ヒ其住宅焼失シ隣家○方○次郎ノ宅モ半焼トナレリ是時○○警察署○屋(○太)○持
 (○之助)兩巡查ハ直ニ現場ニ駆付ケ消防ニ盡力シ未タ鎮火セザル前○本○郎○衛○ノ次男○太郎ニ

就キ出火ノ原因等ヲ尋問スルニ彼ガ『自家は他人より恨を受くる覚えなければ他人の放火する筈なし自分兄〇太郎は癡に放火犯にて處刑せられしのみならず是日晝間私と些細のとより口論をなし立腹したる様なれば或は彼が放火せしかも知れざる』旨ヲ答フ仍テ右二巡查ハ又同人〇本〇太郎ヲ取調ヘタルカ其報告ニ『本人は元來無口なる上に稍白癡の如き者にして最初は唯首を垂れ何等申立ざりしが段々取調べたるに自分が「マッチ」を以て居室に接せる木小屋に放火したる旨申立てたり仍て同人を放火犯として引致せり』ト記セリ(逮捕告發調書)猶同日〇〇警察署ニ於テ〇口警部ガ被告人ヲ訊問セン際ニモ同シク『便所に火を付けた』『マッチ』で木小屋に付けた』ト答ヘ(被告人聽取書)八月十一日〇〇地方裁判所檢事局ニ於テ〇芝(〇吉)檢事ノ訊問ハ『弟〇吉と喧嘩して悔し紛れに自宅に火を付けしや』ニ對シ『はい』ト云ヒ且『マッチ』ヲ以テ木小屋ノ中ナル木ノ葉に火付クシト辯シタリ(訊問調書)八月十六日〇〇地方裁判所ニ於テ〇田(〇作)判事ガ取調ヘタル時モ我家ニ放火セシヲ自告シ但其際木ノ葉ト云ハス枯木ト云ヘリ又『マッチ』は臺所にあつた』ト云ヒ放火ノ理由ハ『弟と喧嘩をして口惜いから』トシ其喧嘩ハ同日午後十時頃家ニテナシ『口で只云ひ争をしたのです』『私も弟も酒を飲みましたが常から私を馬鹿に致しますので喧嘩をしたのです』ト云ヒ父モ母モ其時傍ニアリシト告ケ弟ト喧嘩シタルニ父ノ家ニ放火セシハ『其家カ弟の名前に成つて居るから其で火を付けたのです』ト云ヒ木小屋ニ放火セシハ居室ヲ燒カントスル意思ニ出デシヤヲ問ハレ『はい』ト答ヘヌ

是ニ於テ〇田判事ハ更ニ被告カ父〇郎〇衛〇被告カ弟〇太郎ヲ訊問セルガ其調書ニヨレハ〇郎〇衛〇

ハ兼テ〇太郎ニ對シ〇太郎ハ『足りない人物』ナレバ『能く氣を付けろ』ト云ヒ付ケ置クヲ以テ〇郎〇衛〇在宅ノ時ハ〇太郎モ〇太郎ニ『逆らつたり喧嘩をする様な事』ナキモ是日ハ〇郎〇衛〇不在ナリシ故ヨリ事情ヲ知ラザレモ彼ハ〇太郎ヨリ『夕刻〇太郎カ〇太郎に湯の水を汲め』ト云つた所ガ〇太郎カそれを汲まなかつた』トハ之アリタリト告ケタリ又之ニ關シテ〇太郎ハ其時〇太郎ガ『怒つて薪を取り私を打とうと致しましたから私は逃げました』トノヲ申立テタリ(參考訊問調書)是ニ由リテ之ヲ觀レバ被告人〇本〇太郎ハ其實父ノ言ニヨレハ『足りない人物』ニシテ些細ナル事故ノ爲メニ自家ニ放火スルニ至リタルモノ、如クナレハ其『足りない』程度ハ幾何ノモノナリヤ知覺精神ノ喪失ニヨリテ是非ノ辨別ナキマテノ程度ノモノナリヤ否ヤハ此鑑定ヲ必要トスルニ至リタル理由ナルヘシ

抑『足りない人物』ハ世俗ニ於テ白癡者ヲ指スノ通用語ニシテ明ラカニ其精神ノ薄弱ガ生來ナルカ又ハ極幼時ヨリノモノナルヲ示スモノナリ所謂白癡ナルモノハ即チ一定ノ原因殊ニ出生ノ前後ニ於ケルモノニアリテ起リ又一定ノ徵候ヲ有スルモノナルカ故ニ先ツ第一ニ其遺傳歴ヲ取調ブルノ必要アリ

(乙) 既往症

今其家系ニ付テ疾病史ヲ尋ヌルニ

父ハ六十九歳(天保七年二月)ニシテ健存シ嘗テ著シキ疾病ニ罹リタルヲナシ性質樸直ナルモ酒客ニシテ獨酌ナラハ三合對酌ナラハ五合ヲ日常ノ飲量トシ(鹽野金吾等編成ノ鑑定書ニハ酒癖アリテ酔フキハ動モスレバ他人ト喧嘩口論ストアレモ本人自カラハ之ヲ非認ス)母ハ五十九歳(弘化四年八月)ニシ

健存シ沈黙ニシテ幼時ヨリ軽度ノ耳聾アリ兄弟五人アリ姉一人ハ三歳ノ時病歿シ弟一人(○太郎)二十八歳ニテ健存シ妹(キヨ)二十八歳弟一人(○三郎)ハ十八歳共ニ健存ス父方祖父ハ六十二歳ノ時喘息ニテ死シ父方祖母ハ八十二歳ニシテ神思少シク老セシモ著カラス老衰シテ死シ父ノ兄弟ハ五人アリ兄二人姉一人喘息病ミニテ六十歳近クナリテ病歿シ兄一人健存ス喘息持ナリ父ノ兄ノ子一人逃亡ス外祖父ハ五十餘歳ノ時痰ニテ死シ外祖母ハ八十歳ニテ健存ス母ノ兄弟三人ヨリ兄一人ハ高度癡呆ニシテ言語モ十分ニ發達セス歩行モ不確ニシテ二三歳ノ小兒ノ如キ精神發育ノ程度ナリシカ三十三歳ニテ死セリ弟一人ハ(嘉永六年二月)四十二歳ニテ健存ス(父母ノ陳述、戸籍謄本、鹽野金吾等編成鑑定書)被告本人ハ出生後健全ナリシモ三歳ヨリ五歳ニ至ルノ間俗ニ云フ枯癩ニテ甚ク瘦削シ一晝夜三四回瘧發作ヲ來シ失神セリト智力甚ク遅クシテ言語ハ四五歳ニシテ僅カニ發シ次ヲ歩行スルヲ得七歳ノ頃麻疹痘ヲ經過セリト云フ七歳頃ヨリ稍健全ニ復シ爾來記スヘキノ疾患ナシ早クヨリ口吃ナリ(又ハ生來ナリト云フ)明治十六年六月(弟○太郎ト共ニ父某ノ農作ヲ助クルノ際畑中ニ於テ些少ノ原因ヨリ突然忿怒シ弟ノ帯ヒシ)鎌ヲ以テ左手中指無名指ノ掌面第一關節部ニ負傷シ出血甚ク醫治ヲ乞ヒシカ六十餘日ヲ經過シテ治癒シ今尙ホ腿切斷セラレシ爲メ畸形ヲ殘セリ明治二十七年三月中旬熱病ヲ患ヒ嘔々語語シ一時危篤ニ陥キリシモ二週日ヲ經過シ治癒スト云フ生來中等量ノ飲酒家ニシテ對酌五合位ヲ傾ケ且煙草ヲ嗜ム性質暗愚ニシテ憤怒シ易ク獨居シテ他人ト交通談話スルヲ好マズ親族知己ノ偶訪問スルアルモノ一隅ニ潛伏シ少シク自己ノ意ニ適セサレバ相貌ヲ變シ母ト雖モ敵シ時トシテ毆打スルヲアリト

云フ他人ニ對スルモ禮義ヲ知ラス自カラ角帶ヲ帶フルコト能ハズ平素農事ニ従事スルモ父母ノ命ニヨリテ初メテ之ヲ行フ平素ハ藁ヲ編ムヲ仕事トシ倦厭スレハ「ふら〜」ナシ居ル又一人前ノ仕事ハ出來ヌ放水汲ミ位ノコトヲナシ居ル幼時三四年間學校へ通學セシモ落第セシコト二回外ノ人ノ半分モ出來ズ當時猶ホ自己ノ姓名ヲ記スルコトヲ得ルモ學力ハ幼時ヨリ退歩ノ傾ヲ有スト云フ(鹽野金吾等編成鑑定書)父母ノ調書及陳述○島吉及ヒ隣家○方某調書(父曰ク「處刑を受ける前の方がまた少しは分つて居りましたが監獄へ這入つてから一層分らない人物に成なつて仕舞ました」(調書)弟曰ク「以前ハ吃音ながらも家のものには分りましたが出監後は家の者にも何を云ふのか分りませんです」(調書)ト然ラハ家人ノ意見ニヨレハ被告ノ精神狀況ハ前回在監後ニ於テ其前ヨリ一層増悪シタルモノナリ而シテ此在監云云ハ即チ被告人が明治二十七年中數件ノ放火ヲナシタルニヨリ同年九月十八日○○地方裁判所ニ於テ重懲役九年ニ處セラレ同年同月同日ヨリ三十六年九月十八日迄小菅集治監ニ在監セルヲ指セルモノニシテ其放火ノ事跡ハ左ノ如シ

一、明治二十七年五月十六日夜十二時頃同村大字○○○方市○郎居宅外側掃集ノ木ノ葉ヨリ發火シ直ニ消止メタリ

二、同年五月十七日午前一時頃同村字○方○右○門方薪小屋ヨリ發火シ居宅蠶室物置并ヒニ小屋等計七棟及隣家ニ延焼セリ

三、同年五月二十三日午前一時頃同村同字ノ○島○藏所有木小屋ヨリ發火シ燒失セリ

- 四、未ダ分時ナラサルニ同村〇〇橋〇平〇邸底下樅粗朶ヨリ發火セシカ直ニ消止メタリ
- 五、同年五月二十五日午前四時頃同〇本〇次郎居宅ノ北側下家ヨリ發火シ直ニ消止メタリ
- 六、未ダ分時ナラス同村〇方〇助宅外側ヨリ發火シ居宅一棟燒失セリ
- 七、同年同月二十六日午前三時頃同村〇〇川〇善〇衛〇所有田面中ニ堆積セル〇本〇郎〇衛〇所有杉

從等ノ枝葉ヨリ發火シ凡廿束許リ燒失セリ(〇〇警察署警部〇村〇享意見書)

(丙) 現在症狀

一 精神症狀

被告本人ハ監房ヨリ醫師ノ前ニ招致セラル、モ茫然入り來リテ辭義ダモセス然レモ多少周圍ノ事情ヲ見馴スルヲ得テ緩慢ニモ醫師ノ命シタル儘ニ適宜ノ坐位ニ就キ之ト問答スルニ低聲ニ單調ニ簡易ナル應答ヲナス周圍ニ對スル指南方即チ我ト對話スル人ハ誰ニ我旁ニアル人ハ誰、監獄ハ如何ナル處、我ハ何カ爲ニ此處ニ招致セラレシカ等ヲ略悟得シ又場所ニ關スル指南方モ略存シテ此處ノ監獄ナルハ此室ノ診察所ナルヲ了解スルモ月日ノ指南方ハ不明ニシテ此年此月此日ヲ明確ニ正ク告クルヲ能ハス事物ヲ知覺スルヲ稍弛緩ニシテ之ニ注意ヲ馳スルヲ遲徐ナリ記憶ハ缺漏性ニシテ十分ニ正當眞實ニ精神内へ銘勒セラレ居ラズ自己ガ生年月ヲ悉知セス父母ノ名及ヒ兄弟ノ名ヲ舉ゲ稱スルヲ得ルモ悉ク之ヲ列舉スル能ハス又從來ノ經歷セシヲ付テ彼ハヨク事實ヲ記憶スルヲアリト雖モソハ甚少數ニシテ具形的ノモノノ幾小部分ニ止マリ且之ヲ經驗シタル時ノ前後ヲ明ニ辨スルヲ能ハズ思想ハ貧弱單一

ニシテ概念ノ發育極メテ少ナク高尚ナル道德ト及ビ法律上ノ理義ハ勿論總テ無形の概念ハ殊ニ發達セス具象的觀念ト雖モ亦甚缺乏シ即チ彼カ日常實履スル事物ニ付テスラ之ヲ正確ニ理解スルヲ能ハス一ヨリ數ヘテ次第ニ高數ヲ云ハシムルニ五以上ハ既ニ困難ニシテ十以上ハ更ニ澁滯シ十五以上ハ折數ナル指ハ數ノ順序ト合セス三十以上ハ屢催促シテ纒ニ之ヲ云フヲ得算法ハ極簡單ナル加法モナシ得サル位ナリ思想ノ進行ハ遲滯シ吃語ナキ時モ應答ハ遲延シ一旦答ヘ出シタル後猶ホ甚緩慢ナリ幻覺妄想等ノ症狀ハ一切之ヲ認メス感情界ニ於テハ目下著キ變化ヲ認メス意思界ニ於テモ又然リ

二 身體症狀

頭部ヲ檢スルニ左前顛頂部輕ク扁平トナリ其代ニ右側後顛頂部及後頭部輕ク隆起シタル爲メ輕度ノ斜顛形ヲナセリ顔面ニ於テハ兩額骨體部側方ニ隆出シ下顎部ノ發育稍小ナル他ニ記スヘキ程ノヲナク顔貌ハ柔和満足ヲ表シ常ニ微笑ス眼運動尋常ニシテ斜視ヲ認メス右眼角膜ニ癍翳アリ石灰白色ニシテ凸面不平ナリ左手ノ中指及ヒ無名指第一節第二節間ノ關節ニ於テ伸面ニ屈曲シ爲ニ著キ畸形ヲ呈シ且物ヲ把握スル能ハス關節ニハ異常ナクシテ之ヲ矯メテ尋常位置ニ持チ來スベシ左足拇趾ノ爪ハ退縮シテ豌豆小ナリ且一部粗雜肥厚ス右側同趾ノ爪モ亦稍之ニ類スルノ狀況ニアリ脊椎ヲ檢スルニ下胸部腰部ニ於テ龜背ヲ呈ス全身ノ感覺運動ニ兩指ヲ除キ異常ナシ反射作用又然リ

三 總合症狀

本人ガ目下ノ症狀ハ精神能力ノ薄弱ナルヲ表示シ身體症狀モ亦之ニ適合シタルモノニシテ其病症ハ所

謂白癡ノ症就中其稍重キモノニ屬シ其能力ノ量積ヨリ判斷スル時ハ凡ソ十歳以下ノ教育ヲ受ケタル兒童ニ相當セルモノトス而シテ此精神ノ薄弱ハ白癡ナル專門語ヲ以テ已ニ之ヲ知ルハキカ如ク精神ノ一旦發育シタル後ニ起リシモノニアラスシテ却テ先天性又ハ最幼時ニ發シタルモノトス

被告人ノ病症ヲ先天性又ハ最幼時ニ得タルモノナリトスルニハ父ガ酒客ナルヲ母方叔父ガ高度ノ白癡ナリシヲ父方祖母ガ老耄ナリシヲ等ノ遺傳史之ニ多少ノ根據ヲ與フヘク更ニ又本人ガ三五歳ノ間毎日數回ノ痙攣發作ニ惱ミシヲ精神身體ノ發育ノ遲滯セシヲ殆ント生來ニ吃リナルヲ幼年及少年時代ニ智力ノ尋常兒童ヨリモ遙カニ劣等ナリシヲ成年ニ達セントスルモ日常ノ業務ニスラ從事スルヲ能ハザルヲ等ハ本人ノ白癡症カ前掲ノ原因アル上ニ猶ホ最幼時ニ於テ重キ疾病ニ罹リテ其精神ニ深キ甚シキ作能ノ障礙ヲ惹起シタルモノナルヲ示シ被告人ノ白癡症カ遺傳ニ淵源シ最幼時ノ腦病ノ結果タルヲ明ラカナリ

(丁) 説明

以上解説スル所ニヨレハ被告人ハ先天性ノ精神薄弱症ヲ患フル者即チ白癡ニシテ其病症ハ頗ル重大ナルモノトシ殊ニ形而上觀念ニハ貧弱ナルモノナルヲ以テ自己ノ所爲ニ關スル外圍トノ關係其外圍ニ及ボス影響等ヲ酌量スル能力ヲ全然具有セサルモノトス

本被告事件ニ關シテハ被告ハ弟○太郎ガ常ニ自分ヲ馬鹿ニスルヲ憤リ些細ノコヨリ喧嘩シテ其悔シ紛レニ自宅ニ火ヲ付ケタルヲ是認シ且其所謂自宅ガ弟○太郎ノ名義ニナリ居ルカ故ニ之ヲ放火セリト

自白セリ抑白癡者ハ精神力ノ不十分ナルト共ニ精神容量狭小ニシテ感情ハ些細ノコノ爲ニモ激動シ易キモノナルカ故ニ些細ノ原因ヨリシテ測ラレサル重大ノ事件ヲ惹キ起スヲアリ白癡者ノ犯罪就中放火犯殺人自殺等ノ如キモノハ屢此ノ如クニシテ實行セラレ而シテ其理由ニ至リテハ殆ント發見シ得サル程ノモノナルヲ多シ此犯罪タル放火ノ如キモ或ハ本件ノ如ク些細ナル喧嘩ノ爲メ又ハ主人兩親ノ叱責ヲ怨ミタルカ爲メ又ハ放火後ノ饜應ヲ目的トシ或ハ火燄騰擧ノ壯觀ヲ目的トシテナト企圖又ハ遂行セラ

ル、モノアリ要スルニ其智力ノ薄弱ナル結果知覺精神ノ喪失トナリ是非ノ辨別ナキニ出ツルモノナリ而シテ此被告本人ノ犯罪モ彼ガ智力ノ程度ヨリ考ヘテ決シテ此種ノモノナリト認メサルヲ得ス

明治二十七年九月中放火犯被告人トシテ取調ヲ受ケタルトキノ調書ニヨレハ被告人カ所爲ト認メラレタル數件ノ放火ハ單ニ衣類又ハ製茶ヲ得ンヲ欲シタルニ基ツキタルモノニシテ被告カ放火ノ傾向ハ既ニ十年前ニ勃發シタルモノナルヲ推量セシメ從ツテ又吾人ヲシテ其傾向ハ其後入獄ノ爲メニ長ク潛伏シタルカ近時ニ至リ又々再發ノ傾向ヲ生シタルニハアラサルカノ疑念ヲ抱カシム白癡者等ニ在リテハ屢情慾ノ如クニ放火ノ傾向ヲ具有シテ自己自カラ制シ能ハサルモノ多ケレハナリ故ニ此被告本人ノ如キハ時ニ公衆ノ安寧ヲ危殆ナラシムヘキ行爲ヲナスヲ得ヘキモノト云フヘキカ故ニ余ハ家人ヲシテ嚴ニ之ヲ監督セシムルノ必要アリト認ム

(戊) 鑑定文

之ニヨリテ余カ鑑定ノ要領ハ左ノ如ク之ヲ約言スベシ

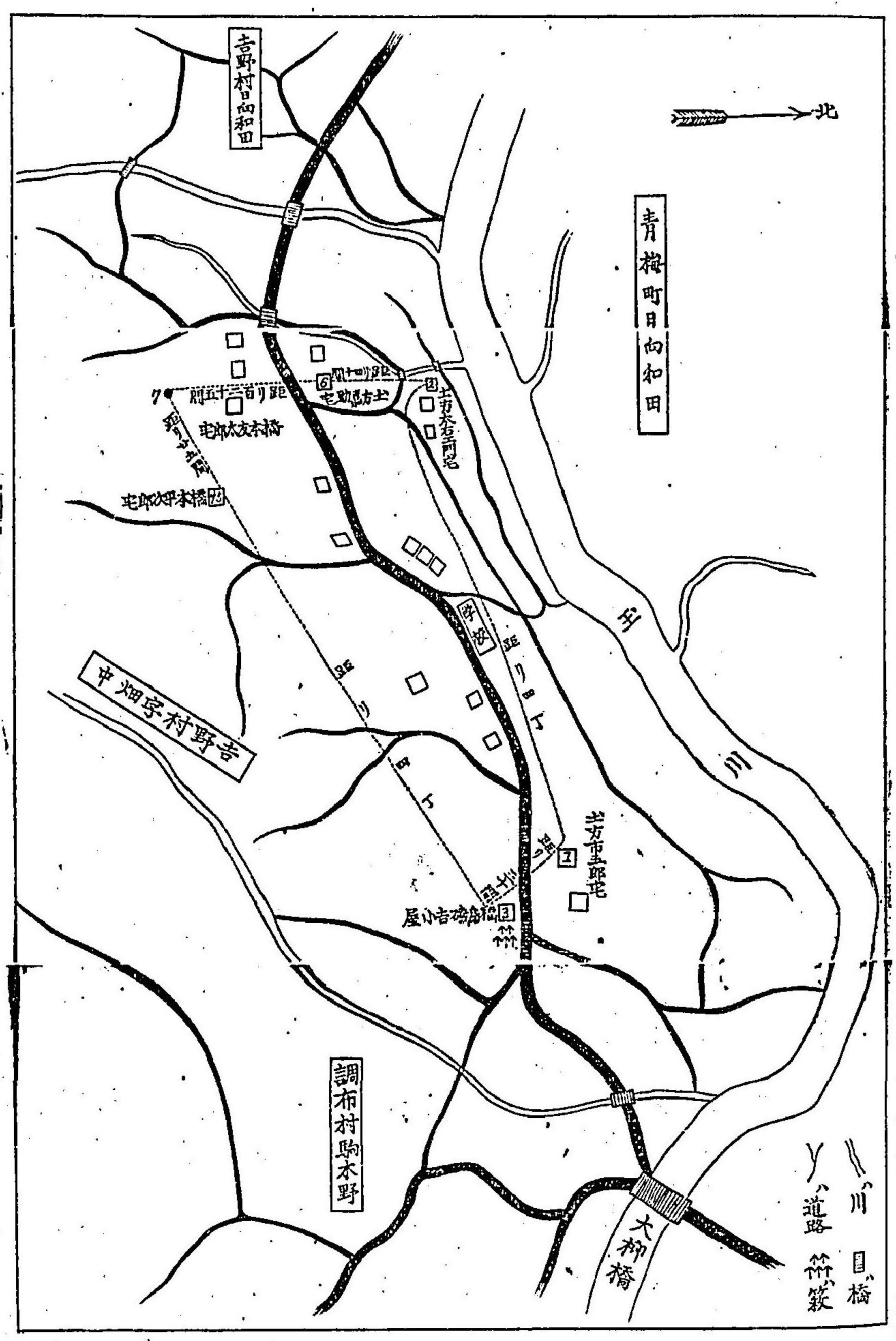
一、放火犯人〇本〇太郎ハ是非ノ辨別ヲ有スルモノニアラス
 一、犯罪ノ原因ハ彼ガ遺傳ニ淵源シ最幼時ニ得タル腦疾患ノ爲メニ精神ノ極メテ薄弱ナルニアリト云
 ハサルベカラス
 而シテ余ハ彼ガ病症ハ公衆ニ危険ヲ生スルノ虞アルコトヲ附言セントス

東京市本郷區西片町十番地
 東京帝國大學醫科大學教授醫學博士

明治三十七年十一月十八日

鑑定人 吳 秀 三

被告〇本〇太郎ハ右鑑定ニ基ツキ明治三十七年十一月二十二日免訴放免セラレタリ
 猶ホ被告カ放火事跡ノ參考圖ハ左ノ如シ



第十六例 謀殺犯被告人○塚○造精神状態鑑定書

原籍 ○○縣○○郡○○村大字○室○番地

○○府○○郡○○町大字○○宿○○番地

○○原○吉方 寄留平民○吉次男

謀殺事件被告人 ○ 塚 ○ 造

明治十三年十月十二日生

右者明治三十七年八月十二日其寄留地ニ於テ○林○太郎(明治元年月日不詳生)ヲ殺害シ○○原○吉妻○す(慶應元年十二月二十五日生)ヲ傷ツケタリ

其事状ヲ尋究スルニ右被告人ハ○○原○吉ガ先妻ノ娘○いノ婿トシテ明治三十三年六月頃(自告)ヨリ○○原方ニ同居シ未ダ入籍ノ手續ヲ了ラザルモノニシテ明治三十七年三月十三日ヨリ○○毛布株式會社ノ職工トナリ居ルモノナルガ明治三十七年八月十二日午後六時勤先キヨリ歸リ其居宅ノ八疊室ニ於テ○吉妻○す○吉先妻娘○い及ビ娘等三人ト夕食ヲナシ居タル時○林○太郎來訪シタルニ○造ハ(○すノ言ニヨレバ)○すニ對シ『○すと○太郎との間に不品行な事があると云ふ噂であるから』トテ『意見ケ間敷事』ヲ云ヒタル故○すハ○造ニ對シ『左様な不都合な事はない』當時また○吉も入監中であるのに御前が先に立つて左様な事を云ひ出されては自分も困るし親分の顔にも關するから其様な事

を疑はずに呉れ』ト云ヒ其時ハ其テ濟ミタルカ其ヨリ○すハ同室ニ於テ頭痛ガスルトテ臥牀シ○太郎ハ其室ノ縁側ニ於テ新聞ヲ讀ミ○造ハ其隣室タル六疊室ニ於テ長火鉢ノ傍ニ寢轉ビ居タリ(○○原○いノ言ニヨレハ○造モ八疊室ニ横臥シテ新聞ヲ讀ミ居タリト云フ)シカニ○造ハ(出刃庖丁ヲ以テ)打掛リシニ○太郎ハ庭ニ轉ケ落チ○造ハ尋イテ庭ニ下リ切り付ケ又急キ椽先ニ立出デ○造ヲ制セシ○すニ對シ『止めてはいけない』ト云ヒナガラ其右乳ノ下及ヒ右ノ(鎖骨上窩部)肩ニ切り付ケタリ○すノ怒鳴聲ニ人々來リテ○造ヲ取押(證人○○原○す調書)○造ハ尋デ直ニ裸體ノ儘我家ヲ飛出シテ○○警察署ニ自首シタリ(證人○○原○い調書)右○林○太郎ハ之ガ爲ニ死亡シ鑑定人○○部○貞ノ記載ニヨレハ頭部(一個)顔部(二個)胸部(一個)背部(一個)左上肢(三個?)右上肢等ニ數個ノ切創ヲ被ムリ就中背部ノ傷ハ第十肋間部脊柱ヲ去ル左四・五仙迷ノ處ニ地平位ニアリ長サ六・五仙迷深サ腹腔ニ達シ胃腎ヲ傷ケ大網膜ヲ破リ之ヲ直接ノ致命傷トス○○原○すハ胸部ニ二個ノ切創ヲ被ムレリ

○○警察署警部○藤○晃ノ陳述ニヨレハ同夜九時頃被告人ハ積鼻樫一ツデ警察部ニ出頭シ『只今○○原○吉方に於テ○林○太郎及妻○いが姦通の現場を認めたるにより殺害して參た』ト自首シ出テタリ同警部ハ直ニ其現場ヲ取調べテ被害者ノ○太郎及被告ノ養母ナルコトヲ云ヒ聞カセタルニ被告人ハ『驚くと思ひましたが』其事を聞きても格別驚いた様子もありませんでした』ト云フ

其後被告本人ハ數回○○地方裁判所豫審廷ニ於テ豫審判事○樂○雄ノ訊向ヲ受ケタルカ彼カ自己ノ兇行ニ對スル追想イ其時ニ相違アリ即チ明治三十七年八月十三日○○裁判所豫審廷ニ於ケル被告本人ノ

調査ニヨレハ彼ハ○樂判事ノ訊問ニ對シ『○太郎は切りましたが○すは切りません』ト答へ自カラ加害當日ノ事狀ヲ述ベテ

『十二日午後六時半頃(○毛布株式会社ヨリ)歸宅シ八疊室ニテ(前記三人)ト食事して後○すは○吉の保釋願を差出すに付○岡及び○木屋を保證人に頼むとて出で行きたり自分は終日の仕事。の。勞。れ。で。八。疊。の。次。の。六。疊。に。て。火。鉢。の。側。に。假。寐。し。暫。く。す。る。と。人。の。唸。聲。が。す。る。の。で。目。を。覺。ま。し。見。ると八疊座敷の床の間の處で自分妻○いと○太郎とが姦通をして居る現場を認めました(頭ハ向ノ椽側ノ方ニ置キ足ハ自分ノ方ニ向キ居タリ其婦人カ妻ナルヲハ自分方ニハ當時女ハ自分ノ妻ノ外ニハ居リマセンテシタカラ一途ニカク思ヒシナリトゾ)自分は非常に腹を立つて兩名とも殺さうと思ひ臺所より出刃庖丁を持出し突然重なつて寐て居ました○太郎の背中から下の○い迄突通しました(○太郎ハ首ヲ擧ケテ後ヲ向キマシタ其時初メテ○太郎ダト云フヲガ分リマシタ而シテ自分ノ衣裳ヲ握ミ突掛ツテ來マシタ自分ハ猶二三回○太郎ニ切ツ付ケ)そこで自分は殺人妻は姦通で他人に合はせる顔かないから死んで仕舞はふと思ひ出刃庖丁で自分の喉咽へ突き立てましたが其中誰か來て出刃を奪りました自分は當署に駆付け自首しました『當時夢中。て。し。た。か。ら。其。他。の。詳。細。の。點。は。能。く。覺。え。て。居。り。ま。せ。ぬ。』

ト云ヒ其時用ヒタリシ出刃庖丁ヲ認知スルモ短刀ヲ見覺エズ、其日夕刻食事ノ際或ハ其後ニ○すニ對シ此女ト○太郎トノ關係ニ付キテ意見セシヲ無シト云ヒ又○太郎ヲ刃傷セシトキ○すが止メシニ同人

ニ對シ切付ケタルヲモ無シト云フ

其後一ヶ月ヲ經テ明治三十七年九月十三日第二回訊問ノトキ○樂判事ニ『本年八月十二日○林○太郎及び○原○す兩名を殺傷した顛末は前回に申立た通りに相違ないか』ト問ハレタルハ

『自分の妻○いが姦通して居るので同人を切つた様な氣が致しますか同人が監獄に面會に來ますから切つたと思つたのは如何云ふ事であつたか分りませぬ、誰を自分か切つたのであるか薩張り分りません』ト云ヘリ

其後明治三十七年十一月四日第三回訊問ノ時ニハ

『前回申上げた私の妻が姦通して居つた現場を認めて切り付けたと申した事は間違ひです實は本年八月十二日夕方食事も済まして長火鉢の傍で寐て居ると床の間に於て呻り聲かしたので目を覺して見たら女が男に組伏せられて居りましたので私は間男と申して傍に立寄ると其男が立上り自分に向ひました、見ると其男は○太郎です依て私は○太郎と組打を致し共に椽側より落ちましたそれから自分は椽側へ上りますと○太郎は私を提へて放しませんから私は○太郎の持つて居る刃物を取つて○太郎を切りました其後の事は薩張り分りませぬ』ト陳述セリ

此ニ明治三十七年九月二十一日○○地方裁判所豫審判事○樂○雄ハ反復審理ノ後余ニ命スルニ右○塚○造ニ付キ精神狀態ヲ鑑定スヘキヲ以テセリ

一、被告人ハ明治三十七年八月十二日犯罪當時精神ニ異狀アリシヤ否ヤ

一、被告人ハ現在精神ニ異狀アリヤ否ヤ

余ハ之ニ固リテ明治三十七年九月二十一日ヨリ同年十二月廿日マテノ間ニ於テ被告人ノ調書、各證人、及ヒ參考人ノ申立ヲ參酌シ被告人ノ精神及ヒ身體狀況ヲ診査シテ鑑定書ヲ作ルコト左ノ如シ

甲、遺傳歴

父(○塚○次)ハ五十五歳ニシテ生存ス二十二年即チ明治十五年頃ヨリ精神病ニ罹リ元ハ亂暴シ或ハ腹ヲ切ルトテ刀ヲ提ケテ歩行セルヲアリ近頃ハ他人ニ面會スルヲ嫌ヒ獨語シ話ノ筋ハ初メハ分ルモ次第ニ分ラナクナルヲ例トシ又カ、ル病中ニモ若キ時ヨリノ飲酒ヲ止メス毎日三合宛ヲ飲ミ飲ンテ醉フキハ或ハ圍爐裏ニ火ヲ焚キ或ハ暴言暴行シ刃物ヲ以テ何處ヘデモ又誰ニテモ斬カ、ルコトアリ、然レモ平素農作其他ノ業務ニ従事スル時ノ如キハ精神ニ異常ナキモノ、如シ

其兄弟ハ四人アリ父ハ長男ニシテ其次ハ死亡シ且經歷不明ナリ又次二人ハ健存シ其一人ハ酒客ナリ母(○〇)ハ四十三歳ノ時産後死亡セリ、其姊妹三人アリ姉一人ハ六十歳ノ頃肺胃ノ病ニテ死亡シ姉一人妹一人健存ス

内祖父ハ酒客ニシテ醉後屢暴行セリ今ハ死亡セリ其兄弟三人アリ次ノ弟(○藤○次)ハ明治二十年頃ヨリ發狂シ其頃ハ桶ヲ被ムリ居タル等異常ノ舉動アリシカ其後病勢消長アリテ三年ニ一度位宛發病シ去年十月頃モ大酒後ニ發作シテ本年四月頃迄ハ症狀殊甚ナリ此ノ如キ發作時或ハ不眠ニシテ大聲ヲ發シ或ハ外出徘徊シ或ハ飲食セス人ト辭ヲ交ヘザルモ然ラサルキニハ農作等業務ニ従事スト云フ其次ノ

弟ハ健存ス

内祖母ハ七十六歳ニシテ生存シ老耄シテ最早小便ノ漏ルノモ分ラス此系統ニ關スル其他ノ事ハ不明ナリ外祖父母ニ關シテハ病歴不明ナリ

被告ノ兄弟ハ四人アリ姉一人(○か)ハ三十三歳ニシテ健存シ酒ヲ飲ミ二子アリ後夫ト離別セリ兄一人(○七郎)ハ健存シ二十六歳ナリ妹一人(○よ)ハ二十二歳弟一人(○藏)ハ十四歳ニシテ健存ス

(右遺傳歴ハ主トシテ○塚○次郎○か兩人ノ陳述ニヨリ○次○次ノ病症ニ關シテハ○林巡查(○六)ノ復命書ヨリ參取ス)

之ニヨリテ是ヲ觀レハ被告本人ノ系統ニハ精神病誘發ノ素因ヲナスヘキ遺傳性アリト云フベク其ハ主トシテ父方ヨリノモノナリ

乙、既往歴

被告本人ハ幼時蟲持ニシテ十歳位ヨリ善ク腹痛ヲ訴フ彼ガ自告ニヨレハ子供ノ時ニ水ニ飛入りテ頭ヲ打チ其ガ爲ニ譫妄奔出ナトシ一年半程臥牀セルヲアリ是レ彼ガ母ヨリ傳聞セル所ナルモ其ノ何處頃ノ時ノ事ナルヤハ記憶セス彼カ姉ノ言ニヨレハ彼ハ腹痛胸痛ニ惱ミシモ頭痛等ヲ訴ヘシコトナキカ如シ徵兵檢査ノ際ニ不健康ノ爲ニ兵役ヲ免除セラレタリ、明治三十五年九月頃○○鐵道會社○○驛ノ機關庫ニ奉職中停止セル機關車ノ上ヨリ墜落シ鐵軌ニテ頭ヲ打チ○○病院ニテ治療ヲ受ケ二ヶ月程經テ全治シ(其當時治療セル○○市○○町○番地醫師○宮○太郎ノ言ニヨレハ當時被告ハ腸骨骨傷及ビ

後頭部右腰部臀部ニ打撲傷ヲ被ムリ當時精神溷濁シ歩行モ不能ナリシカ翌朝ハ意識既ニ清明トナリ精神症狀ナク神經症狀ナク麻痺モ諧語モナカリシト云フ、明治三十七年十月十八日〇〇地方裁判所ニテ同人陳述）又同年十月頃被告ハ其自宅ニ於テ〇谷〇彌ト同〇吉ガ喧嘩セル際仲裁ニ入りテ傍杖ヲ喰ヒ鐵棒ヲ以テ頭ヲ打タレ醫師〇田〇藏ノ治療ヲ受ケ此怪我ノ爲メナルヤ又耳病ニ罹リシコアリ（〇田〇藏ハ此事ヲ記憶セズ其頃ノ處方録ニヨリテ同年十月一日被告ニ下劑ヲ與ヘタルコヲ知ルノミ明治三十七年十月二十一日〇〇〇地方裁判所ニテ同人陳述）其他ニ疾病ニ罹リタルコアルヤ被告自身モ其家族モ之ヲ舉稱セス

又〇〇原〇いノ言ニヨレハ被告ハ時々腦ガ惡イト云ヒ訴フルコアリ冬ナトハ流シニ行キ水ヲ頭ニ被ブリタルコアリト云ヒ被告ガ姊（〇か）兄（〇太郎）ノ供述ニヨレハ被告カ十六七歳ノ時〇かガ被告ニ外出ヲ止メシトキ鐵砲ヲ〇かニ向ケ打チ放チ其銃丸〇かノ五寸許前ニ落チタルコアリ又或時山ニ寢タリトテ茫然トシテ歸リ來リタルコアリ其時頭髪蓬ノ如ク亂レテ木ノ葉ヲ附ケ居タリ又〇本〇次郎ノ言ニヨレハ二三年前六月ノ頃〇川ノ祭禮ノキ被告ハ〇〇原ノ家ニ在リテ騒々敷トテ怒リ臺所ニ至リ刃物ヲ持チシ故彼之ヲ抱キ止メタルコアリ

被告本人ノ性質ハ兄弟ノ言ニヨレハ『あきっぱく沈黙ニシテ一風變リタリト云ヒ〇〇原〇すハ之ヲ偏屈ナリト稱ヘ〇かハ自己ノ記憶ニヨリテ『おとなしく』シテ癡癡ナト起セシコナシト云フ

被告本人ハ酒ヲ好ミ其言ニヨレハ平素五合位ノムト云ヒ〇〇原〇いハ被告ハ多ク飲酒セス飲ムモ醉狂

スルコナシト告グ吹煙モ亦被告本人平素ノ嗜好スル所ナリ

睡眠状態ニ關シテハ兄（〇太郎）ハ被告本人ノ幼時ニ於テハ寢惚ケ又ハ寢言ヲ云フ様ナコナカリシト云ヒ近時ニ就テハ妻〇〇原〇いハ被告本人カ夜寢言ヲ云ヒ時トシテハ夜分飛起キ牀ノ上ニ坐シ暫クシテ又寢ルコアリト陳述シ〇〇原〇すハ之ヲ無シト陳述ス

被告人ノ經歷ヲ尋ヌレバ三歳ノ時母ヲ失ヒ其ヨリ祖母ニ養育セラル其後小學校ニ入り十四五歳迄ハ小學ニ在リ成績ハ不良ノ方ナリシカ之ヲ卒業シテ後中學校（〇〇〇市ノ作新中學校）ニ通ヘルコト一年其後〇〇縣廳ニ奉仕シテ小使トナリ居リシガ其ヨリ〇京ニ出テ〇〇塾ノ三年級迄卒業セリ（本人述）此時頃ヨリシテ被告ハ諸方ニ放浪シテ家ニ居ラス姊〇かノ如キハ被告ガ十七歳ノ頃ヨリ其現在ノ所在ヲ知ラサリシ程ナリ家出セシ後ハ或ハ〇〇縣或ハ〇〇巢ニ其他某々所ニアリシカ常ニ賭博ヲ以テ其業トナシ明治三十三年八月ニハ〇〇區裁判所ニ於テ賭博罪ニヨリ重禁錮七ヶ月罰金五圓ノ處分ヲ受ケタルコトアリ明治三十三年頃ヨリ〇〇原〇吉方ニ來リ同人娘〇いと私通シ後其聲トナリ間モナク其年ノ八九月頃〇〇宮ニ至リ飲食店ヲ開業シ半年許ノ後〇〇鐵道會社ノ〇〇宮機關庫ノ火夫助手トナリ明治三十六年十月頃〇〇製絨會社ニ傭ハレテ絲ノ乾燥ヲナシ明治三十七年三月頃ヨリ〇〇毛布株式會社ニ轉シ傭ハレ製絲及ビ乾燥ヲナシ居タリ

丙、現在症

榮養佳良、體格中等、身長百五十仙迷、體重拾四貫四百目、體溫平常、皮膚狀況尋常ニシテ皮下脂肪

織ハ恰好度ニ發育シ四肢ノ筋肉モヨク發達ス但前膊ノ末端及ヒ手足ハ其割ニ細小ナリ
頭部ヲ檢スルニ

周圍	五十六仙迷	耳前頭圍	三十一仙迷半
耳後頭圍	二十四仙迷	耳顛頂圍	三十三仙迷
耳下顎圍	三十二・九仙迷	前後徑	十九仙迷
左右徑	十四・六仙迷	鼻根後頭	三十四仙迷
耳孔徑	十二・二仙迷	前頭骨額骨突起徑	十仙迷
耳孔鼻棘徑	十一・二仙迷	耳高	十二・四仙迷
橫徑示數	七六・三六		

頭部ニ於テハ左方ノ前顛頂部ニ右方ヨリモ穹窿明カニ顛頂ヨリ後顛頂部ニ掛ケテハ右側ニ於テ左側ヨリモ穹窿著明ナリ然レ此左右ノ相違ハ極僅少ニシテ特ニ之ニ注意スルニアラザレバ之ヲ見出ス能ハザル程ナリ又頭部上部ハ輕度ニ壓平セラル左耳ノ上ニ當リ毛際ヲ去ル五仙迷許ノ毛髮中ニ前上方ヨリ後下方ニ延キテ細キ癩痕アリ長サ二仙迷半許リニシテ何ノ爲ニ生セシモノナルヤ明ナラズ頭蓋ノ前後正中線ニ平行シ右顛頂ニ於テ兩耳孔ヲ聯結セル線ヲ前端トシテ其ヨリ後ニ延キテ同様細キ癩痕アリ長サ四仙迷ナリ明治三十七年十月鐵棒ニテ打タレシトキノ癩痕ナリ
頭部ハ短大ニシテ甲狀腺腫ヲ認メズ前頭部喉頭結節ノ下甲狀腺部ニ於テ主トシテ中線ヨリ左方ニ占位

シテ割合ニ猶新鮮ナル皮膚ノ癩痕アリ文人畫ノ點禽ノ形ヲナシ其左翼ハ分明ニシテ且長ク右翼ハ短クシテ色薄シ(被告ノ言ニヨレハ本年八月十二日兇行後自カラ傷ケシ跡ナリ)

背部及ヒ脊柱ハ尋常ナリ

右上膊外側ニ於テ上下ノ凡中央ニ當リ長三仙迷幅ニ仙迷ニシテ帶紅褐色ノ楕圓形ノけろいとアリ(被告ノ言ニヨレハ本年三月頃腫瘍ヲ生シタル跡ナリ)右前膊ニ於テ手腕關節ノ上方へ二仙迷隔タリテ此關節端ニ並行シ屈側ノ中線ヨリ橈骨ヲ繞リ伸側ノ中線ニ達スル一仙迷幅ノ癩痕アリ(被告ノ言ニヨレハ昨年十一月頃會社ニテ絲ヲ乾カス際ニ火傷ヲセル跡ナリ)

左前膊ノ伸側ニ於テ長徑ノ中程ニ長徑ト略直角ニ三條ノ微褐ナル色素ノ堆集ヲ皮膚ニ見ル又左肩胛關節ノ外側ニ後上方ヨリ前下方ニ向ヒタル同様ノ褐色條紋アリ皆長サ五仙迷許幅半仙迷許ナリ

又右膝關節ノ内側ニ於テ脛骨頭上ニ當リ後上方ヨリ前下方ニ向ヒ甲ヨリ乙ニ向ヒ幅廣クナリ楔狀形ヲナス癩痕アリ楔ノ長徑三仙迷基底ノ長サ一仙迷弱ニシテ基底ノ部ニ近ク隆起セルけろいとヲナス〇〇宮機關庫ニ居リシトキ熱鉛ノハセテ生セシナリト

顔面ハ輕度ニ潮紅シ感情ノ發表殆ントナシ眼濕ヒ眼球結膜輕度ニ充血ス瞳孔尋常大左右均、光線反應アリ舌上苔ナク震戰斜歪ヲ認メズ口蓋又尋常ナリ耳内ニ異常ヲ認メズ聽力視力モ共ニ尋常ナリ

胸部ヲ檢スルニ視、觸、聽、打、諸診上ニ異常ヲ認メズ唯心機ノ稍亢進セルヲ認ム(脈搏。八十至強大)心肺肝諸臟ノ位置等全ク尋常ナリ腹部諸臟器モ亦同シ胸前及胸壁ニ於テ分明ニ皮膚畫斑症ヲ認ム

而モ摩麻疹狀腫起ヲナサズ

上膊諸反射尋常膝蓋腿反射ハ甚シク亢進ス足現象アリババンスキー氏症狀アリ腹反射率九反射分明ナリ

感覺作用運動作用ハ一般ニ尋常ニシテ但手指ニ粗大ナル輕度ノ震戦ヲ認ムルノミ歩行言語尋常ナリ筋肉ハ何クニ於テモ壓痛ヲ呈セズ

被告本人ハ舉作尋常ニシテ毫モ異常ヲ認メス幻覺妄想ノ痕跡ダモナク思考判斷注意等ニ關シテモ異常ヲ認メズ記憶力指南力ハ不定ナリ彼ハ自己ノ經歷ニ就テモ平生ノ爲スコニ付テモ又月日等ニ關シテモ一モ明確ナル應答ヲナスヲ欲セサルモノ、如シ智力モ亦特ニ減退スルコトヲ認メズ地理學上歴史上ノ知識ハ割合ニ之ヲ保存シ算數ハ加減乗ヲ略之ヲ能クス被告本人ニ對シ犯罪ニ關スルコトドモヲ問ヒ試ミルニ彼ハ何故ニ入監セシヤニ就キ毫モ之ヲ告グルコト能ハズ『何事をか爲したるに由らざるや』ト再三反覆シ問フモ『よく覺えて居ません』ト『どーもよく分らん』ト云ヒ色々ト質問スルニ茫然トシテ『どーしてだか夢でも見たよーである』ト云ヒ夢トシテナラバ如何ナル夢ノ内容ナルカヲ尋ヌレバ『それがよく覺えて居らない』又『此間裁判所へ行つたときどーしてこーゆー所へ來て居るのか分らない』ト云つて聞たら御前は前申したことを知らないかと云ふからそれはどーもよく分らんと答へました』ト云ヒ兇行當日ノコトニ付キ更ニ覺エナシト云フ理由ナキヲ言ヒ聞カスルニ數度度訊問シタル後『月日は分らぬが何でも晩方工場から歸つて飯を食ひ六疊の座敷で假寝したまでは知てるか人か何んでも唸り聲でもつて助

けて呉れいと云ふのを覺えてるんで其跡はよく分らない』ト云ヒ或時ハ毫モ知ラスト云ヒ或時ハ之ヲ多少記憶セル如クニ對答ス彼カ無意識狀態ノ持續ハ此ノ如クニシテ假寝ニ就キシ時ニ初マリシガ其終ニ就キテ之ヲ質スニ『病監に來るまでは更に知りません病監で氣が付た寢て居る所に多勢巡查が來て御前は人を傷めたから行くんたと云ひたるが其も徹で夢の様です』本人ノ記憶ニヨレハ病監ヨリ監房ニ行キシハ知り又裁判所へ二度出テタルヲ知り而モ其時日ヲ更ニ知ラス兇行ノ月日ヲ知ラス從ツテ其何日前ナルカヲ知ラス何故ニ入監セシカヲ知ラス自カラ問ニ應シテ何人カラモ之ヲ聞カス之ヲ知ル由更ニナキ等ヲ語ル何事ヲモ知ラス詳ニセズト答へ自己ノ經歷(住所又ハ業務ヲト)酒量ニ關シテサへ躊躇シテ半ハ知ラサルヲ如ク曖昧ノ返事ヲナス

此間診ノ際入室ノキヨリ被告ハ戰慄シ恐懼スルモノ、如ク所謂齒ノ根モ合ハヌ狀況ニアリ顔貌蒼白ニシテ手及ビ指モ下肢モ粗大ニ震戦シ言語モ震ヘテ構音ニ障礙ヲ呈ス

○○監獄ノ醫員ノ言ニヨレハ被告人カ監房ニ於テ言語舉動正ニ尋常ニシテ毫末ノ異常ヲモ認メズ意識ハ固ヨリ清明ニシテ指南力十分ニアリ敏捷ニ活潑ニシテ少シモ言行ノ礙滯ヲ見ズ鑑定人診查ノ時トハ狀況全ク變シ宛然別人ノ如クナリ

丁、說 明

被告人カ兇行ハ知覺精神ノ喪失ニヨリタルモノナリヤ否ヤ是レ余カ此ニ説明セント欲スル所ナルガ所謂知覺精神ノ喪失狀態ナルモノハ或ハ精神病ニヨルカ又ハ其他ノ精神障礙ニヨルモノナラザルベカラ

ス余ハ鑑定人トシテノ見地ヨリシテ左ノ諸件ヲ解説スベキモノト信ズ

第一問 被告人ハ兇行當時精神病ニ罹リ居リタルヤ

第二問 或ハ他ノ精神障礙ノ状態ニアリシヤ

第三問 伴狂ナリヤ

第四問 或ハ其當時被告人ノ精神ハ尋常ナリシヤ

第五問 被告人ハ現在精神ニ異常アリヤ否ヤ

第一問ニ對シテハ余ハ之ヲ非認ス、被告人ハ精神病の遺傳アル血統ノ家ニ生レ幼時ヨリ頭痛ニ惱ミ本人ノ訴フル所ニヨレバ幼時ノ頭傷後ニ謔妄又ハ外奔症ヲ患ヒ又本人及證人ノ言ニヨレバ近年ニ至リテ同ク頭傷ノ爲ニ一時無意識状態ニ陥キリタルモ全ク一時性ニシテ其翌日以後ニ於テ些少ノ神經的及ビ精神的症狀ヲモ殘サズ又其後モ頭部ニ打撲ヲ被ムリタルヲアリテ猶ホ癩痕ヲ髮中ニ留ムルモ亦著キ病患ヲ殘サズ但其後時々(？)上衝ノ氣味アリ或ハ「腦か悪い」ト稱シ又之カ爲ニ時々流シニテ頭ヲ灌水スルコトハ本人并ニ其妻ノ陳述スル所ニシテ且諸證人ハ本人ヲ稱シテ沈黙ノ性質ニシテ逼屈ナリト云ヒ其兄及ビ姉ノ言ニヨレハ嘗テ本人カ些細ナル事柄ヲ爲ニ姉ニ對シ發砲シタルヲアリ又或時ハ山ニ臥シテ後茫然歸來セシヲアリト云フト雖モ其事跡ハ分明ヲ缺キ又其友人ハ〇川祭禮ノ際ニ其騒々敷ヲ怒リテ出刃ヲ持出シ暴行ニ及バンズ勢アリシヲ等ヲ訴フルモ是ハ深ク信スルニ足ラス要スルニ是等ノ諸點ヲ綜合スレハ本人ニ遺傳的素質アリ又本人ガ平素神經質ニシテ甚タ刺激性ナルヲ標示スルノミニシテ精

神病ノ徵候ト認知スベキモノハ一モ之アルコトナク又兇行當日又ハ其以前ニ於テ是等ノ症候ガ特ニ著ク發表シタル様ノコトモナシ但現症ニ於テ本人ノ運動性及ビ血管運動性反射機能ノ著甚ナル亢盛ヲ認ムルヨリ考フレバ彼ガ較明ナル精神病性體質ヲ有スルハ明ラカナリ

第二問ニ對シテモ亦之ヲ否認セサルヲ得ズ 被告人ニシテ余カ第一問ニ答ヘタル如ク精神病者ニアラストセバ即之ヲ除キタル他ノ精神障礙ニシテ本件ノ如キ犯罪ヲ惹起スルモノアリヤト云フニ是問題ハ之ヲ然リト答ヘサルヲ得ズ而シテ此ノ如キ精神状態ハ何ナリヤト云フニソハ此場合ニ於テ所謂睡眠後酩酊状態ノ他ニアルベカラズ

抑吾人ガ睡眠後目覺ムル其狀況ニハ色々相異アルモノニシテ或ハ瞬間ニ醒覺スルモアリ或ハ早ク忽ニ醒ムル人モ長クカ、リテ漸ク醒ムル人モアリ是各人ノ性質習慣又ハ其時ノ身體狀況疲勞飲酒等ニヨルモノナリ而シテ此睡眠ヨリ醒ムル間ノ時ニ於テ眠ムルモ醒ムルモ着カヌ状態アリ其様醉ヘルニ似タルハ之ヲ専門學上ニ睡眠後ノ酩酊状態ト云ヒ此ノ如キ状態ニ於テハ外圍ヨリ刺戟ニテモ來リ加ハルルハ之ヲ覺知スルコト曖昧ナルモ猶幾分ノ思想ヲ心ノ内ニ起ス(夢想)ハ眠レル時ト同シナルモ眠レルトハ異ナリテ直ニ之ニ應シテ何カノ行動ヲナスモノナリ即チ其思想ノ濫妄ナルキニハ其行動モ亦從ツテ無謀ナルモノナリ故ニ此状態ニアル人ハ往々ニシテ之カ爲ニ犯罪行爲ヲ引致サル、コアルモノナリ而シテ此状態ニ於テハ其人ハ猶夢中ニ於ケル如ク明ナル我ナク指南ニ乏シク意思ノ自由ヲ缺クカ故ニ此状態ハ之ヲ知覺精神ノ喪失ト認ムヘキナリ

今此被告本人ハ食後一室ニ假寐シ居ル際傍人ノ唸リ聲ヲ聞キテ首ヲ擧ゲタルニ○林○太郎ガ自己ノ妻ト姦淫シ居ルヲ見怒ツテ之ヲ刺シ遂ニ之ヲ殺シタルニテ其前後ノ關係ハ即チ吾人ヲシテ被告ハ所謂睡眠後酩酊状態ニアリテ此兇行ヲ遂ケタルニハアラズヤノ懸念ヲ生セシム

抑睡眠後酩酊状態ハ一般ニ深キ眠ノ恐怖性ナル夢像ノ爲ニ卒然中止セラレ恐怖苦悶ノ中ニ醒覺シ同時ニ外來刺戟ノ知覺ニ不明又ハ謬錯ノ廉アリテ被襲撃ノ觀念之ニ對スル正當防衛ノ觀念卒爾トシテ激起スレハ其瞬間ニ眼前ノ人ヲ見半バ眠ル眠ニ之ヲ夢中ノ恐怖像ト認メ之ヲ擊殺スル等ノコアルモノナリ今一々被告本人ノ爲シタル兇行當時ニ於ケル事態ヲ審カニ批評シテ果シテ此状態ニ適合スルヤ如何ヲ考究セシム

第一 睡眠後酩酊状態ハ一般ニ眠ノ深カリシ後ニ起ルモノナルガ此睡眠ノ深キヲ致スモノハ睡眠前ノ不安、感動、身體、精神ノ過勞、飲酒又ハ睡眠ノ不足等ノ後ニ之アリ被告本人ハ兇行當日ニ於テ特ニ平生ニ超過セル程ノ精神又ハ身體ノ過勞ヲ經タルニアラズ又特ニ平生ヨリモ多量ノ飲酒ヲナセルニアラズ又左迄ノ感動アリシニモアラズ○林○太郎又○原○すト多少ノ意見ヲタガヘタルコトモ本人ハ之ヲ認メズ○すノ之ニ關スル陳述モ一定セザル程ナリ而シテ其睡眠ナルモノモ食後新聞紙ヲ讀ミツ、平生ノ如クニ假寐セシナレハ必スシモ深熟ノ睡眠ニテハアラサリシナルベシ故ニ此點ニ於テハ被告ガ兇行當時ノ精神状態ハ深睡眠後酩酊状態タルニ適セズ

第二 睡眠後酩酊状態ハ深睡眠後久カラズ又十分ナラズシテ起サル、并又ハ夢ノ爲又ハ外來事狀(喚

ヒ起ス等)ニヨリ卒然トシテ醒ムル并ニ來ルモノナリ被告本人ノ言ニヨレバ假寐ノ後呻吟ノ聲ヲ聞クト共ニ醒覺スル瞬間ニ於テ被殺害者ト自己ノ妻ト現ニ姦淫セルヲ目撃シタルナリ之ヲ事實ナリトスレバ被告本人ハ此時假寐中ヨリ卒然ト喚起サレタルモノニテ是所謂呻吟ノ聲ナルモノハ何か他ニ音聲アリテ之ヲ聽誤リタルモノナリヤ又ハ睡ノ醒メントスル并ナトニハ屢幻覺殊ニ幻聽ノアルモノナレバ(之ヲ將睡幻覺ト云フ)或ハ是等ニテアリシカ要スルニ之カ爲ニ醒覺シタルト同時ニ事實ニ適セサル事柄ヲ目撃(此ノ如キヲ錯視ト云フ)シテ忽ニ兇行ニ及ヒタルモノナリ然レモ余カ差當リ取調ベタル先例ニヨル并ハ睡眠後酩酊状態ニ於テハ多クハ恐怖スヘキ夢ニ魔ハレテ醒覺シ其時外界ノ錯認等ニヨリテ夢中ニ見ルコト一致スベキ襲撃アリトシテ之ヲ防禦セントスルカ爲ニ傍人ヲ殺傷スルモノナリ故ニ其本人ハ一般ニ其夢中ニ見シコトヲ追想シ得ベク又其兇行等ヲ夢中ノ如クニ大凡知リ居リ從ツテ又其追想スルコトハ夢中ノ事柄ニハ符合スルモ外界ノ實情ニハ副ハサルヲ常トスルナリ、今此被告本人ハ自カラ夢魔ノ爲メニ襲ハレタルコトヲ記憶セズ又傍人モ此ノ如キコトアル模様ヲ認メズ呻吟ノ聲ヲ聞キテ驚キ醒メタリト云フヲ記憶スルモ其時見タル姦淫者ハ實際ニテモ○林○太郎ニシテ被告本人ガ見タル所ニテモ亦○林○太郎ナリトス是レ普通ノ狀況トハ大ニ相異アリト云ハザルヲ得ス

第三 睡眠後酩酊状態ハ前項ノ如キ状態ナルガ故ニ其本人ハ其爲シタルコトヲ朦朧ト記憶スルニ止マリテ後日ヨリ明カニ之ヲ想ヒ起スコト能ハザルモノナリ然ルニ被告本人ハ翌日ノ訊問當時ニ於テ其當時『夢中』ナリシ故詳細ヲ記憶セズト云フモ前件出刃庖丁ヲ取出シタルコト自分ガ妻ト認定シタル理由○太

郎ノ位置ガ如何ナリシヲ彼ガ背ヨリ突通セシヲ○太郎ガ刺サレシ時首ヲ舉ケテ後ヲ向キシヲ自分ノ裳ヲ握ミ突掛ツテ來タコト其ヨリ自身猶二三回切付ケタリシヲナドハ自分ハ人ヲ殺シ妻ハ姦通ヲナシ他人ニ合セル顔ガナイカラ死シテ仕舞ハント思ヒタルヲ自分テ自分ノ喉ヲ突立テタルヲ遂ニ警察ニ自首シタル事ヲモ詳細ニ述ベ立テタリ(但短刀ハ見覺エズ又○原○チガ兇行ヲ止メントシタルヲ之レカ爲ニ更ニ○チニ切付ケタルコトヲ追想シ得ズト稱ス)第二回訊問ノ時及(九月十三日)第三回訊問ノ時(十一月四日)ニハ其應答ハ第一回ト齟齬スト雖モ第三回訊問ノ時ニハ自己ノ無意識状態トナリシヲ○太郎ト共ニ橡側ヨリ落チテ後ノヲナリトシ其前ノヲハ慥ニ記憶セルガ如クニ陳述ス是亦甚睡眼後酩酊状態ニ於ケル追想力ノ狀況ト相異セリ

第四 睡眼後酩酊状態ニ於テハ其舉動ハ不意識的偶然的ニシテ思慮ヨリ生セズ爲ニ無謀ニシテ無意義ナルヲ常例トシ又其行爲ニ誘因及根由更ニナキヲ其行爲ノ平生ノ思案舉作ト一致セヌト他ノ理由ヲ發見スベカラサルヲ要件トスルモノナリ今此場合ニ於テ被告本人ハ被害者ヲ認メテ「善くない人物で無暗に立腹し喧嘩が好きで酒の上かわるい」トナスハ鑑定人ニ對セシ同人ノ陳述ニヨルモ明ラカニシテ又被害者カ素行ノ修ラサルコトハ彼カ數年前ニ○原○吉ノ妻○野○たト姦通シテ後遂ニ明治三十一年九月中○吉ノ承諾ヲ得テ之ト結婚スルヲ得タルニテ明ラカナリ又○原○チカ證言ニヨレバ被告本人ハ兇行ノ當日ノ晩食ノ時ニ○チニ對シテ被害者トノ色情的關係ニ就キテ諫メタルヲアリト云ヒ(被告人ハ此ノ如キヲハ無シト云フ)又加之被告人カ監獄ニ入りシ當日○内醫員ニ語リタル所ニヨレハ

痴情ノ行掛リ上敵手ヲ傷ケタリト稱シ其痴情ニ關シテハ○太郎ト○チノ關係ヲ知り居リテ屢之ヲ諫メタルヲ語レリト云ヒ又○原○いノ陳述ニヨレバ被告ハ○太郎ト○チノ關係ニ付キ○いニ向ヒ○イト○太郎ト「おかしくはないかと」ト云ヒ話シタルヲアルモ○いハ戲言ト思ヒ且之ヲ打消シタルヲアリト云ヒ(○原○い調書)又平生ヨリ此二人ノ關係ヲ疑ヒ居タルヲハ本人ヨリ○山監獄醫ニモ語りタリ之ヲ要スルニ或ハ養母トノ關係ニ就キ或ハ妻トノ關係ニ就キテ○太郎ヲ疑フノ心被告本人ニ之アルヤノ形跡ヲ示スガ故ニ旁以テ被告本人ノ殺傷行爲ハ徹頭徹尾無妄ナリ無意義ナリト云フヲ得ズ即チ其行爲ニハ誘因ナク根由ナク平生ノ思慮舉作ト一致スル點ナシト云ヒ難ク約言スレバ即チ吾人ハ其舉作ヲバ不意識的偶然的ニシテ他ニ理由ノ更ニナキモノト認定スルニ踴躍セサルヲ得ズ

第五 睡眼後酩酊状態ニ於テハ其舉動ハ卒然トシテ激起スルヲ常トス從ツテ其舉作ニ關シテハ準備又ハ省慮ナキモノナルベシ、然ルニ被告人ハ第一ニ姦夫カ被害者ナルヲ彼カ首ヲ舉ゲテ此方ヲ見シニ認知シ第二ニ姦婦カ自己ノ妻ナルヲ家内ニ他婦ノ居ラザルヲ考察シテヨリ論理的ニ推知シ又其使用スル兇器ノ如キモ睡眼後酩酊者ガ通常ナスカ如ク其旁ナルモノハ手當リ次第ニ使用セスシテ被告人ハ其自己ノ陳述ニヨレバ臺所ニ至リ之ヲ取り出シ來リテ被害者ニ斬付ケタリト云ヘバ(證人○原○チ)ノ陳述ニヨレバ其兇器ハ平生ヨリ八疊間ノ隅ナル用箆筒ノ中ニアリタリト云ヒ)被告本人ハ唸聲ヲ聽キ目ヲ覺マシ被害者ヲ見之ヲ認知シテ後臺所ニ至リ又ハ戸棚マテ行キテ兇器ヲ持出シ來リ然シテ後ニ被害者ニ切付ケタルモノニシテ從ツテ其舉作ハ急卒タル性質ヲ十分ニ具備セザルモノトス

第六 睡眠後酩酊状態ハ一定ノ持續アリ一定ノ時期(大抵ハ瞬間時)ヲ劃シテ醒覺シ其醒覺スルハ尋常ノ醒覺ト同シキモノナリ然ルニ被告本人ハ假睡後陰聲ニテ厥起シ姦通ヲ發見シ刃物ヲ投シテ之ヲ切り付ケ止ムル人ヲ又切り付ケ尋テ又警察署ニ至リテ自首シ翌日ニ至リ〇〇地方裁判所ニ於テ訊問ヲ受ケタルモ其前後ニ於テ一度モ明ラカニ夢ノ醒メタルカ如クニ自己ノ所行ニ就テ判斷ノ明瞭トナリタルヲナシ

第七 抑睡眠後酩酊状態ニ在リテハ其状態ヨリ卒然醒覺スルハ之ニ尋イテ直ニ著明ナル驚愕ト悔恨ヲ生スルモノナリ是レ醒覺スレバ神智明瞭トナリ自己ノ謀ラザリシ恐ルベク驚クベキ事件ノ目前ニ横ハルニヨルナリ吾人ガ朝來目醒メタルハ何事カ意外ノ事ヲ自カラ爲シ居タリト假定セヨ吾人ノ驚愕ハ非常ニテアルヘシ睡眠後酩酊状態ノ終ルトキハ朝醒ノトキト全く同一状態ナルモノナリ、今此被告本人ニ在リテハ其睡眠後酩酊状態ガ劃然分明ナル終結ヲ告ケザルト共ニ兇行後四ヶ月有餘ノ今日ニ至ル迄更ニ自己ノ兇行ニ對シテノ明瞭ナル判斷ナク之カ爲ニ驚駭セシコトモ悲嘆セシコトモナク之ヲ談スルモ憂哀ノ様子ナク又自カラ進シテ之ヲ問ヒ質サントモセス唯纒ニ自己ノ入監ニ關シ『あゝでもない』ト云へでもない』助けて呉れいと云ふ聲が聞へたか變だ』誰か暴れて來た時にどゝかしたか知らん』ト云へルノミ彼ハ殆ト全く之ニ關係ナキ人ニモアルベカラサル程不簡的態度ヲ持シタリ是レ精神病者若クハ精神病ヲ伴作スルモノニアラザレバ有リ得ベカラザルノ態度ナリト信ズ

第八 睡眠後酩酊状態ヲ診斷スルニ關シテ必要ナル參考材料トナルハ其人ノ平生ノ睡眠状態(即チ深

ク眠リ容易ニ呼起サルコト)ニシテ睡眠後酩酊状態ニ於テ兇行ヲ爲シタルモノアルトキハ其者ノ覺眠状態ガ平生ヨリシテ兇行ヲナシタルトキノ状態ト多少類似セルモノナルヤ如何ヲ講究セサルベカラズ今此被告本人ノ平生ノ睡眠状態ニ關シテ各證人ノ陳述ヲ求ムルニ其十六七歳以前ヲ知レル弟兄ハ毫モ其異常ヲ認メス〇〇原〇いハ近時ニ就キテ被告ガ睡眠中寢言ヲ云ヒ或ハ卒然床上ニ起坐スルコトアリト稱スルモ此ノ如キ状態ハ左マテ異常ト認ムベキ程ノモノニアラズシテ勿論睡眠後酩酊状態トハ匹類スベクモアラズ〇〇原〇すハ此ノ如キコトサヘ無シト證言スレバ彼ハ被告人等ト寢室ヲ同クセズト云ヘバ確實ノ言トハ云ヒ難シ又一方ヨリ考フレバ被告人ノ舉作ヲ以テ平生ヨリアル異常ノ睡眠状態ノ爲ニ生シタルモノナリトスレバ少ナクトモ本人ト夫妻ノ關係アル〇〇原〇いノ如キハ余ノ尋問ヲ待タズシテ已ニ早ク自ラ之ヲ知リテ法廷等ニ於テ陳述セサルベカラサルノ理ナリ猶被告人ハ飲酒後ニ於テモ酒醜状態ニ陥イルコトナシ

第九 睡眠後酩酊状態ハ屢々遺傳スル徵候タルモノニシテ此徵候アルモノ、家族ニハ同様ノ状態ニアル人々アルヲ認ムルコト多シ然ルニ此被告本人ノ家系ニ於テハ一人モ類似ノ睡眠状態ヲ有スルモノアルヲ發見セズ

以上逐次論斷スル所ニヨリテ被告本人ガ明治三十七年八月十二日ノ犯罪事件ハ睡眠後酩酊状態中ニ於テ遂行セラレタルモノト認ムルコトヲ得ズ是レ即チ余ガ第二問ニ對シテ之ヲ否認スル所以ナリ
第三問ニ對スル答案ハ如何ニスベキヤ、容易ニ之ヲ決シ得ス余ハ第一問及ヒ第二問ヲバ已ニ否決シタ

レバ被告人ハ犯罪當時精神病ニ罹リ居タルモノナラズ又爾他ノ精神健全ナルモノニ見ル睡眠後酩酊状態ニアリシモノニアラサルヲ知リ得タリ然ラハ即チ之レニ次キテハ被告人ハ詐狂者ニアラスヤトハ自然繼起スヘキ問題ナリトス彼ガ目下ノ状態ニヨリテ考フルニ彼ガ兇行後裁判所監獄ニ於ケル諸發問ニ對シテ呈供スル兇行當時ノ追想程度及ビ狀況ハ前後一致セズ又時期ニ關係ナク或時ハ精密ニナリ或時ハ粗略トナリテ精神病又ハ其類似状態ノ徵候タルニ適セス或ハ殊更ニとぼける如キ答ヲナスヲアリ或ハ知ルヲ知ラヌヲ共ニ混シテ知ラザルヲ裝フカ如クナルヲモアリ第二回尋問ニ對スル應對ノ如キハ實ニ吾人ヲシテ被告人ニ故意アリテ如此言ヲ發セシムルニアラサルヤヲ疑ハシムルナリ彼カ又鑑定人ニ對シテ萬事ヲバ悉クヨク知ラザル如ク想ヒ出サハルカ如ク應對シ意識分明ニシテ指南力ハ明ラカナルニモ關ラズ(彼監獄ヨリ手紙ヲ差出スル其與書ノ月日等ハ全ク正確ナリ)月日ヲ辨ヘサルカ如ク或ハ兇行ノ時日ヲ知ラサル如ク或ハ數ヶ月ノ後迄自己カ何故ニ入監セルヤヲ辨ヘザル如ク(之ヲ問ヒテ自ラ疑惑ヲ霽サントモセズ)自己ガ經歷業務等ニ就キテモ亦極メテ曖昧ナル返答ヲナシ甚キハ自己カ平生常用スル酒ノ量サヘ明ラカニ告グルヲ得サルノ體ヲ辨フヲサヘ實驗シタリ〇〇監獄醫務所ノ病牀日誌ニヨレハ

既往症 父及祖母ハ健存、母ハ患者十三歳ノキ出產ニ因リ頓死シ祖父ハ昨年八十有餘歳ノ高齡ヲ以テ逝ケリ同胞四人皆健存ス患者幼時種痘麻疹ヲ經過シ天資強健ニノ記スヘキ疾病ニ罹リシヲナシ、昨八月二日初夜癡情ノ行掛リ上敵手ヲ傷ケ次テ兇器ヲ喉頭ニ擬シ自殺セントシテ果サハリシト云フ

現症 體格營養豐良前頸部喉頭結節ノ下ニ於テ正中線ニ沿ヒ横ニ約二「セメ」許ノ裂創左下肢ノ上半部ニ於テ二三ヶ所ノ擦過傷ヲ認ム嚙下時頭痛ヲ訴フト云ス、其他自他覺的異常ヲ認メズ脈六十五至體溫常今日「ミルク」粥食ヲ與ヘタリ

此記載ハ〇内醫員ガ被告人入監ノ當日被告人ヨリ直接聽取リテ作りタルモノニシテ此時護送者及被告人ト共ニ被告人カ前頸部ノ負傷ヲ著大ナルモノト信シ殊ニ被告人ノ如キハ之カ爲ニ殆ント精神的震盪ヲ起シテ下肢ノ運動ノ確ナルヲ缺キ人ニすがリテ病監ニ至リタル程ナルガ此際ニ於テサヘ猶此ノ割ニ正確ナル陳述ヲナスヲ得タルナリ然ルニ其ヨリ月日ヲ經過シタル今日ニ於テ特ニ精神異常ヲ認メサルニモ關ハラズ自己ガ既往ニ關スル陳述ヲ曖昧模糊ニスルカ如キハ全ク本人ガ詐リ粧フニ過キヌシテ全ク詐狂的症狀ナリト云ハサルヲ得ズ是レヨリ推考スレバ被告人カ〇〇地方裁判所豫審廷ニ於ケル三回ノ陳述ノ模様モ已ニ疑シク又〇〇監獄ノ監獄醫ガ亦余ニ對シテ被告人ガ監房ニ在ルキト余ノ前ニ出テ診察ヲ受クルキト其應答言語全ク別人ノ如クナリト陳述ス余ハ故ニ第三問ハ之ヲ是認スルヲ以テ妥當ナリト信ズ

之ニ關シテハ被告人ノ素性モ亦已ニ本人ニ不幸ナル論斷ヲ與フルノ助ケトナラサルヲ得ズ彼ハ明治卅年ノ頃ヨリ生家ヲ離レテ〇京、〇城、〇玉邊ヲ徘徊シ〇〇〇塾ニ出入シ居タルヲアルモ其間多クハ賭博ヲ以テ稼業ノ如クニナシ明治三十三年ニハ賭博犯ニヨリテ刑ヲ受ケタルヲモアリ其ヨリ後モ同様ノ非行ヲナシツ、終ニ〇〇原〇吉方ニ寓居シ其娘ト私通シ後之ト結婚セルヨリ〇〇宮〇京等ニテ職工

トシテ其業ヲ得ルニ至リタレモ此ノ〇〇原〇吉ナルモノハ人夫請負ヲ表向ノ稼業トスルモ〇川邊ニ乾
 兒ノ貳十人モ有スル博徒ノ親分ニシテ本年二月中ヨリ恐喝取財致唆ノ廉ヲ以テ〇〇監獄ニアリテ本年
 十月中其判決確定シ重禁錮六ヶ月監視六ヶ月罰金八圓ニ處分セラレ彼ガ妻タル〇〇原〇吉モ實否明ラ
 カナラサルモ〇太郎トノ關係疑ハシク被告ノ犯罪後之カ爲ニ離縁復籍シ被告ノ妻分タル〇〇原〇吉ハ
 嘗テ娼妓タリシ經歷アルモノナリ又〇吉ノ先妻〇野〇花ハ被告ノ乾兒タル本件ノ被害者ト姦通シタル
 爲ニ改メテ〇太郎ノ妻トナリタルモノナリ此ノ如キ家庭此ノ如キ職業ヲナスモノ、家族トナリテ同居
 スル被告人ノ性狀言行モ亦略之ヲ推察スルニ難カラズ
 然レモ是レ目下ノ狀態ニ關スル觀察ノミ既往ニ溯リ(兇行當時ヲモ含ム)之ヲ全然伴作ナリヤ虛構ナリ
 ヤト云フハ自ラ又別問題タラサルヲ得ズ

第四問ハ此ニ於テカ殆ト全ク不必要ナルカ如キ觀アリト雖モ亦必スシモ然ラズ被告本人ハ父及祖
 父母ノ精神病ニヨリテ遺傳的素因ヲ負フル所アリ幼時ニ譫妄性ノ疾病ニカ、リ其後モ性質溫順ナルニ
 關ハラス尋常以上ノ疎暴ナル舉動ニ出テタルコトアリ又現在症ニヨルモ彼カ神經狀態ハ甚ク過敏ニ刺戟
 性ナルハ皮膚紋畫症膝蓋反射ノ亢盛、足現象及ヒババンスキー氏現象ナド稱スル徵候等ノ證明スヘ
 キモノニヨリテ明ラカナリ此諸症狀ノ中ニテモ前二者ハ前ニ過大ノ價值ヲ置クヘキモノニアラスト雖
 モ後二者ニ關シテハ吾人ハ其本人カ重症ノ神經性病患ニ惱ミツ、アルモノト推定セサルヲ得ス此點ヲ
 根據トシテ考フレハ被告本人ノ神經系統ハ全體ニ幾干ノ異常ヲ具有スルモノニシテ從ツテ又其精神ニ

モ完全尋常狀態ヲ逸シタルモノニアラサルコトヲ保證スルコト難シトス是ニ於テカ余ハ被告本人ノ精神狀
 態ノ鑑定ニ關スル問題ハ彼自身ノ伴作症狀ダニ無カリセバ猶ホヨク明白ニ解決スベクシテ或ハ却ツテ
 被告本人ノ爲ニ猶ホ多ク彼ヲ庇護スルニ足ルベキ論斷ヲ得タルヤモ知ルベカラス被告本人ヲシテ少シモ
 隱匿ナク實情ヲ吐露セシメナバ第二問ニ對スル論斷モ必スシモ前段ノ如キ結果トナラサリシヤモ未タ
 知ルヘカラス被告本人カ〇〇警察署ニ自首セシ當時ノ狀況ノ如キハ吾人ヲシテ此ノ如キ推想ヲ起サシメ
 ントスルニ近キモノナリ之ヲ要スルニ余ハ本件ニ關シテ伴狂症狀ヲ透看シテ其背後ニ潛藏セル睡眠後
 酩酊狀態其他ノ精神異常ヲ暴露シ且解釋スルヲ得サルヲ遺憾トシ且此ノ如キ精神異常ハ全ク無シトハ
 斷言シ得サルコトヲ附言セントス即チ余カ第四問ニ對スル答案ハ「此被告本人ハ其兇行當時全然精神尋
 常狀態ニアリト一モノモナク斷言スルコトハ困難ナリ」ト云フニ歸著ス

第五問ニ對シテハ余ハ第一問ニ對スルト同一ニ之ヲ否認シ即チ被告本人ハ現在精神ニ異狀ヲ呈セスト
 論斷セントス

以上五問ニ對スル答案ヲ一括スレハ「即チ被告本人ハ兇行ノ當時一定種ノ精神病又ハ之レニ類似ノ狀
 態(例ヘハ睡眠後酩酊狀態)ニアリタルモノニアラスシテ却テ數多ノ伴狂ナリト認ムヘキ疑點アリト雖
 モ之ヲ以テ其時其精神全ク尋常ナラザルベカラスト確定スルコトモ亦難シ而シテ目下ハ其精神狀態ニ異
 常アルヲ認メズ」ト云フニ歸著ス

戊、鑑定

以上ノ事歴病歴及ビ説明ニヨリテ下シタル鑑定要旨ハ左ノ如シ

- 一 謀殺犯被告人○塚○造ハ明治三十七年八月十二日○林○太郎ヲ殺害シタル當時ニ精神ニ異狀アリシモノニアラズト推測ス
 - 二 彼ハ現在精神ニ異狀ヲ呈セズ
- 右之通りニ候也

東京市本郷區西片町十番地

醫學博士 吳 秀 三

明治三十七年十二月二十日

右被告ハ重罪公判ニ付スル旨ノ豫審決定アリタリ

第十七例 ○林○郎○衛ニ關スル證言鑑定書
 診斷書ヲ材料トシ編成セル同人精

神狀態鑑定書

明治三十八年一月二十六日午前九時○控訴院民事第四部ノ公開法廷ニ於テ裁判長判事○岡○正判事○田○兆判事○島○三郎判事○山○一判事○邊○治裁判所書記○藤○列席ノ上控訴人株式会社○銀行被控訴人○林○助問ノ三七(ネ)四一九號約束手形支拂控訴事件ニ付左ノ五箇ノ鑑定材料書ヲ與ヘテ證人ノ證言ノ狀態ヨリ推察シテ○林○郎○衛ハ果シテ精神病者ニシテ完全ナル意志能力ヲ有セザリシヤ否ヤ

ヲ鑑定スベキコトヲ命セリ

余ハ仍テ明治三十八年一月廿七日ヨリ其鑑定ニ著手シ明治三十八年二月廿日ニ至リ之ヲ成就シタリ其材料及鑑定書左ノ如シ

甲、第壹號 鑑定材料書

證人訊問書

控訴人 株式会社 ○ ○ 銀行
 被控訴人 ○ 林 ○ 助

右當事者間ノ○控訴院民事第四部三七(ネ)四一九號約束手形金請求控訴事件ニ付受訴裁判所ヨリ證據調囑ヲ受テ明治三十七年十一月二十二日午前九時○區裁判所法廷ニ於テ

右列席事件ノ呼上ヲ爲シタルニ

受託判事 ○ 原 ○
裁判所書記 ○ 島 ○ 三 耶

控訴代理人 ○ 本 ○ 次
被控訴代理人 ○ 木 ○ 美

出頭シタリ

判事ハ

證據決定ヲ施行スト宣言シ証人訊問ヲナスコト如左

証人○神○作

右人途ナク而シテ宣誓スヘキ資格ニ缺クルナキヲ以テ爲證ノ處附アルコトヲ諭示シタル後合式ノ宣誓ヲ履行セシメ訊問ヲ始

メ

供述如左

一 ○神○作

四十八年

平民

醫師

○○縣○○郡○○町大字○○山

一 ○林○耶○衛ナル者ハ自分舊患ニ付キ同人平素ノ動靜ハ能ク知悉ス如左

一 ○耶○衛ハ明治三十四年以前ヨリ精神病ニ罹リ暴動異狀ヲ呈シツアルヲ實見シ來リ明治三十四年四月頃ニ於テ自分始

メテ治醫トシテ診察ヲナシタル也

二 精神理智力甚々缺損シ從テ事物ノ感能ヲ缺キ他人トノ談合不能ナリ

三 身體ノ暴動ハ沈靜ヨリ暴行ニ及ヒ又沈靜ニ歸スルコトアリ

四 沈靜狀況ニ在ルトキハ他人ノ談合其他事柄ハ一切感受スルコトナク唯沈鬱靜寂タルモノナリ

五 暴行ノ狀況ニ及フトキハ放言毆打危險アルヲ以テ婦女ハ近寄ルヘカラス故ニ仕丁ノ男子之カ防衛ニカムルナリ

六 而シテ身體ノ暴動ハ沈靜ニアラサレハ暴行、暴行ニアラサレハ沈鬱ニシテ其中間常人ノ態度アルコトナシ

七 以上ノ狀況アルコトハ實驗及家族等ノ共同陳述ニヨリ發見シタルヲ以テ其症性神經衰弱ノ尤モ劇烈ナルモノト診定シタ

八 以上ハ當初ノ診斷ナリ而シテ事後三日又ハ五日ヲ隔テ、往診スルコト約二ヶ月ヲ經タル間依然タル狀態ニシテ其後ハ神

經曆ネテ亢進ヲ來シ暴行倍々加ハリ又感能ノ缺損甚シキニ至レリ故ニ證書類ノ知覺ナキハ勿論ナリ

九 而シテ同年八月頃ニ至リ醫師○澤○四郎ト主治ノ職、更迭アリ事後自分ハ其儘治醫トシ主治醫ノ通告アル毎ニ一週間又

ハ十日ヲ隔テ、診察ニ應ジタルニ決シテ快方ノ趨ナシ

十 而シテ明治三十六年六月ニ至リ醫學博士○澤○吉ノ診察ヲ受ケタルニ梅毒症ニ原因セル麻痺狂トテ不治症ナリト断定セ

ラン如左處方ヲ發言セラレタリ

沃刺、臭刺、臭痔

サルチリサン、スイギン以上

十一 事後自分モ右ノ如キ調劑ニヨリ施藥ニ怠リナカリシモ病勢倍々募リ自體ノ暴動依然タル進行ニテ竟ニ明治三十七年四

月ニ至リ命無シ

十二 以上ハ悉ク自分ノ實驗ニカトルモノナリ而シテ自分ハ初診以來死亡マテ心神沈鬱ノ狀況ヨリ亢進ニ及フ中間狀態(常

人ノ知覺存セザリシコトハ症ノ程度實況ヨリ診定スルニ足リ又家族等ヨリモ貴殿ノ初診以來常人ノ知覺ヲ備ヘタルコトナシト申出モ受ケタルコトヲ記憶ス

十三 而シテ本人疾病ハ何カ原因トナリ何時ニ始マリタルカハ明言シ難シ唯自分初診ノ當時上述ノ如ク然リ

十四 而シテ本人ハ明治三十六年五月マテ〇〇銀行頭取タル資格ナリシモ上述ノ狀況ナリシヲ以テ銀行ノ業務ハ主トシテ取締役〇田〇作ナル者執行ノ任ニ當レリ自分モ同行ノ取締役ナレハ本業務ノ爲ニ同行詳細ノ事ハ知ラス

十五 故ニ本訴係争事件ノ約束手形ノ成立及其振出并ニ之カ裏書讓渡行爲ノ成立等明言シ難シ

十六 本人ハ〇〇區裁判所豫審判事書記出張刑事事件ノ證人訊問ヲ受ケタルコトアレハ恰モ沈靜ノ時ニテ豫審判事ハ訊問不能ノマ、歸國セラレタルコト自分實見シタルコトアリ

十七 明治三十四年ニ於ケル〇〇銀行後半期決算ハ三十五年一月確定完結シタルニ付自分之カ結果ヲ報告シタルハ毫モ感受ナク要領ヲ得サリシ

以上各舉動ハ疾病ノ結果寧ロ當然ナリシモノト信ス
判事ハ

證據決定ノ施行受託事件ヲ完結ス

甲 第二號 鑑定材料書

證人訊問調書

明治三十七年七月二十六日〇〇區裁判所ニ於テ

(中略)

宣誓セシメ訊問シタリ

證人ノ陳述ハ左ノ如シ

一〇村〇太郎、四十歳、平民、書籍商

〇〇縣〇〇郡〇〇町大字〇五〇〇番地

一〇林〇耶〇衛方病氣ハ明治三十四年四月以來ノ精神病ニシテ其間本人ノ病氣看護及ヒ家政整理ノ爲メ事務ヲ執リタル次第ナリ

一本人ノ病狀ハ三日ニ一日位ハ平常ニ復シタルコトモアリ病中ハ常ニ他人ト面會スルコトヲ嫌ヒ居リシモ平常ニ復シタルトキハ他人ニ逢フコトモ出来マシタ然レモ其通リ本心ニ復スルコト稀ナルカ故ニ昨年ノ春杯ハ〇井〇行支店及〇〇銀行間ノ訴訟關係ニ付キ判決書カ本人へ來ルル私ハ〇〇銀行ノ爲ニ責任ヲ有シ居ルカラ此位ノ損害ヲ受ケルノガ誠ニ馬鹿々々シヘ嘶々杯ト音ヒ居リマスカラ私カ思フニ平常ニ復シタルコトト信シ本人ニ向ヒ大變ニヨロシイ様テスカ村ノ鎮守様へ運動旁々行キマシヨト音ヒタルニ本人ハ其時私ニ向ヒ昨日ハ裁判所カラ判事カ十人計リ來テ其方ハ人殺チシテ居ルカラ重罪犯ダトイフテ取調ヲ受ケタルモ御馳走チシテ追ヒ返シテヤツタ杯申シ居リマシタ其通リニアリマスカラ偶々平常ニ復スト雖モ二日トハ繼續シテ平常ノ儘テ居ル事ハ六ケシイノデス

一私カ本人ノ看護チナシタルハ明治三十四年カラ三十六年七月マテノ間看護チナシ居リタルモ夜分丈ハ自宅ニ歸リ其外他ニ出報チナシタルトキチ除キ大抵本人宅ニ居リ看護チナシタリ

一私カ家政整理及本人ノ看護チ依頼セラレタル理由ハ其以前ヨリ〇〇銀行へ出入チナシ居タル爲メ銀行内部ノ關係及ヒ〇林〇耶〇衛カ一己人トシテナシタル貸借關係等ヲ能ク知り居タルノ故チ以テ銀行ノ責任トナルモノト〇耶〇衛ノ責任トナルモノトチ明瞭ナラシムル爲メ其整理チナシ突レトノ親戚等ノ依頼ニ因リ之カ整理ノ任ニ在リタル次第ナリ

被控訴代理人ノ爲メニ因ル間ニ對シ
一〇林〇耶〇衛所有土地ヲ三番抵當トナシ〇林〇次耶ヨリ金六千五百圓ヲ借リ入レタルハ昨年六七月頃ニシテ該金借入ノ當

時外ニ時借リモアリタルニ付之ニ借増金トシテ借入レタルモノナリ又右ノ金圓ハ〇〇銀行解散ニ付キ之カ責任金ヲ出ス爲
ニ其借入チナシタルモノナルモ其時本人ハ平常ニ復シ居ラサルヲ以テ親族等ノ相談ノ上ニナシタルニアリマス猶其時本人
モ宜敷頼ムト申シマシタ

一三十五年二月頃〇林〇耶〇衛振出ニテ〇田〇作ニ宛テ二十四及三十圓ノ手形ハ〇〇銀行カラ〇田〇作カ使ニ持セ來リ之レ
ニ署名捺印セヨトノ事ヲシタカ其當時本人ノ病氣靜マリ居ラサルニヨリ一週間程經テ稍々靜マリタルトキ署名捺印シテ遣
リマシタ其時本人ハ何ニ此位ノ金ハ今ニ己レカ〇〇銀行ノ頭取ニナルカラ何ンテモナイ杯申居タリ
控訴復代理人ノ爲メニヨル間ニ對シ

一〇〇銀行ノ〇田〇作ヨリ使カ持テ來タ手形ニ署名捺印シタ時ハ親族立會ノ上ニ爲シタリ
一銀行解散ニ付キ出スヘキ責任金トイフハ他ノ重役モ出シタル事ト思フカ金高ハ知ラズ
被控訴代理人ノ求ニ因ル間ニ對シ

本人ノ印類ニ付テハ常ニ本人ノ藏匿シタル場所ニ在リタルモノニシテ特ニ之レカ保管者ヲ定メ置キタルモノニアラス
此ニ呼入レタル證人ニ對シ其人違ナキ事ヲ認メ云々

乙 二號ノ四寫

鑑定人訊問調書

醫學士 ○ 井 ○ 之 助

右ハ明治三十六年(チ)第一四號禁治産宣告申立事件ニ付キ鑑定人トシテ出頭シタルニヨリ明治三十六年八月二十八日午前十
時〇〇區裁判所ニ於テ判事〇林〇裁判所書記〇野〇二列席檢事〇東〇立會公行セス。鑑定人ニ偽證ノ罪ヲ諭示シ別紙宣誓書
ノ通り宣誓ヲ爲サシメタル上後訊問スベキ鑑定人ノ在ラサル所ニ於テ訊問シタリ

鑑定人ノ陳述ハ左ノ如シ

答 ○井〇之助 四十歳 醫師

住所〇〇郡〇〇町大字〇谷〇〇〇番地

問 ○林〇ン及〇林〇耶〇衛ト親族後見人雇人又ハ同居人等ノ關係ナキカ
答 何等ノ關係ナシ

判事ハ鑑定人ニ對シ〇〇縣〇〇郡〇〇村大字〇屋〇〇〇番地〇林〇耶〇衛宅ニ於テ同人ニ對シ左記ノ事項ヲ鑑定スベシ其意
見ハ書面ニテ之ヲ述ブベシ

一 心神喪失セルモノナリヤ否ヤ

一 若シ心神喪失セルモノトセハ其喪失ノ常況ニ在ルモノナリヤ否

右調査ハ關係人ニ問覽セシメタルニ之ヲ承認シタリ

〇〇區裁判所

明治三十六年八月廿八日

裁判所書記 ○ 野 ○ 二
判 事 ○ 林 ○ 〇

乙 二號ノ五

鑑定書

明治卅六年八月二十六日〇〇區裁判所判事〇林〇ハ〇林〇ンガ〇林〇耶〇衛ニ關シ禁治産宣告申立事件ニ付左ノ事項ヲ鑑定
スベキ事ヲ命セリ

一〇林〇耶〇衛ハ心神喪失セルモノナリヤ

一 若シ心神喪失セルモノナリトセハ其喪失ハ常況ニ在ルモノナリヤ
 依テ明治三十六年九月五日〇〇縣〇〇郡〇〇村〇〇番地〇林〇耶〇衛宅ニ出張シ主任醫師〇澤ヲ醫師〇神〇作ヲ立會セシ
 メ其陳述及妻〇ンノ申立ヲ參照シ鑑定ヲナス事左ノ如シ〇林〇耶〇衛ノ身體検査ハ九月五日午後一時着手同二時ニ終了ス
 〇〇縣〇〇郡〇〇村大字〇屋〇〇〇番地
 〇林〇耶〇衛

四十一年

既往症

血統 父ハ三十六年ノ吐血症ニテ死シ母ハ五十六歳ニシテ胃痛ノ爲メ死亡ス妹二人アリテ健存ス神經系ノ疾病、精神病等
 ノ遺傳ナシ
 已往ノ病歴 被申立人ハ幼少ノ頃ヨリ極テ健全ナラン二十一歳ノ頃心臓病ヲ患ヘシ事アリ其後二年ヲ經テ重キ麻疹ニ罹リシ
 ノミ他ニ著病ナシ生來大酒ナリシカ明治三十年頃ヨリ殊ニ多量ニ飲用ス明治三十四年正月頃ヨリ神經過敏トナリ不眠症ヲ發
 シ心神不安ノ狀アリ依テ翌五月中温泉場ニ行キシモ途上他人ニ途跡セラル、如キ感アリ又之迄一面識ナキ人ヲ指名シ彼ハ誰
 ヲナリナド、妻ニ話セシ事アリ其時浴場ニ滞留スル事僅カニ一日ニテ歸宅ス、六月中出京醫學博士〇澤〇吉ノ診察ヲ受ケシ
 ニ精神狀態ニ異常アルニヨリ入院ノ上治療スベキ旨勸告セラレシモ途ニ本人ノ同意ヲ得スシテ歸國ス爾來常ニ精神ニ異常ヲ
 呈ス時々憤怒シ或ハ沈鬱シ更ニ他人ト語ヲ交ヘズ發病後未タ一回モ庭園ヲ散步スルコトナク又門外ニ出シ事ナク常ニ牀上ニ
 アリ食物ヲ平素ト異ナリ己ノ好ム所ノ者ハ他人ノ食膳ニ在ルモノト雖モ遠慮ナク食シ又發憤セシ少量ノ酒(凡ソ二合位)ヲ
 與フルハ怒ヲ解クコトアリ發病以來時ニ或ハ輕快ノ狀アリト雖モ精神狀態常ニ安靜ナラズ近頃ニアリテハ藥品ヲ與フルモ
 服用セズ默シテ牀上ニ座臥スルノミ

現在症

甲、身體狀態、體格中等榮養不長ナラズ脈七十六至不正ノ事アリ頭部ノ形ニ異常ナク顔面ニ搐搦ナシ眼球ハ充血シ光澤ア
 リ瞳孔ノ反應鈍シ耳鼻ニ異常ナシ
 乙、精神狀態、鑑定人カ検査ノ爲メ同人常住ノ室内ニ進入セシハ頗ル恐怖ノ狀ヲ呈シ殆ント其座ニ堪ヘ得サルモノ、如シ
 先ツ脈搏ヲ檢シ夫レヨリ身體諸部ノ検査ヲ行ハントセシニ途ニ妻ヲ突倒シ立會醫師ノ止ムルモ聞カズ隣室ニ逃入り又出テ
 來ラズ依テ止ムヲ得ヌ一時検査ヲ中止シ鑑定人ハ他室ニ退キ居リ妻ノ實兄(被申立人ニ尤モ信用アルモノ)某ヲシテ能ク被
 申立人ニ注意セシメ大凡二十分許ノ後再々牀上ニ居ラシメ検査ニ著手ス 被申立人ノ狀態ハ先回ニ比スレバ少シク安靜ナ
 リシモ猶頗ル不安ノ狀アリ夫レヨリ身體費要ノ諸部ヲ検査シ最後ニ精神內容ヲ窺ハント欲シ數回質問ヲ爲セシモ更ニ應答
 ナク途ニ談話ヲ試ムル事ヲ得ザリシ然レモ其行爲舉動ニ由リ按ズルニ被申立人〇林〇耶〇衛ハ精神病ニ罹リ居ルモノナリ
 而シテ其病名ハ麻癡狂ナリ(初期)

- 一 〇林〇耶〇衛ハ精神病者ニシテ心神喪失セルモノナリ
- 二 其病症ハ發病以來(明治卅四年四月以降)時々輕快ノ狀アリト雖モ其喪失ハ常況ニ在ルモノナリ

〇〇縣〇〇郡〇〇町大字〇谷〇〇〇番地

明治三十六年九月三十日

鑑定人 醫學士 〇 井 〇 之 助

判事 〇 林 〇 殿

鑑定人訊問調書

明治卅六年(子)第一四號事件云々
 問 〇林〇耶〇衛ノ病症ハ如何ナルヤ心神喪失ノ常況ニアルヤ

答 然り先キニ差出シタル鑑定書ノ通りナリ
右調書云々

明治三十六年十月二日

乙 四號ノ一

〇〇區裁判所
判 事 〇 林 〇 〇
裁判所書記 〇 尾 〇 夫 〇
〇〇縣〇〇郡〇〇村
〇 林 〇 耶 〇 衛

三十九年

右者去ル明治三十四年六月申診察セルノミノ患者ナルヲ以テ今日ニ於テハ記憶ニ存在セズト雖當時ノ記録ニハ左ノ如ク記載
シアリ

一 明治三十四年六月九日

既往症ニ梅毒ノ有無疑ハシ昨年末ヨリ銀行事件ニテ痛心セルコトアリ、飲酒殊ニ甚シ三月頃ヨリ精神異常アリト云フ心
尖乳腺外ニアリ、雜音無シ先月浮腫アリタリト云フ、脈搏整然、尿中蛋白無シ糖無シ不眠症アリ、膝蓋腱反射アリ、瞳
孔反應常態左側頭痛アリト云フ、諸算ナナス能ハス運動ニ異常アリ

沃刺臭刺ノ水藥

處方

撒赤丸

鹽刺水含嗽料

右記事ノ外ニハ確タル診断ヲ附シアラズト雖モ進行性麻痺癡狂ノ診ヲ以テ前記ノ如ク處方セルモノナラント思惟ス

明治三十七年二月廿八日

乙 四號ノ二

診断書

〇〇市〇〇橋區〇〇町〇〇番地
醫學博士 〇 澤 〇 吉 〇

〇〇縣〇〇郡〇〇村大字〇〇〇〇番地

〇 林 〇 耶 〇 衛

右者明治卅四年四月十三日發病神經衰弱症ニ罹リ目下病狀依然トシテ變狀ヲ認メス心神喪失ノ情態ニアルヲ以テ專ラ安靜ヲ
要スルモノトス

明治三十七年三月十一日

〇〇縣〇〇郡〇〇村大字〇〇〇〇番地
醫 師 〇 澤 〇 四 耶 〇
〇〇縣〇〇郡〇〇町大字〇〇〇〇番地
醫 師 〇 神 〇 作 〇

右之通りニ候也

〇〇市〇〇橋區〇〇町〇〇番地士族

辯護士 〇 木 〇 美

明治三十八年一月三十一日

余ハ乃チ以上五箇ノ鑑定材料書ニヨリテ順序ヲ立テ、亡〇林〇耶〇衛ノ病症履歴ヲ編成シ之ヲ基トシ
テ其病症ノ説明ヲナシテ鑑定ヲ下シタリ

而シテ其材料書中ノ供述本人タル證人鑑定及ビ診斷醫師ノ姓名ハ左ノ如ク符號シタリ

(甲) ○神○作ハ○○縣○○郡○○町大字○○山醫師ニシテ明治三十四年四月○林○郎○衛ヲ初診シ主治醫トシテ同八月ニ至リ其以來ハ從治醫トナリ其死亡ニ至ル迄診治ニ關係セリ(明治三十七年十一月廿三日○○區裁判所法廷證人訊問調書)

(乙) ○村○郎ハ○○縣○○郡○○町大字○○○番地平民書籍商ニシテ○林○郎○衛ノ病氣看護及家政整理ノ爲メ事務ヲ取リタル人ニテ看護ハ明治三十四年ヨリ三十六年マデ爲セリ(明治三十七年七月廿六日○○區裁判所證人訊問調書)

(丙) ○井○之助ハ○○縣○○郡○○町大字○○○番地醫師ニシテ明治三十六年八月○林○郎○衛禁治産宣告申立事件鑑定人ヲ命セラレタリ(明治三十六年八月廿八日○○區裁判所鑑定人訊問調書)

(丁) ○澤○吉ハ○○市○○橋區○○町○○番地醫師ニシテ明治三十四年六月九日○林○郎○衛ヲ診察シタリ(明治三十七年二月廿九日診斷書)

(戊) ○澤○四郎ハ三十四年八月ヨリ主治醫
○神○作(明治三十七年三月十一日診斷書)
病 歷
○○縣○○郡○○村大字○○○番地

○林 ○郎 ○衛

明治三十七年 四十二歳死亡(丙、甲)

父ハ三十六歳ノ時吐血ニテ死亡シ母ハ五十六歳ノ時胃癌ニテ死亡ス妹二人アリ健存ス(丙)

幼少ノ時ヨリ甚健康ナラス二十一歳ノ頃心臓病ヲ患ヒシコトアリ其後二年ヲ經テ重キ麻疹ニ罹リシノ

ミ他ニ著キ疾病ヲ經ズ(丙)

既往ニ梅毒ニ罹リシコト有ヤ無ヤ疑ハシ(丁)

生來大酒ナリシガ明治三十年頃ヨリ殊ニ多量ニ飲用ス(丙)明治三十三年末ヨリ銀行事件ニテ焦心セル

コトアリ飲酒殊ニ甚キヲ加フ(丁)

明治三十四年四月頃ヨリ精神ニ異常ヲ來セリ(乙、丙)

此發病期日ハ最初ノ主治醫タル○神○作ハ一度ハ三十四年以前ナリ何時ナリヤ明言シ難シト云ヒ

(甲)一度ハ其後ノ主治醫タル○澤○四部ト共ニ三十四年四月十三日ナリト云フ(戊)

最初神經過敏トナリ不眠症ヲ發シ心神不安ノ狀アリ(丙)精神理會力甚缺損シ事物ノ感能ヲ缺キ他人ト
交話スル能ハス(智力缺乏考路ノ失常?)其舉動或時ハ沈靜シ或時ハ暴行シテ常態ニ復スルコトナク即
チ沈靜スルハ他人ト談合スルコトモ一切ノ事柄ヲ感受スルコトモナク唯沈鬱靜寂タリ(抑鬱)暴行スル
トキハ放言シ毆打シ危險ナルヲ以テ婦女ハ近寄ルヘカラス壯丁ノ男子之カ防衛ニ力ムルナリ(興奮)
(甲)五月中温泉場ニ行キシモ途上他人ニ追跡セラル、ガ如キ感アリ(追跡被害ノ意想)又是迄一面識ナ

キ人ヲ指名シ彼ハ誰々ナリナド云ヘリ(人物誤認)其ノ時浴場ニ滞留スルコト僅ニ二日ニシテ歸宅ス(丙)症狀依然トシテ前ノ如ク神經症狀重ネテ亢進シ暴行益々加ハリ威能ノ缺損甚シキニ至リ其後モ快方ニ赴キシコナク(甲)明治三十五年二月頃〇〇銀行ノ〇田〇作ハ本人振出〇田〇作宛ナル二十圓及三十圓ノ手形ヲ使ニ持タセ來リ署名捺印セヨトノ事ナリシカ本人ハ何ニ此位ノ金ハ今ニ己カ正金銀行ノ頭取ニナルカラ何ンデモナイ杯申居タリ(乙)三十六年春訴訟關係ニ付判決書ノ交付アリシ頃症狀甚好カリシニモ關ラス『昨日は裁判所から判事が十人許來て其方は人殺をして居るから重罪犯だと云ふて取調を受けたるも馳走をして追ひ返しやつたり』ト云ヘリ(乙)浮腫アリ六月中醫學博士〇澤〇吉ノ診察ヲ受ク其當時左側ノ頭痛アリ語言不能アリ舉動ニ異常アリ不眠アリ心尖ハ乳線外ニ及ビ心雜音ナシ脈博ハ整然タリ尿中ニハ蛋白モ糖モナク膝蓋腱反射アリ瞳孔反應ハ常態ナリ(丁)其後モ常ニ精神ニ異常アリテ時々憤怒シ或ハ沈鬱シ更ニ他人ト語ヲ交ヘス發病後三十六年九月マテ一回モ庭園ヲ散步セシコトナク又門外ニ出テシコトナク常ニ床上ニアリ食物モ平素ト異ナリ己レノ好ムモノハ他人ノ食膳ニアルモ遠慮ナク之ヲ食シ此月頃ハ藥ヲ與フルモ服用セス默シテ床上ニ坐臥スルノミ(丙)此當時本人ハ醫ニ對シ恐怖ノ狀アリテ殆ント座ニ堪ヘ得ザルモノ、如ク身體ヲ検査セントスルニ遂ニ妻ヲ突倒シ人ノ止ムルヲ聞カス隣室ニ逃入り出テ來ラス爲ニ検査ヲ中止シ妻ノ兄ノ諭ニヨリ二十分許ノ後ニ再ヒ診ヲ受クルモ猶ホ頗ル不安ノ狀アリ數回ノ質問ニモ應答セス遂ニ交話ヲ得ス體格ハ中等、營養ハ不良ナラス脈七十六至不整ノ事アリ頭形ニ異常ナク顔面ニ搖擗ナク眼球ハ充血シ光澤瞳孔ノ反應鈍シ耳鼻ニ

異常ナシ

經過、發病以來二月ヲ經テ症狀益甚シキヲ加ヘ其後モ快方ニ赴キシコナク(甲)明治三十六年九月ニ至ル迄或ハ輕快ノ狀アリト雖モ精神狀態常ニ安靜ナラス(丙)要スルニ病初ヨリシテ病狀依然トシテ變狀ヲ認メス神心喪失ノ狀態ニアリ(戊)其後病勢倍募リ竟ニ明治三十七年四月ニ至リテ死亡セリ(甲)

○村〇太郎ハ本人ノ病狀ハ三日ニ一日位ハ平常ニ復セリト云フモ(乙)其平常ト云フハ醫學上ニ精神尋常ト云フノ意味ニアラス唯輕度タルヲ指スノミ

○村〇太郎ノ言ニヨレハ病症増悪セル時ハ他人ト面會スルコトヲ嫌フモ輕キトキハ他人ニ逢フコトモ出來タリ(乙)

病症、明治三十四年四月中最初主治醫タル〇神〇作ハ神經衰弱ノ劇烈ナルモノナリト診斷シ(甲)明治三十六年六月中醫學博士〇澤〇吉ハ進行性麻痺狂ト診斷シ(甲、丁)同九月中醫學士〇井〇之助ハ麻痺狂初期ト診斷シ(丙)明治三十七年三月中〇澤〇四郎〇神〇作ノ診斷書ニハ神經衰弱症トセリ(戊)

但〇澤〇吉ガ明治三十七年二月廿九日呈出ノ書面ニハ診察當時ノ記錄中ニ診斷ニ附シアラスト雖モ進行性麻痺狂ノ診ヲ以テ處方(沃剝臭剝ノ水藥撒末丸鹽剝水含嗽料)セルモノナラント記セリ

說明

之ニ由リテ是ヲ觀ルニ〇林〇郎〇衛ハ精神病ノ素因ノ一タルベキ血統上ノ遺傳病ハ之ヲ先代ヨリ受ケズ本人ガ體質ノ如何ナリシヤハ明記サレズ幼少ヨリ特ニ精神病ヲ誘發スベキ疾病ヲ認メズ梅毒ノ有無

モ明ナラズ唯生來大酒ニシテ殊ニ明治三十年頃ヨリ多飲ナリシト云ヒ發病前ニ至リテ猶更ニ酒量ヲ増セシモノ、如シ

發病ノ時日ニ就キテハ明ナラス而モ明治三十四年四月頃ヨリハ誰人デモ明瞭ナル程度ニアリシモノ、如シ

病症ハ初期ニ於テハ神經過敏、不眠、心神不安ニシテ時々沈靜シ時ニ躁暴シ又追跡被害ノ妄想アリ其後時トシテ誇大的言語アリシカ如ク(正金銀行頭取ナト云フノ語)又ハ周圍ノ事情ヲ誤認シ被害的ニ考ヘシコトモアル如ク(其方ハ重犯罪ダ云々ノ語)明治三十六年中ニハ興奮或ハ沈鬱シ、健忘、懦弱、羸臥、嫌人、恐怖、不安等ノ症狀モアリタルガ如ク此間一貫シテ精神理會力減却シ又後ニハ諸算ニ不能ナリシ而シテ其身體症狀ハ精キ記載ヲ缺キ其終焉ノ症狀ハ明ラカナラズ

全經過ハ明治三十四年四月發病ヨリ同三十七年四月死亡ニ至ル凡ソ三年間ナリキ

其症狀及經過右ノ如シトシテ是ニヨリテ○林○郎○衛ガ其生存中ニ罹リタル疾病ハ果シテ精神病ナルヘキヤ否ヤ之ヲ推測シ得ヘキモノナリヤ如何ト云フニ余ハ之ヲ是認スルニ踟躇セズ此ノ如キ症狀ハ皆精神病ニノミ發スヘキモノニシテ他ノ疾病ニ之ナキモノナレハナリ

然レモ猶一步ヲ進メテ其精神病ハ何ナリヤト問フニ及ンデハ是レ余ニ取リテ大ニ疑ハシク遂ニ明確ナル決答ヲ與フルコトヲ得ザルヲ遺憾トス

一 之ヲ原因ヨリ考フレバ酒精モ之ニ關係アリ酒精ハ本人生來ヨリ好ミ飲ム所ニシテ明治三十年頃ヨ

リ之ヲ濫用シタリト云ヘバ或ハ之カ爲ニ酒精中毒ニ罹リタルニアラサルヤノ疑惑ヲ生スルモ○林○郎○衛ガ病症記事中ニハ酒精中毒症タルノ特徴ヲ發見セス

二 之ニ反シテ前記ノ諸症狀ヨリ考フルトキハ其病ハ精神病學ニテ早發癡狂ト稱スル疾病ニハアラズヤト思フコト却ツテ妥當ナルニ近キガ如シ時々ノ抑鬱與奮恐怖、不安、懦弱、健忘、嫌人、診察拒絕追跡被害等ノ妄想考慮ノ失常等ノ症狀皆然カナリ、然レモ是トテモ亦精神病上ノ智識十分ナラサル人ノ記載ナルカ爲ニヤ其症狀ノ指摘甚曖昧ニシテ診斷ヲ確定スルノ助ケトナシ難シ且次ニ記スル麻痺狂ナルモノハ頗ル多様ノ症狀ヲ呈シ從ツテ又早發癡狂ト類似スル場合モアルモノナレバ第一ニ麻痺狂ナリヤ否ヤノ決定ヲ經ズバ二者孰レナルヤモ明ナラズ

三 醫學博士○澤○吉醫學士○井○之助ハ其病症ヲ以テ進行性麻痺狂ナリト診斷セルモ○澤ノ記事ハ簡略ニシテ其記事中ノ身體症狀ハ麻痺狂ニ固有ナルモノニアラズ、○井ノ記事ニハ診斷ノ根據トスベキ身體症狀ヲ舉述セズ又○林○郎○衛ノ症狀ニテ前記引用セル所ノモノニヨルモ麻痺狂ノ診斷ヲ下スベキ確タル精神徵候ヲ缺キテ縱ニ一句二句ノ之ニ遠ク似寄リタルコトヲ發見スルノミ(精神理會力缺損シ)事物ノ感能ヲ缺キ(ナド)語及ビ誇大妄想、人物誤認ナドアルモ皆的確明瞭ノ記載ヲ缺キタリ)ニシテ唯稍確ナル根據ハ入澤ノ記事中ノ諸算不能ノ一句及ビ其病ノ經過ノ短暫ナリシヲ等ナリトス以上ノ事由ニヨリテ余ハ○林○郎○衛ガ存生中罹リ居タル精神病ハ或ハ麻痺狂ナルモノナルナランカト思考ス

之ヲ要スルニ○林○郎○衛ガ其存在在中ノ精神病ハ麻痺狂又ハ早發癡狂ニテアリシナラン其以外ノ病症トハ余ハ決シテ思考シ得ザルナリ

之ニ由リテ是ヲ考フルニ○林○郎○衛ガ明治三十四年四月ヨリ罹リタル疾病ハ精神病ニシテ其病症ハ麻痺狂カ或ハ早發癡狂ナルガ如シ

一 麻痺狂ニ在リテハ患者ノ智力ハ最モ著ク侵害ヲ受クルモノニシテ記憶計算力ハ尤モ甚ク障礙ヲ蒙ルリ其後期ニ於テハ勿論其早期ニ於テモ家人ノ氣付ク頃ハ既ニ病勢ノ餘程進ミタル時ナレハ其患者ハ完全ナル意思能力ヲ缺キタルモノト認ムルヲ至當トス

二 早發癡狂ナリトスレバ抑鬱又ハ興奮アリ通常ハ幻覺多クシテ且恐怖不安アリ四邊ノ事狀ヲ誤認シテ自己ニ危害ヲ及ホスモノナリナト思考スルヲ常トス其考慮ノ方法ノ常ヲ失ヘルガ爲メニ他人ト交話スルヲ能ハサル等ノ症狀ハ本患者ノ精神狀態ガ時トシテ沈靜スルカ如クナルモ是レ只外觀的ニシテ其實ハ此ノ如キ時ニ於テモ其思路ハ常人ノ思路ト一種異様ニシテ精神尋常者ノ如ク論理的ニ事物ノ判斷ヲナシ能ハザルモノナリトス勿論此病症ハ時トシテ著シク治癒ニ傾キテ多少事理ヲ辨シ得ルニ至ルコトナキニアラザルモ本例ノ如ク症狀ノ終始一貫シタル場合ニ於テハ此ノ如キ認定ハ下シ難キモノト思考ス

故ニ○林○郎○衛ノ精神病ハ麻痺トスルモ早發癡狂トスルモ共ニ其經過中彼ハ完全ナル意思能力ヲ缺クモノト認メザルベカラス

鑑定

一 別紙證人ノ證言ヨリ推察スルキハ○林○郎○衛ハ精神病者ニシテ完全ナル意思能力ヲ有セザリシモノナリ

東京市本郷區西片町十番地東京府巢鴨病院長

明治三十八年二月廿二日

鑑定人 醫學博士 吳

秀 三

控訴院ハ右鑑定ヲ採用シ手形無効ノ判決ヲ下セリ

第十八例 ○○○三郎精神狀態鑑定書

明治三十八年三月三十日午後一時○○區裁判所判事○越○治ハ裁判所書記○原○三ト共ニ○○府○○病院ニ臨ミ同院ニ入院シ治療中ノ患者○澤○三郎及ヒ申立人○澤○さ間ノ明治三十八年チ第○十九號禁治産申立事件ニ關シ右被申立人○澤○三郎ニ付キ

〇〇市〇〇區〇町〇〇番地〇澤〇三郎ハ精神喪失ノ常況ニアリヤ否ヲ
鑑定スヘキヲ以テセリ

之ニ由リ余ハ明治三十八年三月三十一日ヨリ同年四月十四日ニ至ル迄ノ間〇〇府〇〇病院ニ於テ被申
立人ノ精神状態ヲ診査シ其遺傳歴既往症及ビ身體状態ヲ參酌シテ鑑定ヲ下スヲ左ノ如シ

〇〇市〇〇區〇町〇〇番地〇〇府平民無職

〇 澤 〇 三 郎

明治十九年十一月生

遺傳歴、父ハ腦病ニテ死シ母ハ健存ス内祖父ハ昨年ノ頃病死シ其病症ハ明ナラズ内祖母ハ老後吐血シ
テ死シ外祖父母ハ老年ニ至リ死亡シ其病症ハ明ナラズ本人ノ兄弟ハ姊二人ハ健存シ兄二人ハ病歿シ
(其一人ハ心臟病ニテ)妹二人弟一人モ病死セリ是等ノ病症ハ確ナラズ

既往歴、本人ノ出生時母ノ産ハ輕カリシカ其妊娠ニケ月目ヨリ惡阻劇ク爲ニ母體ハ甚シク衰弱セリ本
人ハ小兒時虛弱ニシテ生齒言語步行等共ニ尋常ヨリモ遅カリキ生來疝強キ方ニテひきつけアリタリ五
六歳ノ頃中耳炎ニ罹リ十年間耳だれアリキ五六歳ノ時脊柱彎屈症ニカ、リシカ十歳頃ニ至リテ全治セ
リ十二歳ノ頃遊戯ノ際頭部ヲ打テリ青年期ニモ虛弱ノ方ニテ十八九歳ノ頃鼻ニ疾患アリキ資性小膽温
柔ナルモ自姿ニシテ憤怒易ク無口ノ方ナリ又神經興奮性ノ亢進アリ平生飲酒ス
養育ハ父母ニ受ケ小學校ニ通學シ十七歳ニテ之ヲ卒業セリ成績ハ良ク圖畫ヲ好ム

明治三十五年七月頃一ヶ月間許腦病ノ爲下總國中山法華寺ニアリ

明治三十六年三四月頃即チ本人十六歳四五月ノ片沈鬱閉居シ羞明シ身體モ衰弱シ醫治ヲ受クルヲ一月
許ニテ快方ニ赴キシカ實母ト實父ノ妾トノ間ノ折合好カラヌヲ憂ヒ病勢亢進ノ虞アリシカバ會々學校
夏期休業ニ際シ中山法華寺ニ遣ハシ教理ヲ學バシム居ルヲ二ヶ月許ニシテ歸來セシガ夫ヨリハ多言ト
ナリ外出徘徊シ衣服容儀ニ頓著セヌ様ニナリ時ニ暴行アリ同年一月二十三日遂ニ〇〇〇精神病院ニ入
リ十二月廿五日全治シテ退院セリ其ヨリ明治三十六年十月頃迄ハ靜穩ニテ異常ナカリシガ其頃ヨリ沈
鬱セシコト約一ヶ月許其後ニ至リ又發揚興奮シ誇大的言語ヲ發シ舉作安穩ナラス簿記學校ヲ志望シテ
入學セシモ四十日許通學シテ其後ハ通ハズ十一月中旬頃ヨリ女義太夫ノ師匠ノ許ニ通ヒ家ニ歸ルハイ
ツモ二時ノ深更ニテ又好シテ寄席ニ出入シ次第ニ不辯多動不安不穩トナリ演劇的動作ヲ擬シ又落語家
ノ態度ニ倣ヒ或ハ爽快トナリ又ハ沈鬱トナリテ精神屢轉變ス十二月三十一日ノ夜ヨリ三十八年一月三
日迄家ヲ出テ、歸ラズ三日直ニ再ビ家出シテ七日マテ姿ヲ見セズ外出ノ際ハ母ニ請ヒテ數圓ヲ懷ニシ
遊興ニ耽リ無一文トナリテ漸ク家ニ歸ルトキ出際ニ著用セシ外套襟卷帽子等モ悉ク賣拂ヒテ身邊ニ止
メズ大聲ニテ大道ヲ練リ歩キ人ヲ毆打シタリナト誇リ顔ニ人ニ語ルカ例ナリ

明治三十八年一月十七日〇〇府〇〇病院ニ入ル其當時顔色蒼白脈狀九十至充柔艱覺稍鈍ク膝蓋腱反射
亢進シ爽快活潑ニシテ自覺亢進シ詩ヲ吟シ假色ヲ使ヒ刺戟性ニシテ怒リ易ク既往ノ病症ニ對シテ病覺
アルモ目下ノ状態ニ關シテハ明カナル病識ナシ時トシテ流涕シテ悲泣セルヲアリ時ニ他患者ト衝突シ

或ハ負傷ス入院當時ハ稍穩安ナリシカ二月五日午後二時入浴ノ際川上某ナル患者ト物云ヒ争ヒ金盃ヲ振上ケテ同人ヲ毆打セントスルニヨリ看護人ノヲ制止セリ午後六時二十分頃ニ至リ便所ニ行キ歸途廊下ニ臥床シ居タルヲ以テ室内ニ伴ヒ入レントスルニ應セスニシテ看護人ニテ擔ヒテ室ニ歸ラセシニ寢床ノ上ニ横臥又ハ箕座シテ芝居ノ如キ身振ヲナシナカラ高聲ニ『さー殺せ刀があれば切腹する伊澤の家名を汚したから死にたい』ト絶叫シ其ヨリ猛リ狂ヒ枕ヲ振り廻ハシ戸ヲ打チ破リ又ハ足ニテ蹴飛バンナドシ一時隔離室ニ收容スルノ已ムナキニ至リシカ午後八時二十分頃突然自殺ノ念ヲ發シ自ラ舌ヲ嚙マントセシモ痛ノ爲ニ果サス更ニ自ラ拳丸ヲ握壓セントセリ催眠劑ヲ服シテ己ニ寢ニ就キシカ翌朝通常室ニ歸リシトキ昨日ノ壓制ヲ怒リ此ノ如キ取扱ヲスレバ一層暴バレルトテ障子ヲ押破レリ六日ヨリ大聲放歌シ十日風呂敷包ヲ負ヒ直ニ歸宅セントシ止ムルモ肯セズ看護人二名ニテ之ヲ室ヘ戻セルニ負傷シタトテ白木綿ニテ腕ヲ巻キ首ヨリ釣リタリ十一時頃患者花村某ガ菓子ヲ取ラントセルヲ怒リ之ヲ打タントシ遮ギル看護人ノ横面ヲ撲チタリ午後二時頃患者北原某ト衝突シ後之ニ打タレタリトテ(打チシニハアラス)大ニ怒リ罵詈訾自分ニテ右眼ヲ細帯シ夜ハ體中痛ムトテ室内ヲ泣聲ニテ轉ケ廻ハリ苦シキ様ナリシ『毒藥を飲んだ二十四時間程すると死ぬ』トテ机ニ封書二通ヲ置キ歎キツ、獨言セリ十一日ハ雨戸ヲ室ノ入口ニ立掛ケ『此中に一切人を入れない』ト云ヒ襷掛トナリ金盃ニ水ヲ入レ『若し入れば之を掛けるぞ』ト四肢ヲフミ騷擾セリ十二日墨ニテ顔ヲ染メ俳優ノ真似ヲナシ又相撲ノ呼出ヲナシ或ハ四肢ヲフミ午後八入口ノ脇ニ座シ看護人ノ制スルヲ怒リ足ヲ取リテ之ヲ投ゲタリ十五日洗

面ノ歸リニ金盃ヲ以テ芝居ノ真似ヲナシ後幾度トナク廊下ニ出テ高聲ニ獨語シ看護人ヲ罵詈訾或ハ踊リ或ハ飛ビ自ラ隔離室ニ入り戸ヲ締メテ飛廻リタリ十六日廊下ニ出テ、金盃ヲ叩キ又高聲ニ詩ヲ吟シ午後七時烟管ヲ以テ看護人ニ毆カ、リ暴行ス十七日午前大聲ニ詩ヲ吟シ歌ヲ唄ヒ後障子ヲハツシ投ケ戸ヲ足蹴ニシ色々亂暴ヲナス母親面會ニ來レルニ『貴様は親でない僕も子ではないなんでこんな病院に入れた僕を殺す積りだろ』トナト、云ヒ母ノ持テル烟管ヲ投ゲ或ハ糞入ヲ投ケ母ノ着衣ニ鼻汁ヲ吹キカケタリシモ午後八之ニ對シ後悔ノ意ヲ陳ブ十八日廊下ヲ徘徊シ高聲ニ放歌シ又看護人ヲ罵詈訾二十三日終日芝居ノ真似ヲナシ或ハ詩ヲ吟シ或ハ歌ヲ唄ヒ午後八時頃寢卷ヲ頭ヨリ冠リテ『狐か居る此方にも又來た』ト云ヒタリ二十四日四五日前午後八時頃床ニ入りシニ白衣ヲ纏タル看護人ラシキ人六七人帶劍ニテ入り來リ迫害ヲ加ヘ別ニ看護人三四名切ラレタルヲ見其惡漢ヲ切拂ハントシテ床ヲ跳出テ廊下ニ飛出シタルガ自ラ氣付テ考フレバ此皆夢ナリシヲ覺リ再ヒ寢ニ就キタリト云フ、又一夜ハ白衣ヲ著ケタル狐ラシキ者枕頭ニ來テ惡口ヲナシ若クハ迫害ヲ加フル夢ヲ見タリト、又或時ハ強賊來テ吾ヲ劫スヲアリ恐怖ノアマリ側ニ寢居リシ看護人ノ床ニ入り夜具ヲ被リタリ是ハ自ラ知リツ、ナセシヲナリト語ル性容易ニ激シ時々暴言暴行ヲナスモ心氣靜マルノ後ハ己レノナセシ行爲ヲ能ク知リテ何故ニカ、ル所爲ヲナセシヤニ付辯解スルガ常ナリ中耳炎アリ搔痒ヲ訴フ鼻腔裂稍上顎洞蓄膿症ニシテ鼻聲ヲ帯ビ且ツ青色ヲ帯ヒタル惡臭ノ鼻汁ヲ出シ鼻根ヲ摩スルニ疼痛アリテ前額ニヒキ其疼痛甚シキニ至レハ精神混濁シ刺戟性トナリ容易ニ怒リ又ハ暴行スルニ至ルト自ラ物語ル、二十五日諸商

人ノ賣聲ノ真似ヲナシ義太夫ヲ語り流行歌ヲ唄フ、二十七日放歌詩吟二十八日夜ニ入り興奮シ『幽靈
 が来た〜』ト云三月一日患者吉田某ト廊下ニテ爭論シ打合ヲナサントス三日、四日、都々逸ヲ唄フ
 八日大聲軍歌ヲ唄ヒ義太夫ヲ語り流行歌ヲ唄フ十日艶書様ノモノヲ作り笑ヒ樂ミタリ十三日艶情的小
 説ヲ作り放言漫語ヲナス十六日十七日義太夫ヲ語り歌ヲ唄ヒ又舞ヲ踊ル十九日都々逸軍歌ヲ唄ヒ俳
 優ノ真似ヲナス二十三日獨演說ヲナシ都々逸ヲ唄ヒ其他大聲ニ放歌シ午後ニハ火箸ニテ茶碗ヲ打チ經
 文ヲ唱ヘタリ中耳快復睡眠ハイモル洞蓄膿症治シ去ル二十五日放歌吟詩ス

現在症

身體症狀、體格榮養中等、顔色蒼白、皮下脂肪織中等度ニ發育シ身長相貌ハ年齢相當ナリ
 皮膚ニ一ノ發疹ヲ認メズ頭皮縦紋症稍著シ頭髮頭形其他異常ヲ認メズ
 眼、結膜症アリ瞳孔尋常大、左右均、光線反應及調節反應存在ス
 耳、左側慢性中耳炎アリ聽力稍弱シ
 舌、輕度ノ白苔アリ口蓋ニ異常ナク懸壺垂多少充血セリ
 胸部ニ於テハ左胸部皮膚ニ乳房部ヲ中心トシテ手掌大以上ノ淡褐色ノ斑紋アリ外肺心臟等ニ異常ヲ認
 メズ輕度ノ皮膚紋畫症ヲ認ム
 腹部ニ於テハ内臟器關即チ腹、胃、肝臟及脾臟等ニ異常ヲ認メズ
 四肢ニハ凡テ異常ヲ認メズ只手及足ハ厥冷ニシテ輕度ノ紫藍色ヲ呈シ尖端ニ至ルニ從ヒ其度ヲ増ス

握力、右一九左二〇感覺ニ關シテハ溫覺冷覺痛覺等少シク亢進スト雖モ他ニ異常ナシ
 反射ニ關シテハ顔面現象左右ニ存シ、上膊腿反射尋常、腹壁反射尋常、筋肉興奮性亢進、膝蓋腿反射
 著シク亢進殊ニ右側ニ於テ著明ナリ、足現象ヲ認メズ「アヒルス」腿反射亢進、舉率反射存在ス
 其他右頸下腺ニ梅實大ノ腫脹一箇ヲ認ム腋窩腺ノ腫大ハ認メズ左右鼠蹊腺ニ豆大ノ腫脹左右共ニ二三
 箇宛アリ腋窩ノ汗分泌盛ナルヲ見ル
 精神症狀、感情ハ爽快ニシテ常ニ愉快シ何事モ快樂ノ原因トナラザルハナク同時自己感覺ノ亢
 進セルカ爲メ自負自重ニシテ旁人ヲ卑下シ學問技藝何者モ修メサルモノナシト信ジ我意ニ慕ツテ少
 シノ妨碍抵抗ニ遇フモ感激憤怒易シ精神運動界ニ於テハ不安多動ニシテ靜止スル能ハズ言語多ク舉
 動活潑ニシテ萬事ニ輕捷敏活ナルモ其時々亢激スル結果ハ疎暴ノ行爲ニ至ルコト少ナカラズ且他人ト突
 撞スルコト殆ント日トシテ之ナキハナシ何事ヲモ快觀シ何事ヲモ輕視スルノ結果ハ萬事ヲ靜慮シ的當ノ
 判斷ヲ下シ堅固ナル意思ニヨリテ之ヲ成就スルコト能ハズ又貴重スヘキ物ト然マテニナキモノトノ差別
 明確ナラズ記憶ニ關シテハ左マデノ障礙ヲ見ズ飲食力注意力等ハ一方ニ敏捷ナル代リ又一方ニ甚々
 疎漏ナリ想像力ハ亢進シ思想ハ其進行急促ニシテ言談輕ク湧クカ如クニ發スルモ意想奔逸スル程ノ症
 狀ヲ認メズ其思想意志ニ關シテハ反對概念ノ興起殊ニ不十分ニシテ從ツテ又自克自制ノ能力缺乏ス之
 ヲ要スルニ被申立人ノ精神状態ハ躁鬱狂ト云ヘル病症ニ屬スル躁狂状態ノ輕キモノニシテ所謂發揚狂
 ノ程度ニアルモノナリ而シテ其症狀ガ時々増劇シテ自他ニ對スル危險状態ヲモ呈スルニ至ルコトハ既往

歴ニヨリテ知ルベシ

説明

以上ノ記載ニヨルキハ被申立人ノ體質ハ其既往歴ニヨリテ見ルニ其遺傳ノ關係ハ左程濃厚ニハアラサルモ已ニ母體ニ在リシトキヨリ母體ノ惡阻及ビ之ニ因スル衰弱ノ爲ニ多少ノ不幸ナル影響ヲ受ケ生後ニ於テモ身體精神ノ發育共ニ尋常兒ヨリモ遲シ且疳強クシテ時々ひきつけタルヲアリ概スルニ其神經ガ過敏ニシテ尋常ノ程度以外ニ刺戟性タリシヲ知ルベク性質溫柔ナルモ自恣ニシテ怒リ易ク神經興奮性ノ亢進セルヲ家人及自家ノ認ムル所ナリ是等ノ身心状態ヲ基礎トシテ明治三十五年七月以來腦病ニカ、リ同三十六年九月頃ヨリ發揚性ノ精神病トナリ次テ今日ニ至レリ

其精神病症ハ之ヲ躁狂ト稱シ左程ノ重症ニアラスシテ被申立人自身ニ自己ノ疾病ヲ認識シ得ルノ程度ニアリト雖モ之ヲ認識スルノミシテ之ヲ克制シ自己ノ動行意志ヲ統御スルヲ能ハス故ニ病ノ爲ナルヲ知リナガラ亂暴ナル行爲ヲ敢テシ悔悟ハアリナガラ其言行ヲ事前ニ抑止スルノ辨識ヲ生セズ其病症ノ稍劇シキ時ニ於テハ又殆ント病識モナク唯心身全ク無目的無良知ノ動行ニノミ支配セラル、ヲ見其民法上ノ行爲ニ於テ處分能力ノ十分ナク又其自克自制ノ力ニ乏シク事物ヲ重視セズ舉作ノ輕率ナルニヨレリ而シテ此症狀タルヤ余カ診察時内ニ於テハ常ニ殆ント同一程度ニアリテ時ニ或ハ劇クナルヲアルモ決シテ間歇シ或ハ治愈スルヲモナシ故ニ余ハ被申立人ノ精神病症狀ハ劇シク甚カラスト雖モ而モ間斷ナク常存スルモノト認メタリ

其病ノ豫後ニ關シテハ余ハ其遠カラスシテ治癒スベキモノナリト信ス但其幾日月ノ後ニ此轉歸ヲ取ルベキヤハ之ヲ今日斷言シ能ハサルモ少ナクトモ今後末年以前ニハ此ノ如キ運命ニ接スルニハ至ラサルベシ

以上ノ理由ニヨリ余ガ下セシ鑑定ハ左ノ如シ

被申立人○澤○三郎ハ目下心神喪失ノ常況ニ在ルモノナリ

東京市本郷區西片町十番地東京府巢鴨病院長

明治三十八年四月十四日

醫學博士 吳 秀 三

被裁申立人ハ明治三十八年四月十五日禁治產者トスト宣告セララル

第十九例 放火犯被告人○島○次郎鑑定書

明治三十八年三月十五日午後九時〇〇地方裁判所ノ豫審判事○村○計ハ同地方裁判所第三號豫審廷ニ

於テ裁判所書記○内○衛立會ノ上○島○次郎放火被告事件ニツキ左記ノ事項ヲ鑑定スベキヲ命セリ

一 被告○島○次郎ハ白癡者ナリヤ殊ニ明治三十七年十一月頃ヨリ三十八年二月頃迄ノ間ニ於テ知覺精神喪失ノ状態ニアリシヤ否ヤ
仍リテ其調書ヲ見ルニ被告ハ

○府下○○郡○○村字○尾○○○○
番地平民農○島○○藏叔父

○島 ○次郎

文久二年五月十日生

ニシテ明治三十八年三月一日午前二時三十分頃○○郡○○里村字○尾ナル其隣家○畑○太郎方ニ出火アリタル際嫌疑ヲ受ケテ逮捕セラレシガ被告ハ○○警察分署警部○内○彦ノ訊問ニ對シ自分ハ同夜便通ノ爲メまっちヲ持チテ戶外ニ出テシガ寒氣甚シキ故煖氣ヲ取ランガ爲メニ○畑家所有ノ廢屋同様ノ建物ニ屋根ノ茅カ壞シテ押立テ、アリタルニ放火シヤ、暫ク煖ヲ取リテ後歸宅セリト云ヒ猶ホ之ニ尋デ同警部ノ訊問ニ對シ明治卅八年一月廿八日同村字○○○○番地○住○○太郎所有ノ明屋ニ於ケル出火明治三十七年十一月二十二日同郡○○村字○○○○番地○市○左○門方小屋ニ於ケル出火及ビ同年四月十三日同村同字○○番地○本○五郎方小屋ニ於ケル出火モ皆自分ノ故意ニ放火セシニ

ヨルヲ答辯シ之ニヨリテ明治三十七年四月以來○○郡○○里村附近ニアリシ數回ノ出火ハ皆被告ノ所爲ニ出ツルモノナリト認メラレタリ(○内警部意見書)其放火ノ原因ハ被告ガ○内警部ニ告ゲタル所ニヨレバ他人ノ騷擾スルガ爲ニシテ(同警部意見書)○賀巡查ニモ『火を燃してそーして人が提灯を持つて騒ぐのが面白から火を付けるのだ』ト答へ(○賀○司ノ聽取書)又○村判事ノ問ニ對シ答へタルハ○畑○○野○市ノ諸家ニ放火セシヲ皆煖氣ヲ取ル爲メナリト語レリ(三月十一日調書)

○内警部ハ被告ガ元來生來ノ白癡ニシテ他ノ脅迫ヲ受クレバ其意ノ如クナルノ風アルヲ以テ此點ニ十分留意シツ、任意ニ供述セシメタルナルニ○畑家以外ノ三箇所ノ放火ヲモ自白シタルニテ又其際ノ被告ノ供述ハ其當時其ノ事實ト符號セサル點アリテ○○野家ノ出火ハ其當時其村ノ○村某ガ糞灰等ヲ同家ノ軒下ニ積置キタレハ此ヨリ發火セルナラント推定セラレ○市家ノ出火ハ同家ノ雇人○本某ガ風呂釜ヨリ灰ヲ取り石油ノ空罐ニ入レ其小屋ニ入レ置キタルヨリ發火セルナラント推定セラレ橋本家ノ出火ハ其家ノ長男○五郎ガらんぶヲ落セシ爲ニ發火セリト自白シ八○○區裁判所ニテ罰金ノ處分ヲ受ケタルナリト云フモ發火ノ場所其他ニ關シテハ無根ノ事實ヲ捏造セルモノトモ認メ難ク十分ニ信ヲ措クニ足ルトハ○内警部ノ意見書ニ記載スル所ナリ

○市警察分署ノ巡查○賀○司ノ聽取書ニヨレハ被告ハ同巡查ニ○○野家へ放火セルニ關シ彼ガ其前○○里村字○○ナル機屋業○野○之助方ニ至リ居合ハセシ女二人ニカラカヒ歸リ掛ケニ放火セルナリト告ゲ又○市家ニ放火セルニ關シテモ○○村字○○ノ○○寺門前○本○○藏方ニ行キ其歸リ掛ケニ放

火セリト告グ右〇〇藏方ヲ訪ヒシキノ狀況ヲ委細ニ語リタルモ同分署巡查〇田〇之助ノ報告書ニヨレバ〇野〇之助其雇人〇口〇ク並ニ〇本〇〇藏ハ共ニ被告ガ嘗テ一回ダモ其家ニ來リシヲナキ旨ヲ告ケタリト云ヒ『〇次郎ノ申立ハ事實無根ノ事有之候モ亦之ヲ考察スルルハ該當スベキ事實等モ有之候』トハ右巡查報告書ノ結論ナリ

加之〇賀巡查ノ報告書ニヨレバ被告〇本家ノ小屋ニ放火セルニ關シテ詳細ニ其時ノ事情ヲ語リテ

『其晩は忘れたが熱い時分で(四月十三日)……遊びに行つてくるとて家を出んとしたら姉かもう遅いから寝ろと云つた……滋さんの庭へ出て留さんの庭口迄いつたら廊の方で娘達(〇

〇藏娘いせ〇〇郎娘つねなりと告げ)か小麥の白挽をしていたどちも絆纏を著て襷を掛けていた私は今晚はと聲をかけたら(〇せ)か白挽をして呉れないかと言つたから餘程手傳をしてやつたすると二人の娘は茶を飲んで來べいと云ふて私を置去りにしてカンテラを白挽臺の隅に置た儘各自分の家へ入つたからこいつ居ないから火でもねぢつてやらうと思つてそれから其手ヲンブを小屋の東隅の馬の居ない方に積んであつた米藁の下へ入れて火をつけてランブは元の白挽臺の上に乗せて直ぐ其足で元來た通り……逃げて宅へ歸つた』

ト云ヘリ然ルニ〇田巡查ノ報告書ニヨレハ其當日〇本方ニ於テ〇本〇〇せ同〇ねノ兩人ガ絆纏襷掛ケニテ歌ヲ唱ヒナガラ白挽ヲナシタルヲハアルモ被告ガ其時ニ來訪シタルヲナク從ツテ白挽ノ手傳ヲナセシ筈ナク又此二女ハ白挽ヲ止メテ茶饮ニ去リシヲモナシト云フ

〇本家ノ出火ハ〇本〇五郎ノ過失ヨリ生シタルニテ同人ハ之カ爲ニ〇〇區裁判所ノ處分ヲ受ケタリト云ヘバ被告ガ自分ノ放火セシナリト語リ出シタル詳細ノ事狀ガ其根據モナキハ當然ナルカ如シ又之ニヨリテ推定セバ〇〇野家及ヒ〇市家ニ關スル被告ノ申立ガ事實無根ノト事實ニ該當スベキト混合シ居ルモ毫モ異シムニ足ラズシテ之ヲ要スルニ〇内警部ガ稱スル如ク生來ノ白癡タル被告ノ申立トシテハ實ニ相當ナリト云フベシ

被告ハ果シテ此ノ如キ所謂生來ノ白癡者ナリヤ余ハ今其身體并ニ精神狀態ノ診査ノ結果ヲ擧ゲテ之ニ答フベシ

身長相貌ハ皆年齢相當ナリ毛髮ノ發生尋常、榮養中等、頭形ニ著シキ異狀ナキモ矢狀縫合部隆凸シテ鈍ナル起線ヲナシ後頭ノ上部及左側ノ前顛頂部壓平セラル頭髪中ニ一二外傷性癩痕ヨリ(二仙迷及一仙迷ノ長サノ細條ヲナス)顔面ニ於テハ觀骨體部壓平セラレ鼻根高ク眉弓ヨリ發育シ顔面一般ニ不潔ナル茶褐色ヲ呈シ右頬部ニ於テ口角ノ外上三仙迷ニ口角ニ向ヒ彎曲シ中斷セル二片ヨリ成ル總長二仙迷最大幅〇・五仙迷ノ弓形ノ褐色ノ皮膚癩痕アリ猶ホ左右ノ兩頬ニハ數多ノ周圍ヨリモ色素少ナキ歪形ナル茶褐色斑點アリ左右耳後ヨリ後頭髮際部ニモ夥多ノ同様ナル癩痕アリテ其所ノ皮膚ヲシテ一般ニ不潔ナル褐色ヲナサシム(本人ノ言ニヨレバ漆木ヲ山ヨリ伐リ肩ニ擔フテ歸ルヲ業トシ之カ瘡ノ痕ナリト云フ)稍大ナル耳ノ外廓モ褐色ニ染ミタリ顔面ニ歪斜ナク舌ヲ挺出セシムレバ苔ナキモ其尖

端稍左ニ偏ス懸垂垂下端ハ右ニ偏ス咽頭炎アリ、口蓋尋常齒列齒數モ尋常ナリ瞳孔ニ異常ヲ認ナズ軀幹ニ於テハ胸骨ハ兩肋骨ノ聯壁面ヨリ稍低ク窪ミ且其劍狀突起マテ全體ニ彎曲シ右ニ凸側ヲ向ケタル弓狀ヲナシ胸腔モ亦從テ右側ニ於テ隆張左側ヨリモ著明ナリ又右乳嚙ハ左乳嚙ヨリモ其位置高キ一仙迷ナリ而シテ胸骨ノ中線ハ兩乳嚙ノ連結線ニ於テ左右兩乳嚙ヨリ同ク九・五仙迷ヲ隔テタリ、肋骨下脈線ハ右側ニ於テ左側ヨリモ彎曲強ク腹部中線ハ乳線ニ於テ左右季肋線ヨリ測ルニ一仙迷ノ差違アリ胸腹諸内臟ニハ變常ヲ認メズ脊椎ニハ彎曲ヲ認メズ上肢ニ在リテハ手掌手背一般ニ皮膚肥厚シテ鞏化シ殊ニ指部ニ著シ下肢ニ在リテハ下腿ノ前外面ニ輝明性ノ濕疹ノ痕跡アリ足部ノ皮膚ハ粗雜肥厚ス、筋肉ハ一般ニ其機械的刺戟性増進シ皮膚血管ニ著シキ變化ナク運動機能并ニ感覺機能ハ尋常ナリ膝蓋腱反射等ハ亢進ス、精神症狀ヲ見ルニ被告ハ自己ノ姓名ヲ知リ生年月ヲ知ラズ何年(エト)ナルヤ何歳ナルヤヲ辨ヘズ僅ニ『今はもう餘程になる四十になる』ト答ヘ我住地ノ○○○郡ナルヲ○○○市ノ近傍ナルヲ○○尾ナルヲ知ルモ番地號ヲ諳センズ『何番地だか何も知りません』ト答ヘ父ハ『小さい時に死んだ私の六つの時です』名『吉だ』實は○兵衛(母ハ『まだ生きて居てもう年よりですもう五十です』名ハ『よし』(正シ)兄弟ヲ問フニ『せなが死んだ子が一人あつて其嫁がある其嫁の年はらん名ハ『おそめ』ソメハ被告ガ兄ノ妻ナリ』弟御染といふかみさまの娘に婿を取つた』(○メノ子○ネハ婿○)藏ヲ迎ヘタリ)婿ノ名ヲ知リ其生レシ家ノ姓ハ知ラズ

此處(監獄)ヲ警察ナリト考ヘ目下何月ナリヤ何日ナリヤ何時ヨリ此處ニ居ルヤヲ明カニ知ラズ錢勘定

ハ出來ズ一錢ニ二錢ヲ加フルヲハ『二錢ですか三錢ですか四錢ですか』ト計算シ一錢ノ蜜柑ヲ十買ヘバ『五錢だ』ト答ヘ『買物ハ皆んな書き付けて貰つて行く』家では馬鹿くだと云てるからね』ト笑ツテ且サモ得意氣ナリ猶診察中被告ノ計算能力ハ實ニ思フヨリモ甚シキヲ發見セリ即計數ハ口ニテ一ヨリ十マテヲ言ヒ得ルノミ指折數ヘテ勘定スルヲマテ困難ニシテ大抵口ニ言フ數ヨリモ手指ノ方ヲ一本餘計ニ折リ又ハ伸バシ一カラ七八ニナルト指ト全ク一致セズ指ノ方ハ僅ニ一本位殘シテ口ダケニテ數ヲ十マテ言フナリ

『どーして此處へ来たか』ト問ヘバ『○○市の警察で○藤○藤○雄ヲ指スカ)がおまへ火をつけたらうつて人を馬鹿にして此處へ連れて来た、つけどもしいに火をつけたつて』ト云ヒ其時日ヲ問ヘバ三月三日ナリト云フモ(此時ニハ○藤○藤○部ハ直接此逮捕に關係ナシ、調書中同警部ノ名ヲ見ルハ○野○太郎方出火ニ關スル檢視調書ナリ)其時刻ヲ問ヘバ『夜のと云ひ(ヤ、考へ)もう晩かつたね五時頃だもう遅かつた』實ハ三月一日午前二時三十分)放火ノ場所ヲ問ヘバ『畑○藏ノ家ナリト云ヒナガラ一方ニハ』○藤○藤○部ガマツチで付けたらうと云つた』火なんぞを付けると家に置かないと云ふから私は火なんぞはわるさしたことはない』山へ漆の木をひきに行つた歸りて○藤○藤○さんと探偵とにあつた』三月六日○田○警部ノ捜査報告書(参考)放火ノ非ナルヲ告ゲ其理由トシテ被告ガ稱スル所ノモノヲ見ルニ『そーすると家に歸れないから』火をわるさすると巡査につかまつて連れて行かれるから』山なんか火を付けると自分の家ばかりでなくよその山まで廣がるから巡査に小言を云はれる』家では一生歸

られないと云ふから火をおもちやにしたことはない』等ナリ、具象的ノ觀念ハ記憶ノ割ニヨキ爲ニカ
 ナリニ存在シ近所ノ山川又ハ土地ノ名稱日常生活ノコナトハ兎ニ角ニ人ニ向ツテ之ヲ答フルコトヲ得
 是等ノ症狀ニヨリテ之ヲ考フルニ被告ガ精神癡呆者タルコトハ明白ナリトス、而シテ此精神癡呆ハ果シ
 テ如何ナル性質ノモノナリヤト云フニ○内警部ノ意見書ニハ之ヲ生來ノ白癡ナリト云ヒ家人等モ亦余
 ニ向ツテ同様ノ陳述ヲナセリ又之ヲ現在ノ症狀ニ察スルモ其後天性癡呆即チ精神尋常者ガ精神病ニ罹
 リ其結果トシテ生シタル癡呆ニアラサルコトハ明ラカナリ後天性癡呆ニシテ智識ノ程度此ノ如ク甚シ
 ク缺損スルトキハ其日常生活ニ於ケル處置モ亦遲鈍ナラザルベカラズ被告ノ如キハ其智力ノ甚ク劣等
 ナル割合ニ自己ノ常習セル事柄又ハ其通常舉作ハ唯要領ヲ得ズ又ハ適當ナル能ハズト云フ迄ニテ熱心
 ニ活潑ニ之ヲ處置スルコトヲ得ルナリ、若シ又假リニ之ヲ後天性癡呆ナリト假言スルトキハ第二ニ生ス
 ベキハ其發病時ナルベシ、此ノ如キ高度ノ癡呆ヲ呈スルニハ急劇ナル疾病ニ罹ルカ又ハ長時精神病ニ
 罹リ居リタル後ニ於テ初メテ之アルヲ得ベキモノナルニ被告ハ其既往歴ニ於テ嘗テ劇甚ノ身體的又ハ
 精神的疾病ニ罹リタルコトナキヲ以テ此癡呆症ヲ呈スルニハ之ニ前驅スル精神病ハ餘程以前ヨリ持續シ
 タルモノト看做サルベカラズ又其癡呆トテモ此程度ニ至ルニハ數年ノ經過ヲ要スルコト通例ナリトス
 然ラハ即チ被告ノ癡呆ヲ以テ先天性トスルモ後天性トスルモ其發病ガ生來ナルト數年前ニアルトノ差
 ノミニシテ本件ノ鑑定問題ニ對シテハ法律上ノ效果ハ同一ナルヘシ
 被告ガ家人(兄ノ妻タル○島○め及其娘○ね)ノ陳述ニヨレハ被告ノ父ハ大酒家ニシテ一日ニ三度モ五

度モ飲ム程ナリシガ六十二歳ノ其結果吐血ニテ死亡シ其兄弟他ニモアリシナランガ一人ハ六十四歳
 ノ其老死セリ母ハ八十五歳ニシテ健存スルモ十年前ヨリ老老シムルコトシテ優遊シむづかしくやか
 ましやナリ其兄弟ハ七人モアリシガ皆幼時ニ死亡シタリ、祖父以上ノ遺傳歴ハ明ラカナラズ被告ハ兄
 一人アリシガ四十歳ノ時肺癆ニテ死去セリト云フ之ニヨリテ觀レハ時告ハ遺傳ノ爲ニ禍累ヲ蒙ルコ
 トハ殊ニ甚シトハ云フベカラサルニモセヨ亦輕視スベキモノニアラズ
 又被告ノ既往歴ハ甚簡單ニシテ詳細ヲ盡スヲ得ズ殊ニ其幼時ハ明ナラズト雖モ被告ガ身體強壯ニシテ
 嘗テ記憶スベキ程ノ疾病ニ罹リタルコトナク唯○島○めガ同人ノ明治十四年○島家ニ嫁シタル時ヨリ以
 來被告ノ精神作能ハ一步ノ佳境ダモ示サス殆ント同一程度ニシテ同一症候ヲ呈シタリト語ルヲ聽クノ
 ミナリ

是等ノ遺傳歴既往歴ニヨリテ之ヲ現在ノ徵候ニ參考スレハ被告ガ白癡即チ先天性癡呆症ニ罹リ居ルコ
 ト殆ント疑ヒナク身體徵候中頭顱ノ異形胸膈ノ左右不均ノ如キモ亦幾分カ之ヲ證明ス、而シテ其癡呆ノ
 程度ハ如何ト云フニ其ハ頗ル高度ノモノニシテ之ヲ兒童ニ比スレハ七八歳或ハ其以下ノモノト匹敵ス
 ト云フヲ可ナルガ如シ即チ被告ニ於テハ觀念即チ思想ノ發達極メテ不完全ニシテ具象的觀念即チ形象
 數量ニ現ハレタル事物ニ對シテスラ其思想ハ十分ニシテ抽象觀念即チ無形ノ高尚ナル思想ニ至リテハ
 殆ント皆無ナリト云ハサルヲ得ズ、從ツテ是非善惡ノ觀念及判斷ハ殆ント之ヲ缺キ僅ニ口舌ノ上ニテ
 ハ是トカ非トカ又ハ善惡ナドヲ稱シ得ルト雖モ而モ何ヲ是トシ何ヲ非トシ何ヲ善惡ト認ムベキカニ就

キテハ更ニ判断ヲ有セザルナリ、此ノ如キハ彼カ放火ノ非ナルヲ説明セル言及ビ警察官及判事ニ向ツテ舉ケタル放火ノ理由ノ如何ニ簡單ニ無邪氣ナルカヲ見バ明瞭ナルヘシ抑此ノ如キ精神遲鈍ナルモノノ傍人ノ言語舉作ニヨリテ自己ノ意志ヲ容易ニ左右サレベキコトハ明白ニシテ已ニ〇内警部モ『他ヨリ強ヒラルレバ何事モ其意ニ從フ風アリトノ聞ヘアル』ト意見書中ニ記載シタリ、而シテ彼ガ猶比較的ニ能クスル記憶ノ如キモ其甚タ不完全ナルコトハ彼ガ明カニ他人ノ責任タル出火事跡(〇本方出火ヲ云フ)ニ關シテ自己ガ之ニ關係セルコトヲ陳述シテ而シテ其陳述セル事柄モ明カニ事實ニ相違スルコトアルヲ見テ知ルベキニアラズヤ

抑白癡者ニハ放火犯ヲナスモノ比較的ニ多キモノニシテ或ハ人ニ使喚セラレ或ハ單一ナル興味(火ノ焚ユルガ面白サニ、又ハ警鐘ノ鳴リ人ノ騒クガ面白サニ)等ノ爲ニ茲ニ至ルモノアリ而シテ被告モ亦其一人タルニ漏レサリシナラン、然レモ其放火ヲセシカ明治三十七年十一月以後三十八年二月迄ニ連續シタルハ是レ一定ノ機會ヲ得テ初メニナセシ放火ノ誘發トナリテ被告ノ精神ニ一時的傾向ヲ生シ從ツテ此ノ如キ結果ヲ生シタルナルベク是レ從前ニハ被告ニ此惡習慣ナカリシ所以ニシテ今後ニ於テモ亦此惡習慣ハ永續スルコトナカルベシ故ニ今後被告ノ此惡習慣ヲ防衛シ得ルト否トハ傍人ガ被告ヲ監督スルノ適當周密ナルト否トニアリテ存スベシ

以上ノ理由ニヨリテ余ガ下セル

鑑定

ハ左ノ如シ

被告〇島〇次郎ハ白癡者ナリ

明治三十七年十一月頃ヨリ三十八年二月頃迄ノ間ニ於テ知覺精神喪失ノ状態ニアリ

此鑑定ハ明治三十八年三月十五日著手同年四月十七日終了ス

東京帝國大學醫科大學教授

明治三十八年四月十七日

醫學博士 吳

秀 三

右被告ハ免訴ノ豫審決定ヲ受ケタリ

第二十例 謀殺未遂犯被告人〇倉〇太郎鑑定書

明治三十八年二月二十七日〇〇地方裁判所豫審判事〇榮ハ同地方裁判所書記〇崎〇郎ト共ニ同裁判所豫審廷ニ於テ余ニ命ズルニ謀殺未遂犯被告人〇倉〇太郎ニ關シ左ノ件ヲ鑑定スベキコトヲ以テセリ

一 被告○太郎明治三十八年二月二十一日午前五時頃其妻子及妻ノ母及妹ヲ殺害セントテ木刀ヲ持ツテ毆打シタリト云フガ其犯罪ノ當時ニ精神喪失ノ状態ニアリタルヤ
一 鑑定ノ當時精神ニ異狀ナキヤ

之ニ由リテ余ハ○○地方裁判所及監獄署ニ臨ミ被告人ヲ檢診シ其關係者ヲ尋問シ其調書ヲ參考シテ此鑑定書ヲ作レリ

(一) 事 歴

- 縣○○郡○○町大字○○○○番地
- 橋○一郎方同居
- 縣○○郡○○村大字○○○○番地
- 村○藏方寄留

平 民 ○ 倉 ○ 太 郎

明治四年四月二十二日生

右者明治三十五年九月以來其妻○げ(明治十六年十二月生)ト右肩書ニ記セル通り○村○藏方離屋ニ寄留シ二人ノ間ニハ○(明治三十六年十二月生)ト云ヘル男子アルモノナルカ明治三十八年二月二十日常ノ如ク妻ト共ニ牀ヲ並べ臥セシガ夜中其場ニアリシ木刀ヲ以テ其妻及ビ其抱キ居ル○一ヲ毆打シ頭部其他ニ重傷ヲ負ハシメ續テ廊下傳ヒニ母屋ニ至リテ此ニ臥牀中ナリシ妻ノ母○村○せ(慶應元年十

二月生)及ビ妻ノ妹○く(明治二十四年二月生)ヲ同木刀ニテ毆打シ負傷セシメタル後雨戸ノ明放シアリシ處ヨリ庭ニ出デ尋ギテ離屋ナル我室ニ歸リシトキ出張ノ警察官ニ取押ヘラレタリ
檢證調書及ビ○根○雄ノ鑑定書ニヨレバ妻○げハ左上眼窠部前額軟部及骨部左眼ニ打撲傷アリ額骨ニ芒線狀破碎アリテ腦内ニ出血シ(二月二十七日遂ニ死亡ス)長男○一ハ前額ノ中央矢狀方向ニ一個内耳ヨリ外聽道ニ出血アリ此二人ノ居リシ室内ハ天井障子器具等皆迸飛セル血液ニ灑揮セラレテ慘憺見ルニ忍ビサル程ナリ又母屋ノ一室ニハ此ニ敷ケル布團ニ血痕アリ其隣室ニハ多量ノ血液盛ニ附著セリ○村○せノ創ハ左額左顛頂中央左顛頂矢狀縫合ノ邊ニアリ○村○くハ左顛骨部ニ負傷セリ

(二) 履 歴

被告○倉○太郎ハ○○小學校長○川○二○○唱歌專門學校○○縣師範學校○○町學教唱歌講習會○○縣私立教育會○○郡學事會等ニ於テ小學科漢文歷史音樂教育算術普通學物理化學博物遊戲農業等ヲ修業シ明治三十年五月十八日○○高等小學校補助教授トナリ同三十一年○○尋常小學校准訓導トナリ同三十二年○○小學校准訓導又○○小學校准訓導後訓導トナリ同三十三年○○小學校訓導トナリ三十三年六月八日病ノ爲ニ休職トナリ同年十一月十四日復職シ同三十五年七月十七日○○小學校尋常科訓導ヲ拜命シタルモノナリ(履歷書)

(三) 被告ト被害者及其家族トノ關係

被告ハ明治三十五年九月ヨリ前記ノ通り○村○藏方ニ同居シ右離屋ニ居リテ○○村小學校ニ通勤セリ

其當初ハ○藏ノ父○藏猶ホ健存シ被告ト共ニ酒ヲノミ懇意トナリテ○藏ノ長女タル○げヲ被告ニ遣ハスノ約束ヲナシ明治三十六年三月頃ヨリ被告ハ右○げト同棲シ其後七月頃ニ至リテ○室○太郎ヲ媒酌人トシテ結婚ノ式ヲ舉ゲタリ被告其他ノ言ニヨルニ其當初○村○藏ハ地所家屋ヲ被告ニ分ケ與ヘテ分家ニスルト云ヒ居リ被告モ其希望ヲ有セシガ後ニ至リ○藏ハ被告ガ村民トノ交際下手ナルヲ以テ前言ヲ取消シ分家スルヲ不得策トシ○げノ仕度金トシテ畑地一反歩程ヲ分ケテヤルト云ヒシガ被告ノ言ニヨレバ其名義ヲ書キ替ヘザル内同年八月○藏死亡シタルガ爲ニ其儘ニテアリシガ後ニ至リテ○藏ハ此意志ニ基ツキ畑地一反歩程ヲ被告ニ分與セリ

被告ト其妻ノ實家トノ親疎關係ニ付キテ見ルニ被告ハ前記ノ如ク○村○藏ノ口約ノ履行セラレザルヨリ茶吞話トシテ之ヲ○村○藏及ビ○村○セニ語リシコトハアルモ前約アル故ニ家宅地所ヲ分ケ吳レト迫リシコトハナシ又下文ノ離別談ニ付○室○太郎ガ口ヲ利キシトキモ被告ハ地所家屋ノコトハ話サザリシ而シテ被告ハ之ヲ『欲しき爲に打つたと云はれますから其様なことは話さず』ト辯解セリ(被告云)又離別談ハ前後二回アルヲ以テ同時ナルヤ又別ノ時ナリヤ調書面ニテハ不明ナルモ○室○太郎及ビ○村○藏ノ言ニヨレバ被告ハ離別談ノ際ニ『父の生存中に宅地を貰ふ約束をしたけれども死亡した後であるから彼は云はない』ト諷シテ云ヒタリト云ヒ○村○次郎ノ言ニヨレバ其時此約束ノコトヲ○村○セ及○藏ニ問ヒタルニ二人ハ之ヲ無根ナリト云ヒシカバ○次郎ハ自分ハ約束履行ヲ此二人ニ命令スルコト能ハズト被告ニ傳ヘシニ被告ハ『○藏の死したる今日に至りて呉れとは云はない』ト言ヒタリ(○

次郎ノ言)又被告ハ明治三十七年秋頃ヨリ酒ヲ飲ム毎ニ母屋ニ至リ『土百姓だとか何だとか云つて』暴言ヲ吐キシコト度々アリ(○藏ノ言)○藏ハ嘗テ(三十七年十二月中)○次郎ニ對シテモ被告ガ母屋ノ方ニ來リ偶々亂暴ノコトヲシテ因ルコトヲ語リ之ニ因リテ○次郎ハ被告ガ屢々亂暴シテ○げモ○藏モ困ツタト證言セリ、被告ト被害家族トノ關係此ノ如クナルガ故ニ被告ハ其住居ヲ○村家ヨリ無賃デ借り居ルニモ拘ラズ米ハ○和カラ買ヒ薪ハ他村カラ求メ○村家トハ何ノ取引モセズ○村家ニテハ多少ノ米ハ賣ルコトモ出來ルガ賣テ吳レトモ云ハネバ強テ買モセズト云フ(○藏云)

被告ト妻ノ母○村○セトノ親疎關係ニ付キテハ被告自ラ平素不和ナリシコトヲ語リ『自家が離家を無賃に借りて野菜等を貰つて食べる爲めか知れませんが之に對し交際上の習慣等を相談しても一向に取合つて呉れず○藏に相談せよと拒絶しました』ト稱シしげ自身モ『喧嘩致しません平素○太郎と一言葉も餘り交ません位です』『不和ではありませんけれども私は何事も申しません』ト陳述シ○室○太郎モ二人間ヲ『睦くなき様子』ナリシト云ヒ被告ト○藏トノ間モ校長ノ言ニヨレバ風評ニ從フニ不和ナリト云フ被告ノ實母ハ妻ノ母ト被告トノ間ハ別ニ何トモナカリシト余ニ言ヘリ

被告ト其妻○げトノ親疎關係ニ付キテ見ルニ明治三十七年八月○げガ諸道具ノ配置座敷ノ掃除ノ仕様衣類ノ始末又ハ子供ノ取扱ニ付キ餘リニ被告ノ言ニ從ハザリシトテ妻ヲ毆打セシヲアリ其砌○げハ○室○太郎方ニ至リ『亭主に打たれたから離縁した』ト云ヒ○室ハ之ニ付キ被告ノ意見ヲ質セシニ『疝癪を起して亂暴して後悔し居る』トテ詫ビタル爲メニ夫婦間再ビ折合付キシガ(○室言)同年十二月

○げヲ毆打シ○げハ逃ゲテ母ノ處ニ至リ母ハ再ビ○太郎ニ『氣に入らざれば離別し呉れ』ト頼ミシニ
 (被告云)○太郎ハ『其様度々喧嘩するなれば離縁がよい』ト云ヒ親類ノ者一人立會ハスルヲ可トシテ○
 村○次郎ヲ頼ミ共ニ口ヲ利キシガ此時モ被告ハ『疔癩を起して亂暴して職務に對しても恥入るから内
 々に願ひたい面目ない』ト詫ビタル爲ニ離婚スルコトナクシテ事濟シタリ(○太郎、○次郎ノ言)○村
 ○藏ノ調書ニヨレバ法庭ニ於テ被告ガ其妻ニ對シテ『亂暴を致して致方ありませんでした』ト陳述シ被
 害者ノ一人タル○村○せハ被告ガ其妻ヲ毆打セシハ此十二月以前ニ度々アリシモ『其後は打擲は致し
 ません』ト陳述シ又被告ノ實母○橋○うハ被告ガ『其初めは妻を貰ひ損なつたと云ひ居りしが子が出
 來てからは子が可愛から往生しよう』ト云ヒ居タリト余ニ語レリ

之ニ由リテ之ヲ觀レバ被告ト被害者及ビ其家族トノ間ニハ其關係全ク圓滑ニシテ少シモ不和ナラズト
 ハ云ヒ難キモ亦甚ダ不和ナルガ爲ニ殺害行爲ニ至ルマデニアラザルモ亦明カナリ

(四) 加害ニ關スル被告ノ思想及ビ追想

被告ガ兇行ノ直後又ハ其以後ニ於テ其兇行ニ關シテ如何ナル追想ヲ有スルヤヲ檢スルニ被告ハ兇行ノ
 當日○判事ノ問ニ答ヘテ『本朝未明妻の生家たる○村○藏方の離家に於て確かに妻子を毆打し引續き
 母の寢間に行き母を叩きました』ト云ヒ且其理由トシテ舉ゲタルコトヲ聞クニ『○○村に○村○十郎
 とて東京に小學校教員をして居るものありて(此人ガ)○○村に轉任せんとして私を斥くる模様もあり
 且一家に於ては妻の生家に居る故に互に其過失が見えて餘り面白くなく本年二月より心に懸けて不眠

症になつてました且妻は近來私の舉動を伺はんとする様子ありて私が嫌でありし酢の物などを澤山に
 作る事もあり又酒は禁じて居るに拘らず酒を戸棚に仕舞ひ置く事などありて如何にも私を計る如くあ
 りました是れ畢竟妻の母が教唆するならんと考へて私も他に適當なる所あらば轉校せんと思つてました
 ……昨夜九時頃眠に付き眠りては又覺め致して居り今朝夜明方になりて目覺めたる所妻は例の如く
 戸棚を開けて何か致してましたから私を計ることと思つてました妻は蒲團の中に這入り子供を抱いて
 寢てましたから私は殘念に思ひ心張棒として用ひ居たる木刀を取つて豆ランプの暗き光りで手當り次
 第に妻を叩き…其より廊下を歩み本屋の座敷に行き豫て怨みに思つて居たる母を叩きました』ト
 云ヘリ

被告ハ又後日余ノ問ニ對シ『妻を打つたとは幾分夢の如く覺えて居ます廊下を傳ふて行きしは覺えて
 居る様ですそは人影を見ても追つ掛けて行つたのです』妻が外のものと共謀して己を打つかと思つた
 からヒョット打つ氣になつた子供を打つたことは知らないそれからど一とも著かず寢卷で寒いから著
 物を著たりそれから庭の方へ人に連れられて出た様に思つたそれからよくなつてから思ふと駐在所へ
 曳かれたことを覺えて居るそれから途へ出て師範學校か中學校へ行つた…それから跡で歸つて
 來たと思ふか此處(監獄)に居るから然し此處へ來たのでせう…監獄の先生(監獄醫ヲ云フ)が來ら
 れた時に氣分が大に快くてそれから始めて氣が付いた自分も妻を打つた覺えがあるが爲で此の如きで
 あるが然し打つた位で監獄に入る譯はない出して貰ひたいと云ふと看守に請求した様に思ふ』他に

打つた人を覺て居ません」ト云ヘリ之ニ由ツテ是ヲ觀レバ被告ノ其兇行ニ及ビタルハ何か其妻又ハ妻ノ母ノ所行ニ對シテ自分ニ不利益ヲナスモノト考ヘタルニヨルカ如ク而シテ其兇行ニ對シテ充分ニ明瞭ナル追想ヲ有セザルカ如シ是レ或ハ精神ニ障礙アリテ此ノ如クナルニハアラズヤ之ヲ明カニ判斷セントスルニハ先ツ第一ニ被告ノ人トナリヲ明カニスルヲ必要トス

(五) 被告ノ既往病史

甲 遺傳關係 父(○橋○治)ハ傷寒後ニ精神病ニカ、リシコトアリ明治三十五年一月中六十六歳ニテ卒中ノ爲ニ死セリ彼レ平生ハ酒客ニアラズ喘息持ニシテ始終病身ナリシカ其後三十歳頃ノトキ傷寒後ニ發狂シテ六十日間ニシテ全治シタルガ其症狀ハ多クハ抑鬱緘黙ニシテ時ニ起リサメアリ起ルトキハ自覺亢進シテ時ニハ人ニ飛掛ルコトアリ後ニハ自カラ凡人デハナイト云ヒ居レリト云フ此發狂時○太郎ハ未ダ生レザリシ被告ハ唯之ヲ母ヨリ聞知ルノミ

死セリ

父ニハ弟二人妹二人アリ其一弟ハ疝症強ク精神病的體質ノ人ナリシカ四十歳ノ頃死亡シ又一弟ハ健存スレド其長男某ハ三十歳ノ頃ニ精神病ニ罹リシコトアリ父ノ一妹ハ健存シ尙一妹ハ五十ノ頃肺炎ニテ

内祖父(○橋○次)ハ二十六歳ヨリ四十六歳マデ精神障礙アリテ初メハ自殺企圖ナドモ屢セシガ後ニハ癡呆トナリ急ニ腸胃症ヲ起シ監禁セラレゲルマ、死亡セリ被告ハ殆ンド此人ヲ見識ラズ

内祖母ハ其死セル病症不明ナリ

外祖父ハ酒客ニシテ且酒亂ノ性トリシガ四十二歳ノ時三月ヨリ六月マデ發狂シ居リテ終ニ死亡セリ
外祖母ハ寸白ニテ死亡セリ

父ノ祖父ノ妹ノ孫ニ當ルモノ(男子)二十年來發狂スト云フ

被告ニ兄弟三人アリ被告ハ第四子ナリ第一ハ女子ニシテ健存シ寸白アリ肩張り腹ツル其子ハ五人アリ其中二人ハ夭死セリ第二ハ男子(○橋○太郎)ニシテ健存シ其子ハ五人アリ一人ハ死産一人ハ眼病後患ニテ死シ三人ハ存在スルモ一人ハ頭重ヲ常習トス其三ハ男子ニシテ六歳ノ時夭死セリ

被告ノ子一人(○一)ハ健存スルモ未ダ立ツ能ハズ自分ノ好ム人ニ向ツテハ二三歩モ行ケル位言語モ少ナク(ま)ち(ま)ヨリ他ノコトハ殆ンド言ヘズ別ラナク陰ル位ニテ言葉ノ初位ナリ

乙 既往歴 被告ハ妊娠九ヶ月ニシテ出生ス幼時ハ病身ニシテ羸瘦シ疝症ニテ激悶シ易カリシ瘧瘵發熱等ノコナク麻疹種痘ヲナシ十二三歳ノトキ疥癬ニカ、リシ外ニ記スベキ程ノ疾病ニ罹リシコトナシ其後十五六歳迄ハ強健ナリシガ始終疝強ク且疑性ナリシ十六歳ヨリ弱クナリ二十歳位ニナリテヨリ追々丈夫ニナレリ平生肩癰アリ背ヨリ頸ニコル酒ハノマズ時ニ機會アルトキ飲酒スルノミ
明治三十三年春季初メハ頭痛ヲ訴ヘ居リシガ疑心深ク影デ噂ヲスルモノガアルナド、云ヒ近所ニ火事

ガアルト」分が放火したと疑はれた」ナド、云ヒ或ハ人ガ己ニ不利益ナラヌヲ目論見ハセカ害ヲ加ヘハセヌカト疑フ、誰彼ト云フコトナク懸念ノモノヲ敵視シ親兄弟ノ心マデモ疑ヒ不圖家出シテ五六日不在ナリシコトアリ歸リ來ツテハ自カラ「高き山に登り大きな川へ行つた」ト云ヒ又「兵隊が多勢居て己の方へ鐵砲を向けた」ナドト云ヒタリ其後病勢募リ親父ニ棒ヲ以テ打チカ、リシコトアリ又按摩ニ揉ミテ貰ヒ後後ヨリ忍ビ行キテ之ヲ椽側ヨリ突落シ「此按摩は己を殺さんとしたから幸き目に遇はせたり」ト云ヘリ同年五月十六日ヨリ五月三十日マデ〇〇町ナル井上(力)病院ニ入院シ居リシガ病院ニ居ルトキモ藥ハ「氣味が悪い」トテ飲マス看護婦ガ悪口ヲキクトカ狂デモナイニ狂ト云フトカ無理ニ狂ニシテ虐待スルトカ云ヒ又連夜不眠沈鬱勝ニシテ時々病室ヨリ飛出セシコトアリ〇上氏モ其取扱ニ困却シタリト云フ(〇上及母ノ言及〇橋〇太郎ノ言)退院後休職トナリテ熱海ニ静養シテ全治セリ

其後ハ頭重肩癢ガ殆ンド常習性ニアリシノミ(母ノ言)彼ハ短氣デ瘡癩ガ強ク平素ヨリ物ヲ氣ニスル質ナリ酒ハ飲マズト稱シナガラ五合位飲ミシコトモアリ酒ヲ飲ミテハ翌朝後ミ又酒ニ酔フテ家ニ歸ルトキ家人其他ニ當ルコトヲ云フコト屢アリタリ明治三十七年秋頃又本年一月頃ヨリハ少シモ飲マズ(〇藏云)〇〇學校ニ在リシキヨリ精神病性質アリテ何事ニモ直ニ怒リ口ヲ曲ゲテ同僚ナドニ打チカ、リシコトアリ(醫師〇根〇雄云)

丙 現病歴 明治三十七年八月頃 ヨリ再ビ精神ニ變調ヲ呈シ人ヲ疑ヒ忌ムノ念ヲ生ジテ不平不安ト

ナリ親戚ガ己ヲ邪魔ニシハセヌカ同僚ガ己ヲ排斥シハセヌカナドノ疑惑心ヲ抱キ感情激發シ易クナリテ妻ヲ毆打セシコトモ一再ナラズアリシモノ、如ク又小學校ニ於ケル授業ノコトニ關シ土地ノ人管理ノ者ノ意ニ滿タザルコトハナキヤヲ懸念シテ己マズ當時自身ニモ病覺アリテ腦病丸ヲ買ヒ服シ居タリ十月頃ニ至リテモ同様ノ症狀ニテ益々學校及村内ノ敵視ヲ心痛シテ慨嘆シ居リシガ明治三十八年二月ヨリ諸症狀一層増悪シ抑鬱、不眠、健忘トナリ周圍ノ事情ヲ皆己ニ敵意ヲ含ミナサル、モノト會得シ他人ノ言ヲ惡様ニ聞キ倣シ同僚ヲ初メ村人妻及ビ其母兄弟ニ對シテ被害的ノ妄想ヲ有シ妻ノ母ハ妻ヲ教唆シテ自己ヲ陥イレントシ妻ハ又他人トモ意ヲ通ジテ自己ノ不利益ヲ謀ラントスルモノトスルニ至レリ

明治三十八年二月十三日〇〇町〇根〇雄方ニ於テ診察ヲ受ケシトキ被告ハ顔貌沈鬱狀ヲ呈シ筋肉皮下脂肪不良ニ發育シ頭重眩暈不眠及消化不良ヲ訴ヘ目視凝然談話遲緩何カ氣遣ハシイ様子デ自分ノ舉動ノヲカシキヲ人ニ藏蔽スル風アリ喜怒哀樂ノ情亦一定セズ精神發揚爽快ヲ覺ユルト同時忽チニシテ沈鬱殆ンド堪フベカラザルエ至ル且疑惑ノ念甚ク平凡ナル事物ニ對シテ解釋ヲ得ルコト難シ昨年秋頃ヨリ記憶力減退不眠精神ノ變換ヲ來シ諸症漸次増進シ目下記憶力全ク消失スルト稱シ既往症ナドヲ問フモ何時何病ニ罹リシカ云ヘヌ位ナリシ(〇根〇雄ノ言及診斷書)

(エハ) 現在ノ證候

甲 身體證候 身體中等榮養不良頭顱ノ形尋常、顔色帶黃蒼白ニシテ貧血シ、眼結膜貧血シ、瞳孔ハ

尋常ヨリ大反應遲少、調節及ビ光線反應ハ尋常ナリ、輕度ノ上顎挺齒アリ左口角ハ右ヨリモ高シ舌尖ニ微ナル震戰アリ口蓋貧血シ構造尋常ナリ懸雍垂下端左ニ不正斜ス慢性咽喉炎アリ上顎ニ數個ノ齶齒アリ左側臼齒ハ四個ヲ失ヒ右側ノ臼齒ハ三個ヲ失フ兩手ニハ羸瘦著ク右側指ハ震戰ス筋肉ハ何レモ皆機械的興奮性増進シ殊ニ大胸筋ニ著シ肺臟ニハ打診上聽診上異常ナシ心尖ハ尋常位置ニアルモ之ヲ見ルベク又觸ルベシ打診聽診上ニハ異常ヲ認メズ唯少シク心機亢進アリ背上左側ニ於テ背柱ヲ去ルニ仙迷ニ上内ヨリ下外ニ斜置セル楕圓形(直徑二及四仙迷ニシテ其中央ニ肩胛骨下端ヲ見ル)褐色斑紋アリ皮膚ノ血管ハ一般ニ刺戟ニ應ジテ興奮シ易ク膝蓋髓反射ハ甚シク亢進ス睡眠食思便通等良好ノ状態ニ在リ

乙 精神症候 顔貌ハ表出ニ乏シクシテ多分ハ不慣性ナリ目視ノ凝乎トシテ一定ノ目的ニ向フテ馳スルコトナキハ猶ホ此容貌ヲシテ一層無表出的ナラシム姿勢稍屈伏シ肢體ノ運動一般ニ活潑ナラズ言語音聲モ亦低ク短クシテ氣力ヲ缺キ意志ハ一體ニ鎮壓セラレテ時々輕キ放逸請求等ノ他ニ欲望主張等ナシ外界トノ應接稍滯滞シ遲鈍ナルモヨク確實正當ニ之ヲ會得ス注意力ヨシ想像力モ常人ノ如ク記憶力ノ減却ヲ告グルモ敢テ病メリト云フベキ程ノコトヲ認メザルモ近事ニ關シテハ稍不確實ナルガ如シ聯想ニ異常ナク判斷辨別ノ機能亦其標的ヲ誤ラズ幻覺妄想追想ノ誤謬等ナク既往ノ疾病ニ對シテ正シキ判斷認識ヲ有シナカラ其結果タル恐ルベク驚クベキ所行ニ對シテ悔恨慚悟ノ色ハ毫末モ之ヲ認メズ拒絶症狀又命令的自動等ノ徵候ナシ

丙 既往歴ノ自白 被告ハ自カラ去秋以來ノ病狀ヲ余ニ向ツテ詳述セリ

『明治三十七年秋に至り再び前回の如き病氣起リ(被告曰ク『前回發病の時の症狀は今と同症にて物に襲はれる如き感がして家に居られず外出せり』ト)物事に分別がつかず氣がせいで一所に落ち付いて居れず何をするでもなく只じり／＼し人の言ひたり爲したりすることの意味がよく分らないで人が何か云ふても如何にしてよいか自分で之に對して言ふすべ爲すすべを知らない様でした(調書ニヨレハ此頃被告ハ妻ニ向ヒ『此處に住み居ては○村で邪魔だろ』ト時々云ヒ居リ又『村の人が己を悪んでるだろ』餘り己がこすいから悪んでるだろ』ト云ヒ(○藏云)被告自カラ腦病ナリト信ジテ腦病九ト云フ丸藥ヲ用ヒ居タリ)

被告自身ノ言ニヨレバ明治三十七年九月中○村小學校長○藤○次郎ガ該校職員ニ二部教授ノ是非得失ヲ相談セシコトアリ其時多數決ニテ二部教授ヲ是認シタルガ被告ハ之ニ反對シ學校ニテ一學級ノモノヲ二學級ニシ二人ニテ教フル位ダカラ之ガ爲メ煩勞多クシテ授業均等ヲ缺クトナシタルモ此ノ如クニ決定シタルヲ以テ被告ハ一層勉強シテ生徒教養ノ成績ヲ擧ゲンガ爲ニ辛苦シタルガ被告ノ言葉ヲ其儘ニ此ニ擧グレバ

『生徒教養の成績を擧げんが爲めに辛苦したのだが其成績がよくないので愈々辛苦をなしそれが爲めに土地の人や管理者にもよく思はれないだろ』と思ひ疑念を起しそれを苦にして氣が落付かずあの學校がいやになりよつて出たいと思つて居たが氣分が優れず體が次第に衰弱して職

に堪へなくなつて來た氣がせかるゝ様になり人の云ふことが何でも氣にかゝり何人も敵に見えてたまらず職員同僚が皆自分の敵に見える學校に居ることが氣が進まぬ〇合〇の人で〇村〇十郎と云つて〇〇府下で小學校教員をして居るものがある是人が自分の郷里に歸りたい爲に自分即ち被告や校長の様なものを排斥して自ら代らんとして居る様に考へました』

實母ノ言ニヨレバ其ヤ是ヤデ『村の人にもいやがられ學校でも嫉がられ機嫌を取り損ね居にくくなつた』ト云ヒ出シ之ニヨリテ『實母が病氣になりし(事實ナリ)故其近所に居りて其看病をしたい』ト云ヒテ〇〇町ノ學校へ轉任シタイト内々運動セシガ思フ通りニナラズ其ヨリ後クヨクシテ『學校の職務に對し濟まない』ト云ヒ『自分が病氣になつた爲に止められはしないか』ト心配シ居シガ十月頃ニナリテモ疑心アリ』トモ病氣でいけな』學校で皆に氣の毒で居にく』年功加俸の寄附をしたらいいだらうか辭職したらいいかしらん』ト云ヒ『そすれば村の人も學校でもわるくは思ふまい自分が意氣地がい爲か學校で馬鹿にされる村の人も學校と協同して自分を除けんとす』ナドト云ヒ而シテ妻ガ色々問合セ見テモ學校ナドニハ仔細ハナカリシト云ヒ〇村〇藏ノ言ニヨレバ被告ハ暮時分時々學校ガ採メテルト家人ニ話セリト云フ其後被告ノ病狀ハ少シモ弛マザリシモノ、如ク彼ガ陳述ニヨレバ

『紀元節であつたか青年會あるときにも出掛けるのがおつくうで氣が進まず遅れて行つたら生徒が皆一同に學校から出てしまつた之に驚いてもう學校へ出勤することが出来なくなり是は自分の成績がよくない爲に誰か私が見えた爲に何うかしたから生徒が一度に出て仕舞ひしならん

と思ひそれから(二月十三日ヨリ)引籠つたがどーも氣が躁立つて堪まらず浦和町の〇根〇雄さんに行き(二月十二日及二月十四日)藥を貰ひや、落付いたが色々な事を取越苦勞をして辭表を出そうか出すまいかで日を経て今の家は狭くて周圍がやかましいから實家へ行きしが都合がよくなかつたから再び我家へ歸つたがそれから兎角何でも人の云ふことが自分のことに聞え氣がせかれて人に困らせられる様な氣がして何も出来ないから休業して居ましたが外へは出られず出ぬと氣が落付かず一室にかゝんで緩つくりして居り靜にして誰にも接せぬと落付いて來る兎角厭世主義であつた世をあじけなく思ひ何もかも入らなくなり妻も何も入らなくなつた自分は社會の人に見棄てられてしまひ體も非常に衰弱した爲に厭世的になりました近所の子供などが傍に來て私が學校を休んでゐるのを悪く云ふ様に聞えた學校を休んだ時に半鐘が鳴つてこれ程に云ふに分らないか早く出ないかと云ふことを聞きました夜になると人が家の周圍に立まわり人の妨害すると思はれたり仕舞には妻や其實家の者が外の者とぐるになつて私を殘害するかと自分で疑ひ夜眠つてから妻が何かいろんな物を戸棚より出したり入れたりする様なことをするそーかと思ふと又側へ行つて外の人と事を計つてする如く思ふ外にも人が居り中へも入つて來るとどこやら自分が製はれる居ても立ても居られぬ様になり世間の人自分が瘡毒のある身である如く云ふが聞える妻の舉動はふだんそーでもないが自分の體が悪くなつてからどーも人がわるくさせるかの如く見え妻が自分の身に毒あるを世間へ示さんとする様に思はれ彼が自分の嫌

な酔の物を作つたり酒を飲まないのに酒の仕度をしたる母屋から徳利を持来りて酒を注いで戸
柵に仕舞ふのは己が實母と謀つて自分を計るのだと思はれたのは學校を休んで二三日の事では
も自分の病氣の爲でそ一思はれたので學校は休んでるが病氣でも何でもなく酒を飲んでながら
休むと云ふ様に見せるものと邪推しました其夜なども何だか妻か外のもの共謀して己を打つ
かと思ひふいと目を覺ました時人影が見えた人は定かに影を認めなかつたが人が入つて來る様
な音がした家の周圍に二三人で戸をたたく音がする外からまで人が入りて來て私を圖ると思つ
たからひよつと打つ氣になつた』

以上ハ被告ガ數回ノ陳述ヲ總合編成シタルモノナリト雖モ被告ノ精神狀態ガ其智力作用ヲ著甚ニ障礙
スル程ノモノニアラズ記憶力注意力等ニハ左程ノ病徵ナキモノ、如ク而シテ其主要ナル徵候ハ其考想
判斷ガ事實ト相副ハザルニアリト云フベシ

(七) 批評

以上被告ガ陳述セル事狀中被告ガ自分ナガラモ半ハ病狀ト認ムル種々ノ考察ハ殆ド皆實際ノ事實トハ
符合セザルモノニシテ〇〇村小學校長ノ言ニヨレバ〇村〇十郎ナルモノガ〇〇村學校ニ轉職セントシ
タルコトナク又之ガ爲ニ被告ヲ斥ケント運動セシモノモナカリシト云ヒ被告自身ニモ『今考へるとそ
一でないが工合のわるい時にはど一もそ一思はれた郷里へ歸りたい爲め校長や私の様なものを出し自
分が入るんではないかと私の僻目で思はれた』ト稱シ居ルナリ又二部教授ニ關シテハ被告ガ其同僚ト

意見ヲ異ニセシハ事實ナルモ其結果土地ノ人ヤ管理者ニモヨク思ハレズ學校デ馬鹿ニサル、トカ村ノ
人ガ協同シテ自分ヲ斥ケントスルトカ信セシモ皆事實上ノ根據アルニハアラズ又人ノ言フコトガ自分
ノコトノ様ニ聞エ氣ニカ、リ何人モ敵ニ見エテ堪ヘラレズ近所ノ子供ガ自分ノ引籠リ居ルヲ嘲リ人ガ
家ノ周圍ニ立廻ハリテ自己ニ妨害ヲナスナドモ他人ヨリ視レバ固ヨリ自分カラモ之ヲ病氣ノ爲ト認識
シ居リテ殊ニ當被告事件ニ關係アル妻ニ對スル疑惑ノ如キモ亦之ト同シキ妄想ヨリ胚胎スルモノニシ
テ妻ガ實母ト計ツテ自分ヲ計ルトカ妻ヤ其實家ノ者ガ外ノ者トグルニナツテ自分ヲ讒害スルトカ考ヘ
妻ガ作リシ酔ノ物ガ被告ノ心ヲ傷マシメ妻ガ戸柵ヲ開閉シテ物品ヲ出シ入レルニ特ニ己ニ不利ヲ與
ヘントスルノ惡意アルモノト誤認シタルガ如キ皆此見地ヨリ出テタルモノナリ

一 此ノ如キハ被告ガ既ニ兇行前ニ自覺シタルコトニシテ彼ハ三十八年二月十二日及十四日ニ於テ醫
師〇根〇雄ニ對シテ『此病氣の起りたるのは役場吏員と教授上の事を争ひしことあり村の經濟の爲め
に二部教授をするが利益なりとの説に反對し其から後は人が談をして居つても自分の事を悪く云ふの
ではないかと思はれ跡で考へると何でもないが其時は凡て人の話がそ一思はれる前にもそ一云ふこと
があつたが今度も同じ事の爲に困めらるゝ』ト陳述セリ又被告ハ(多分其後ナラン)或ル人(衛生組合
長)ヨリ辭表ヲ書イテ吳レト頼マレシガ彼レ自ラ語ラク『これも氣に懸つて自分に辭表を出せと云ふ
ことではないかと考へたり或は家内のものが其人をいぢめた爲めではないかと思つたりしました』ト
是レ皆外界認識ノ錯誤ハ既ニ兇行前ニ存シタルヲ見ルベシ

二 而シテ被告ハ兇行ノ當夜ニ於テモ亦外界ヲ敵視スルノ症状ヲ呈シタルモノ、如ク兇行ノ當日〇判事ニ對シ『種々心配をなしたる爲め此七八日間學校を休んでました處昨夜校長〇藤〇次郎が私の宅に來り學校を休み居るならば辭職せよと申す故に私は辭表を書きたる處校長は今一度考へて見て呉れと申しました』ト陳述スト雖モ校長ノ言ニヨルニ彼ハ被告ガ本月十三日ヨリ缺勤シ其受持級タル尋常四年ノ男子ノ貯金ヲ滯ツテル故見舞旁貯金事務ノ引繼ヲ受クル爲ニ被告ヲ訪ヒシナリト云ヒ校長ハ被告ニ其容體ヲ尋ネシニ今度ハ惡イ様ダカラ病院ニ行キ靜養スル考ヘデアアルト云ヒタルハ校長モ之ヲ賛成シナガラ貯金事務ノ引繼ヲ請求セリ然ルニ本人ハ何カ書シ居リシガ自分ノ爲ニ校務ヲ缺ク様デハ申譯ガナイカラ辭職スルト云ヒテ辭表ヲ出セリ尤モ其日正午十二時本人ハ學校ニ至リ今回ハ長ク靜養スル積ナルガ診斷書ガ間ニ合ズトテ口頭ニテ届タリト云フ(校長ノ言)辭職願ハ本人ノ控書ニヨレバ二月十七日ノ日附ナリ

三 此症状ハ猶ホ兇行後ニ於テモ亦被告ニ存シタルモノ、如ク彼ハ余ニ語ルニ左ノ事ヲ以テシタリ

『師範學校生徒の一同退校するの中学校生徒の一同休校するのと云ふことがありましたが自分が學校に出ずに居り是が是等の學校に及んで自分が學校を休むのを駁する爲にするかと思ひました又自分が教員として妻を打つた爲に師範生中學生なども激昂して此の如くになつたのだから此の生徒にまで謝罪しなければ到底濟まるまいと考へた』

『駐在所へ曳かれてそれから途へ出て師範學校か中学校へ入りましたが何れだつたか分りま

せんが詰り私の學力を試験されるかの如く思ひました然し別に試験を受けなかつたがそれから跡で歸つて來たと思ひます』

被告ガ兇行前及ビ後マデモ如何ニ外界ノ事狀ヲ誤認シタルカハ之ニヨリテ其一斑ヲ知ルベシ此ノ如キハ明ラカニ精神病ノ徵候ニシテ之ヲ吾人ハ妄想ト名ツケ又外界ノ事態ハ之ニヨリテ妄想的推斷ヲ下ナレテ何ノ意味モ何ノ緣故モナキコトヲ自己ニ關係アリ殊ニ自己ヲ侵害スルモノト認知スルナリ而シテ幻覺殊ニ幻聽(事實ニ副ハザルコトヲ聽取シテ自己ヲ誹謗シ又ハ脅迫侵害スルモノトスル聲言トナスガ如キヲ云フ)ハ之ニ伴フテ大ニ其症狀ヲ甚シカラシメタルモノナルガ如シ是等ノ徵候ハ精神病中ニテ早發癡狂ト稱スル疾病ニ最モ多ク認ムルモノニシテ被告ガ呈スル爾他ノ精神及ビ身體ノ徵候モ亦此疾病ニ相當スルガ故ニ被告ガ他ノ精神病ニ罹ルモノトハ認ムベカラズ從ツテ又被告ガ精神病ニ惱ミツ、アルコトハ疑フベカラズ

此ニ唯意外ノ感アルハ被告ガ精神病ニヨリテ前條ニ診定セル如キ被害妄想ノアル間ニ殆ンド完全ナル病識ヲ有スルコトナリ抑精神病者ノ多數ハ自カラ精神病ニ罹リ居ルコトヲ知ラズ即チ病識(能ク如何ナル點ガ如何ニ病デアアルカラ識ルコト)ヲ有セザルモノニシテ其多クハ病覺(唯精神病デアアルト云フ感シ)スラ之ヲ有スルモノナク殊ニ妄想ニ關シテハ之ガ妄想デアアルト云フコトヲ自ラ知レル精神病者ハ殆ンドナキモノナリ藉リニ之アリトスルモ此ノ如ク謂ハバ半信半疑ノ妄想ノ妄想ヲ有スル精神病者ガ其誤想ノ爲ニ殺害其他ノ如キ極端ノ暴行ニ誘致サル、コトハ考へ得ベカラザルコトナリ之ヲ卒然劇發

シタル至急性ノ疾病トスレバ猶ホ考へ得ベキモ去年秋ノ頃ヨリ發シテ漸次ニ増進シ來リテ傍ノ人ニモ
悟リ得ザリシ程ニ徐々ナル經過ヲ取リシ疾病ニ於テハ到底之ヲ有リ得ベキコトト信ズベカラズ
被告ガ自己ノ病狀ヲ語ルニ當リ前ノ記載ヲ反復スルノ嫌アレドモ

『物事に分別つかず氣がせいで一所に落付いて居れず何をすすすべもなく只じりくし』ト云ヒ
『何人も敵に見えてたまらず』ト云ヒ『同僚が皆自分の敵に見える』ト云ヒ『妻や其實家の者が外
の者とぐるになつて私を殘害すると自分で疑ひ』ト云ヒ『妻の舉動はふだんそーでもないが自分
の體が悪くなつてからどーも人がわるくさせるかの如く見え』ト云ヒ『妻は實母と謀つて自分を
貶すのたと思つたのは學校を休んで二三日のことでも自分の病氣の爲でそー思はれたので病
氣でも何でもなく酒を飲んで休むと云ふ様に見せると邪推しました』ト云ヒ皆精神病者が自分
ノ徵候ヲ人ニ話ス口振デハナク皆一々正當判斷下シナガラ話説スルナリ彼ハ又余ニ對シ『妻
を打つてなくなつて仕舞つたと聞たに付て精神異常と云ふことが分つてゐるから謝罪して示談に
したらよいだらうと思ひました』

ト云ヘルガ是レ果シテ精神病者ノ口吻ナリヤ且又是ハ兇行後ヨリ下シタ判斷トバカリハ思ハレス既ニ
○根○雄ノ診察ヲ受ケシトキニモ被告ハ自家ノ症狀ヲ語リナガラ『人が談をして居ても自分の事を悪
く云のではないかと思はれ跡で考ると何でもないが其時は九で人の話がそー思はれる』ト云ヒタル
ハ前ニハ記載セルガ如ク又法廷ニ於テモ○根醫師ノ診察ヲ受クルニ至リシ理由ヲ擧ゲテ職務上ノ煩勞

ト同僚間ノ不和ニ歸シ『彼れはれ心配した爲めに腦が悪いと思はれ事物に付て間違つた事を爲すから』
ト稱セリ然ラバ則チ被告ハ兇行前ニ於テモ自己ノ病症ヲハ正シク判斷シ居タリ而シテ兇行ノ當夜又ハ
其前ニ其妻○げハ被告ニ異シムベキ舉動アルコトヲ認メヌ(其母又ハ兄弟ハ之ヲ○げヨリ聽カス)○村
○藏ノ言ニヨレバ被告ハ其夜校長歸宅後『何事もなく休みたり』ト云ヒ被告自身ノ言ニヨルモ其夜兇行
ノ際ニ敢テ甚シキ感動ヲ引起スベキ程ノ精神症狀(幻覺ノ如キ)ヲ有セザリシモノ、如クナレバ其精神
症狀ト其兇行トノ間ニハ因果的ノ均衡ヲ得難クシテ其結果ニ比スレバ其動機ノ甚微弱ナルガ如キ觀ア
リトス然ラバ被告自ラ叙述スル所謂妄想ハ果シテ眞正ノモノナリヤ否ヤ猶ホ又被告ハ本年初以後病症
經過中記憶ノ減弱ヲ告ヘシコト一再ノミナラズ○根醫師ニ向ツテモ之ヲ告ゲ余ニ向ツテモ屢々之ヲ訴
ヘテ『都て數に付ての記憶がわるく月日などは到底覚えて居らぬ』(妻が)實母と謀てする様に思はれ
たは學校を休み初めてからの事で學校を休み初めた日などは到底記憶にない』ト云ヒ『目に立つて忘れ
ぼくなつてゐるから餘程落付いて考へぬと思出て來ぬ』ナト云ヒタルカ此ノ如キ記憶ノ障礙ハ早發癡狂
殊ニ其早期ニハ之ヲ見ルコト甚稀ニシテ記憶ハ此病ニアツテハ特ニ或ハ増強スルコトアリ殊ニ其妄想ニ
關スルモノヲ然リトス然ルニ被告ガ特ニ自ラ屢々健忘ヲ標榜スルハ何故ナリヤ彼ハ兇行前ノコトニ付キ
テハ詳カニ煩ニ互ル程陳述シナガラ兇行後ノコトハ十分ニ之ヲ陳述セズ自家ノ病狀ヲ語ルニ詳細ナル
ニ關セズ自家ト妻及其骨肉トノ關係ヲ問ハル、時ハ殆ソド之ニ答ヘズ彼ガ妻ヲ毆打シタルコト之ガ爲
ニ離縁談ニマデ運ビシコトハ余ニ對シテハ之ヲ非認シ『妻は極從順でありますから打つたことはあり

ません』兇行當夜ノ事ノ如キモ之ヲ陳辯スルニ殆ンド之ヲ記憶ニ留メザルガ如ク彼ハ兇行ノ翌日法廷
ニ於テ其妻ヲ毆打シ負傷セシメタルコトヲ明確ニ白狀シナガラ後ニ妄想幻覺ニ對スル病識ノ生シタル
時ニ於テ余ニ對シテハ

『此所(監獄)へ來たときには殆んど分らぬ様であつた快くなつてから氣が付いた○室○太郎さ
ん(面會ニ來レリ)などから聞いて知つた妻を打つたことは幾分か夢の如く覺えて居つた今日に
なつて考へると夢に驚いて打た如き感がある』

ト云ヒテ之ヲ十分ニ記憶シ居ラザルガ如キモノアリ是レ果シテ眞實ナリヤ否ヤ

以上ノ二點ハ即チ人ヲシテ被告ノ精神症狀ヲ多少伴作ニテハアラザルヤト疑ハシムルコトナシトセズ
殊ニ被告ガ余ニ對シ『妻を打つてなくなつて仕舞つたと聞いたに付テ精神異常と云ふことが分つて
から謝罪して示談にしたらいだらうと思へり』ト云ヘルガ如キ明ラカニ自ラ精神病ト認ムルガ如キ
口振ハ如何ニモ異様ナリ且ツハ又被告ト被害者并ビニ其血族トノ平生ノ交際關係ガ餘リ面白カラザル
ガ如キ(前文被告ト被害者及其家族トノ關係參照)彌々吾人ニ此疑念ヲ起サシムルニ足レリ然レドモ
一 被告ノ妄想的判斷ハ彼ガ病識ヲ有シツツ之ヲ吾人ニ陳述スルハ甚疑ハシキモ此ノ如キハ病症ノ輕
快セルトキニ於テハ至クナシトハ云フベカラズ又其余ニ對スル陳述ハ兇行後症狀稍輕快セル時ニ於テ
爲シタルモノナレバ被告ガ病識ヲ有スルハ兇行前狀態ニ於テニアラズシテ多クハ今日ノ狀態ヨリ考へ
テノコトナルベシト思ハル而シテ被告ガ實際ニ於テ被害的ノ妄想ヲ有シタルモノナルベキハ彼ガ去年

秋以來數次其近親等ニ語リタルニ據リテ其近親等ガ承知スルニヨリ又ハ其近親自家ノ經驗スル所ニヨ
リ吾人ハ被告以外他ノ人々ヨリ其妄想的判斷ノ斷片殘緒ヲ知り得タルニ徴シテ明ラカナリ(是ハ前文
既往症中被告ノ自叙ニ附載シタルヲ以テ之ヲ參照スベシ)又兇行ノ當夜ニ於テ被告ガ母屋ノ庭ニアリ
タル○村○藏ヲ追ヒテ『○藏か○藏に用はない皆のものか己れを計る』ト云ヒ次デ又『手前もか』ト云ヒ
テ追ヒ駆ケントシタル(○藏云)如キモ亦被告ノ妄想ハ徒ニ伴作シタルニアラザルヲ證スルニ足ラン
二 被告ノ所謂記憶障礙モ亦至ク之ヲ伴稱ナリトハ云フベカラズ一定ノ妄想アル場合等ニ於テハ患者
ノ精神ハ偏ニ此方ニノミ傾注セラレテ爾他ノコトニハ留意セザルガ爲ニ患者カ往々ニ見聞シタルコト
ナドヲ忘却スルハ自然ノ理數ナリトス又早發癡狂ノ患者ハ屢々其病ノ經過中昏迷ノ狀態ニ陥イルコト
アリ其間ニアリシコトドモハ之ヲ知覺スルコト鈍ク從テ又之ヲ記憶スルコト難キモノナリ今ヤ被告ハ
兇行後一ヶ月餘ヲ隔テナガラ猶ホ其精神恍惚トシテ明確ニ事物ヲ領解シ且之ヲ記憶スルコト困難ナル
コトアリ其實實トシテ二月二十八日○室○太郎○橋○太郎カ監獄ニ被告ニ面會ニ來リテ辯護士ヲ依頼
スヘキコトヲ談ゼシニ被告ハ『○爲○に頼み呉れ』ト云ヒタルニヨリ其ニヨリテ手續ヲナシ三月一日
ニ監獄ニテ辯護士選定屆ニ押印ヲナシタルニ其翌日○橋○太郎カ面會セントキ『何だか昨日辯護士を
頼んでやるとか云ふてうっかり押印をした』ト云ヒ又三月八日被告ハ○室○太郎○村○次郎ニはがき
ヲ出ダシテ本件ノ爲ニ『訴へられたれば示談したき故に來り呉れ』ト云ヒナガラ翌日二人ガ面會ノ爲
ニ監獄ニ來ルヤ被告ハ二人ニ向ヒテ『昨日典獄の所に呼ばれて御前は妻を殺せりと云はれたから示談

に來て呉れてももう法律の制裁を受けなければならん』ト云ヒテ自分ガ示談ヲ頼ム書面ヲ出セシコトハ知ラザルガ如ク『頼んだ覚えはない』ト云ヒ○村ガ『忘れたのだらう』ト云フモ『いや決して頼まない』ト云ヒ居タルガ如キハ皆被告ノ精神ガ多少昏迷セルニ相當シタルコトナリ又之ニ一致シテ被告ニ告ゲ知ラスニ彼ノ妻ガ當夜ノ負傷ノ爲ニ遂ニ死亡スルニ至リ彼ノ子及ビ妻ノ母并ビニ妹ガ共ニ重傷ヲ負ヒタルコトヲ以テスルモ彼ハ毫モ聲色ヲ動カスコトナク更ニ愧ヂ又ハ悔ユルガ如キノ狀ナシ是ノ如キ感情ノ鈍麻ハ早發癡狂ニ特ニ較著ナル症狀ナリ被告自カラ此状態ヲ叙シテ曰ク『監房に入つてから茫然として日のことや敷のことなどは覚えがなくなり一日に樂みもなく悲もなく何の感もない物を食ふも甘くもまづくもない眞に茫然として仕舞ふ』ト

(八) 結 論

是ニ由リテ之ヲ觀レバ被告ガ明治三十七年八月頃以來精神病殊ニ早發癡狂ニ罹リ居ルコトハ明ラカニシテ此病症ニ關シテハ其遺傳ノ輕カラザルコト(父、内祖父、外祖父、外伯父、從弟等ノ精神病母、内叔父ノテ此病質等アリ○既往病史中遺傳關係參照)其既往ニ一度(明治二十三年)今ト似タル精神病ヲ發シタルコト其後常ニ神經病質(頭重、肩痛、短氣、物ヲ氣ニス)ナリシコト(既往病史中既往歴參照)等ハ最モ重要ナル原因及ビ經過ニシテ彼ガ第一回疾病後氣質猶ホ常ニ變リテ癡癡強ク怒リ易カリシコト並ビニ明治三十七年八月以來特ニ妻ニ對シ又妻ノ血族ニ對シテ不安心ト疑惑トヲ抱キ近傍ノ人ニ其間ノ不和ヲ想ハシメシ如キモ亦此疾病ノ徵候トシテ視ルベキモノナリ但其兇行ノ狀況ガ吾人ヲシテ伴作

ニハアラスヤノ疑念ヲ起サシムルハ何故ナリヤ是レ早發癡狂ノ患者ニハ少ナクモ其初期ニハ較明ナル智力障礙ヲ缺クヲ常トスルガ故ニ被告ハ兇行後ニ於テ日ヲ經ルニ隨ツテ自家ノ利害得喪ヲ詳細ニ詮量シ之ニヨリテ自己ノ爲ニ不利益ナルコトハ之ヲ否認シ又ハ知ラズトシテ虛偽相ヒ半ハスルノ陳述ヲナスニヨラズンバアラズ故ニ彼ハ神明即チ意識ノ割合ニ清明トナリタル後ニ於テスラ幾度カ人ニ聞キタルコトヲハ更ニ知ラザル如キ風ヲ裝フコトヲナスナリ故ニ彼ハ自己ノ所行ガ妄想ニ出デタルコトヲハ殊更ニ壓揚言スルナリ是レ被告ガ病識ヲ有スルコトノ吾人ヲ驚慌セシメ其健忘ノ甚キコトノ吾人ヲ疑惑セシメタル所以ナリ而シテ被告ガ明治三十七年八月以來目下ニ至ルマデ早發癡狂ト稱スル精神病ニ罹リ居ルコトハ明カニシテ彼ガ明治三十八年二月二十一日其妻子及妻ノ母及妹ヲ殺害セントシタルハ此病症ノ徵候タル被告妄想ヨリ出デタル行爲ナルコト疑ヒナシ

(九) 目下ノ病狀

目下ノ状態ハ既ニ現在症候中ニ記載スル所ニヨリテ明ラカナリ被告ハ即チ時日場所ヲヨク明知シ自家ノ疾病ヲ認識シ智力運用ノコトニ關シテハ著キ障害ナク今ヤ從前被告ガ抱キ居タル被害的妄想既ニ去リテ却ツテ既往ニ關スル自己ノ謬見誤想ヲ十分ニ覺悟スルモ記憶ハ未ダ全ク強確ナラズ智覺力稍鈍ク意志ハ輕ク感情ハ著ク鈍麻シタル等ノ状態ヨリ之ヲ考フルニ被告ノ疾病ハ未ダ之ヲ全治シタリト認め難ク而モ兇行後ニ於テ其病勢頓ニ減ジテ今ヤ治癒ニ近ツキツツアルモノナリ

(十) 鑑 定